



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

HIACE



イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	8
さくいん	症状から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	33
排気ガスに対する注意	37

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	50
オートアラーム	51

1-4. コネクティッドサービス

T-Connect エントリー (22)	53
----------------------------	----

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	72
計器類	75
マルチインフォメーションディスプレイ	79
燃費画面（マルチメディアシステム装着車）	84

3 運転する前に

3-1. キー

キー	88
----------	----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア	92
スライドドア	96

バックドア	105
スマートエントリー&スタートシステム	113

3-3. シートの調整

フロントシート	118
リヤシート	119
ヘッドレスト	120
シートアレンジ	122
セパレーターバー	127

3-4. ハンドル位置・ミラー・アンテナ

ハンドル	134
インナーミラー	135
デジタルインナーミラー	136
アウターミラー	145
補助ミラー	146
アンテナ	147

3-5. ドアガラス・スライド式リヤサイドガラスの開閉

パワーウィンドウ	148
スライド式リヤサイドガラス	150

3-6. お好み設定

マイセッティング	151
----------------	-----

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	154
荷物を積むときの注意	161

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）	162
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	164
オートマチックトランスミッション	169
方向指示レバー	172
パーキングブレーキ	173

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	174
AHB（オートマチックハイビーム）	177
フォグランプスイッチ	179
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	181
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	182

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	184
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する （Toyota Safety Sense 装着車）	187
Toyota Safety Sense	190
PCS（プリクラッシュセーフティ）	196
LDA（レーンディパーチャーアラート）	203
発進遅れ告知機能	207
RSA（ロードサインアシスト）..	208
レーダークルーズコントロール..	211
クルーズコントロール	219
クリアランスソナー	222
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	228
パーキングサポートブレーキ（前後方 静止物）.....	232
プラスサポート（販売店装着オプション）	234
運転を補助する装置	239
排出ガス浄化装置（ディーゼル車）	244

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	248
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォグターの使い方

マニュアルエアコン	252
-----------------	-----

オートエアコン	257
リヤクーラー	262
リヤヒーター	264
シートヒーター	265

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	266
------------	-----

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....	269
荷室内装備.....	275

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	277
----------------	-----

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	282
内装の手入れ.....	284

6-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口	287
ボンネット.....	289
ガレージジャッキ	290
AdBlue®（尿素水）の補充（ディーゼル車）.....	293
ウォッシャー液の補充	296
タイヤについて	297
タイヤ空気圧について	299
エアコンフィルターの清掃	300
キーの電池交換	302
ヒューズの点検・交換	304
電球（バルブ）の交換	307

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	318
非常点滅灯（ハザードランプ）...	319
発炎筒	319
車両を緊急停止するには	320
水没・冠水したときは	321

車中泊が必要なときは 322

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 323

フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車） 327

警告灯がついたときは 328

警告メッセージが表示されたときは 333

パンクしたときは 339

エンジンがかからないときは 352

キーをなくしたときは 353

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車） 354

バッテリーがあがったときは 356

オーバーヒートしたときは 360

スタックしたときは 362

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 364

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 373

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 383

8-4. フリー／オープンソフトウェア

フリー／オープンソフトウェア情報 384

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 386

車から音が鳴ったときは（音さくいん） 388

アルファベット順さくいん 390

五十音順さくいん 391

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

本書内の「デラックス（2人乗り）」は、キャンパー仕様車などの改造車ベース車両のことです。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、このような改造はToyota Safety Senseのような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面

での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール
取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF送信機の取り付けについては、P.9も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

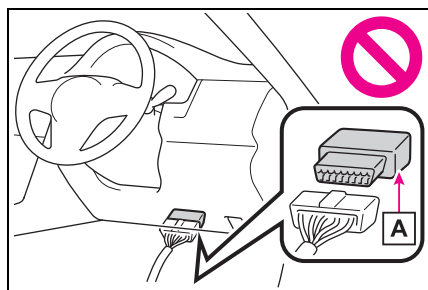
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通してサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出につながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ^{※1}

^{※1}グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況、車速など）

- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）

- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）^{※2}

^{※2}車両には複数のカメラがついていますが、どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- エンジン始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説

明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます。）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。

- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

□ 知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作

動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主

の同意）がある場合

- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してく

ださい。(法律で義務付けられています)

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート(→P.234)の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

QRコードについて

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書(デジタル配信)をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなうCO₂排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブ

レット、携帯電話等にてQRコードを読み取りいただくか、URLより閲覧してください。

URL：<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

高電圧部品に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

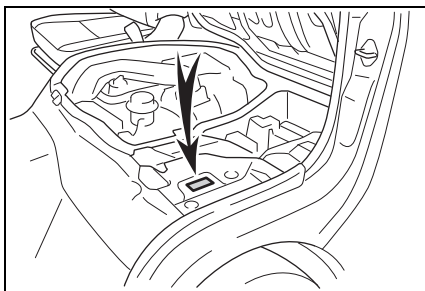
記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。

記号	意味
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

車両の型式を確認するには

車両の型式は、エンジン点検口の製造者ラベルで確認することができます。



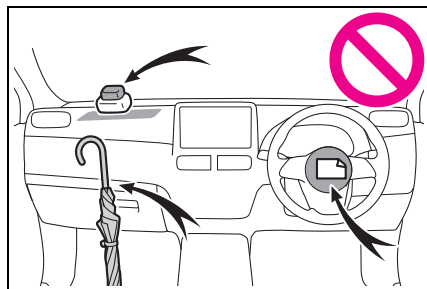
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

本文の記号について

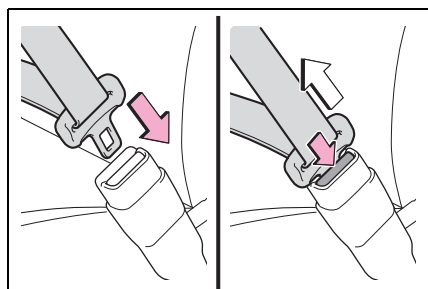
記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

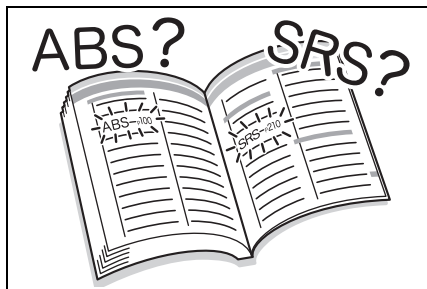
イラスト上の記号について



検索のしかた

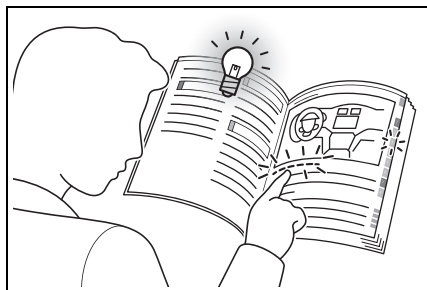
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.391
- アルファベット順さくいん：→P.390



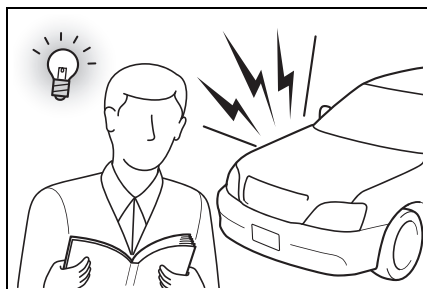
■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.14



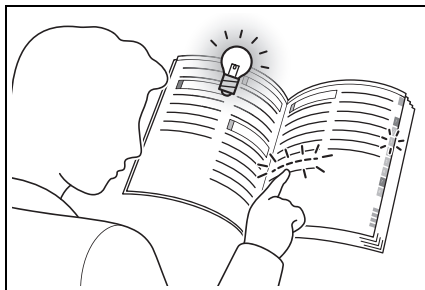
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.386
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.388



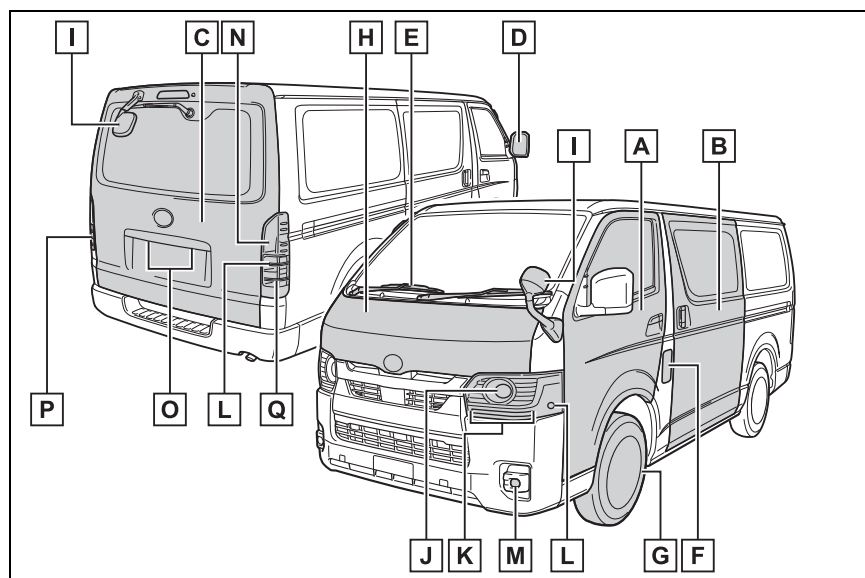
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	フロントドア.....	P.92
	施錠／解錠.....	P.92, 94
	ドアガラスの開閉.....	P.148
	メカニカルキー★での施錠／解錠.....	P.354
	警告メッセージ.....	P.334
B	スライドドア.....	P.96
	施錠／解錠.....	P.97
	スライドドアの開閉.....	P.99
	パワースライドドア★.....	P.98
	スライド式リヤサイドガラス★の開閉.....	P.150
	警告メッセージ.....	P.334
C	バックドア.....	P.105
	施錠／解錠.....	P.107, 108
	バックドアの開閉.....	P.108
	警告メッセージ.....	P.334

D	アウターミラー	P.145
	鏡面の角度調整	P.145
	ミラーの格納	P.146
	曇りを取る（ミラーヒーター）★	P.253, 258
E	ワイパー	P.181, 182
	冬季の注意	P.248
	凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★	P.253, 259
F	給油口	P.184
	給油方法	P.184
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.364
G	タイヤ	P.297
	サイズ・空気圧	P.369
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.248
	点検・ローテーション	P.297
	パンク時の対処	P.339
H	ボンネット	P.289
	開け方	P.289
	オーバーヒート時の対処	P.360
I	補助ミラー★	P.146

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P.307, ワット数：P.371）

J	ヘッドランプ	P.174
K	車幅灯	P.174
L	方向指示灯	P.172
M	フロントフォグランプ（メーカーオプション）★	P.179
N	制動灯・尾灯	P.174
O	番号灯	P.174

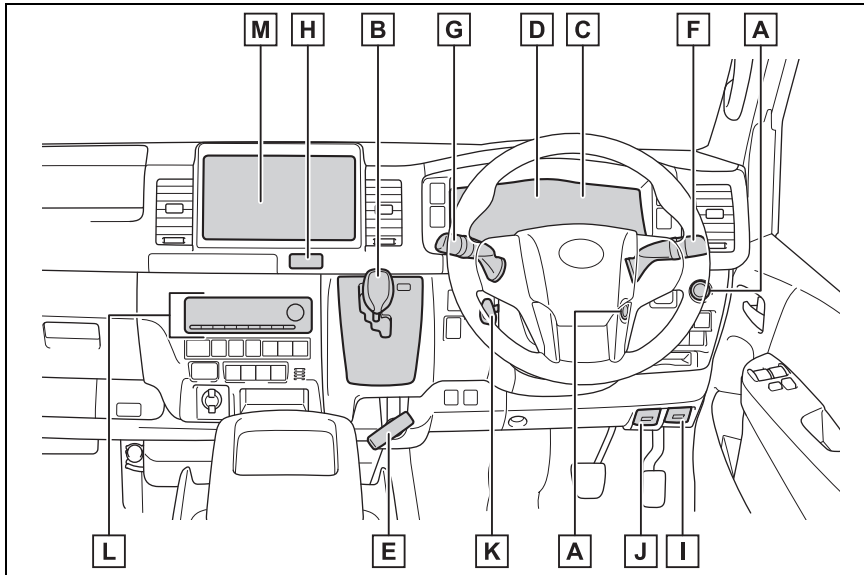
P 後退灯

シフトポジションを R にする P.169

Q リヤフォグランプ★ P.179

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.162, 164

エンジンの始動・位置またはモードの切り換え .. P.162, 163, 164, 167

エンジンの緊急停止 P.320

エンジンが始動できないときの対処 P.352

警告メッセージ P.333

B シフトレバー P.169

シフトポジションの切り換え P.169

けん引時の注意 P.323

シフトレバーが動かないときの対処 P.170

C メーター P.75

見方・明るさの調整 P.77

警告灯／表示灯 P.72

警告灯点灯時の対処 P.328

D マルチインフォメーションディスプレイ P.79

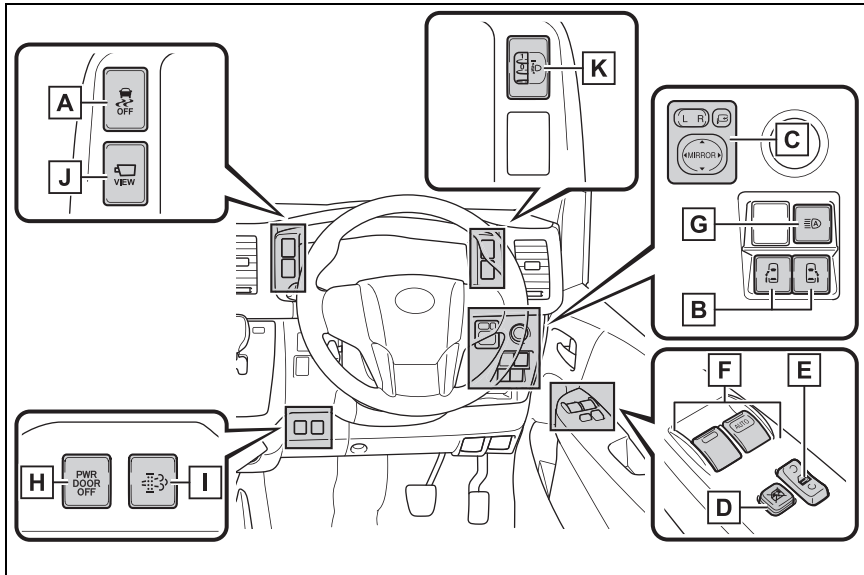
表示内容 P.79

	警告メッセージ表示時の対処	P.333
E	パーキングブレーキ	P.173
	かける・解除する	P.173
	冬季の注意	P.249
	警告灯	P.331
	警告ブザー	P.332
F	方向指示レバー	P.172
	ランプスイッチ	P.174
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯	P.174
	フロントフォグランプ（メーカーオプション）★・リヤフォグランプ★	P.179
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.181, 182
	使い方	P.181, 182
	ウォッシャー液の補充	P.296
H	非常点滅灯スイッチ	P.319
I	給油扉オープナー	P.185
J	ボンネット解除レバー	P.289
K	ハンドル位置調整レバー	P.134
	調整方法	P.134
L	マニュアルエアコン★	P.252
	操作方法	P.252
	リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..	P.253
	オートエアコン★	P.257
	操作方法	P.257
	リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..	P.258
M	オーディオ★※	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

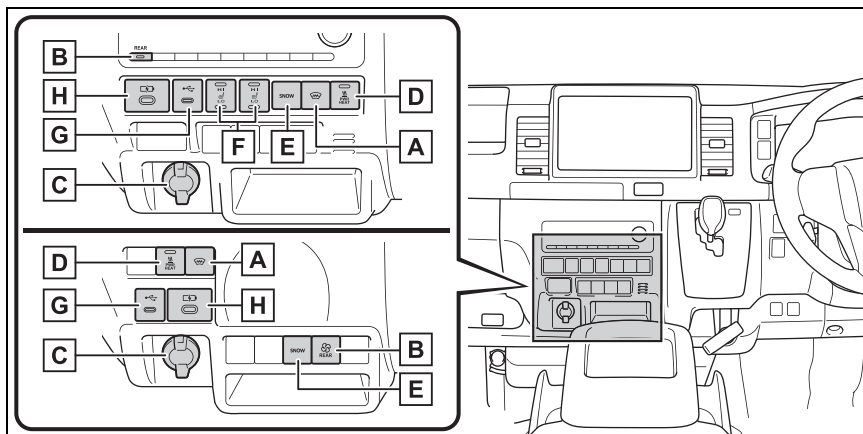
■ スイッチ類



- A** VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ..... P.240
- B** パワースライドドア開閉スイッチ★ P.99
- C** アウターミラースイッチ..... P.145
- D** ウインドウロックスイッチ P.149
- E** ドアロックスイッチ P.94
- F** パワーウィンドウスイッチ P.148
- G** オートマチックハイビームスイッチ P.177
- H** パワースライドドアメインスイッチ★ P.100
- I** 排出ガス浄化スイッチ P.245
- J** パノラミックビューモニターメインスイッチ★※
- K** 手動光軸調整ダイヤル P.176

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

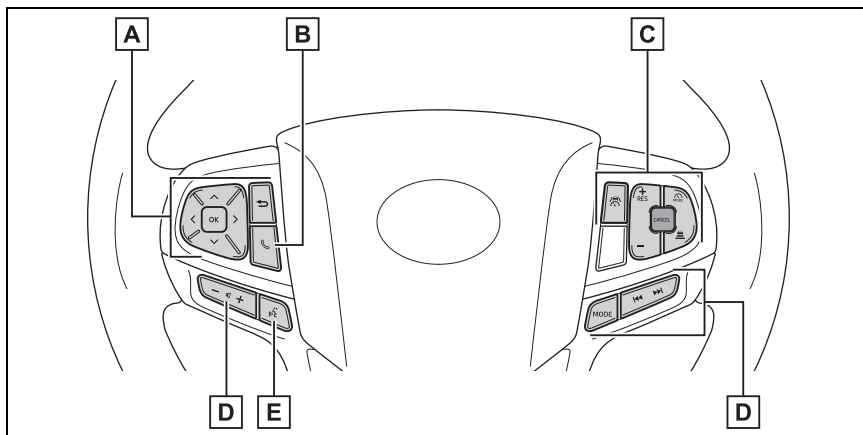
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** ウインドシールドデアイサースイッチ★ P.253, 259
- B** リヤクーラーメインスイッチ★ P.262
リヤヒーターメインスイッチ★ P.264
- C** アクセサリーソケット P.277
- D** パワーヒータースイッチ★ P.253, 258
- E** スノーモードスイッチ★ P.171
- F** フロントシートヒータースイッチ★ P.265
- G** USB Type-C 端子★ ※
- H** 充電用 USB Type-C 端子 P.279

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A メーター操作スイッチ P.79

B 電話スイッチ ※

C クルーズコントロールスイッチ

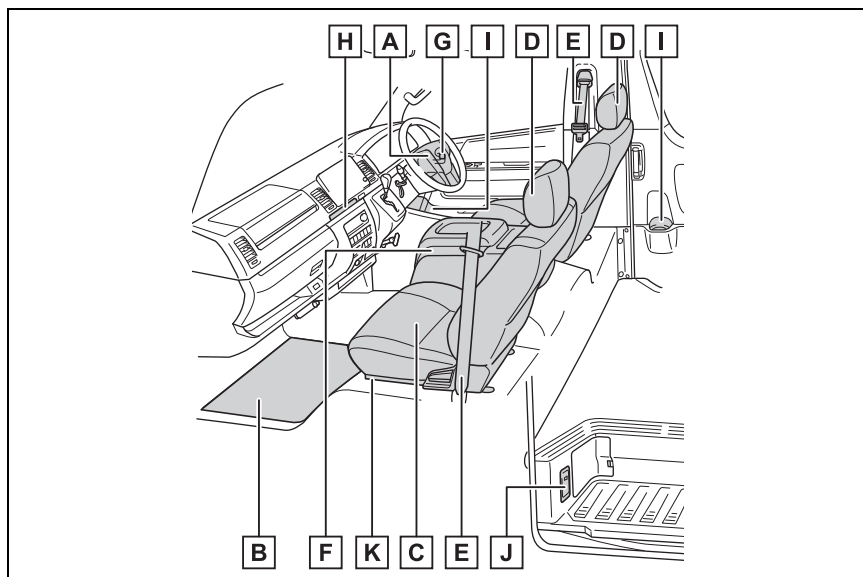
レーダークルーズコントロール P.214, 219

D オーディオスイッチ ※

E トークスイッチ ※

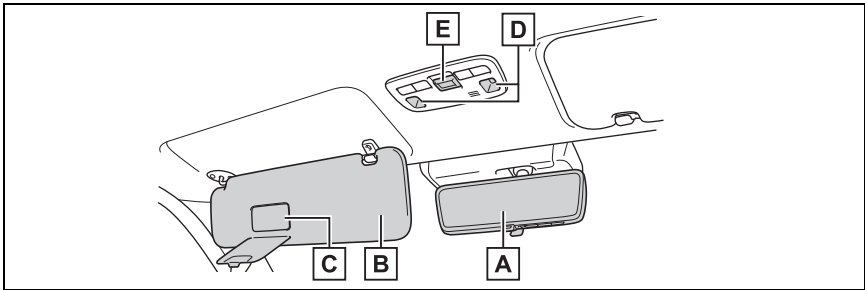
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.33
B	フロアマット	P.26
C	フロントシート	P.118
	リヤシート★	P.119
D	ヘッドレスト	P.120
E	シートベルト	P.29
F	センターコンソールボックス★	P.270
	シートバックコンソール★	P.271
G	ロックレバー	P.94
H	カップホルダー	P.272
I	ボトルホルダー	P.272
J	スライドドアステップランプ★	P.102
K	エンジン点検口	P.287

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** デジタルインナーミラー★ P.136
 インナーミラー★ P.135
- B** サンバイザー ※¹ P.277
- C** バニティミラー P.277
- D** パーソナルランプ P.267
 リヤルームランプ★ ※² P.267
- E** ヘルプネットボタン ※³

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.42)



※²図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※³別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 33

排気ガスに対する注意 37

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 39

チャイルドシート 40

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム
..... 50

オートアラーム 51

1-4. コネクティッドサービス

T-Connect エントリー (22) ... 53

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

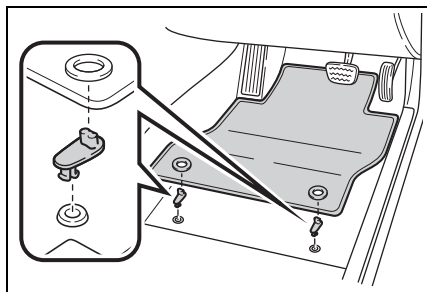
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

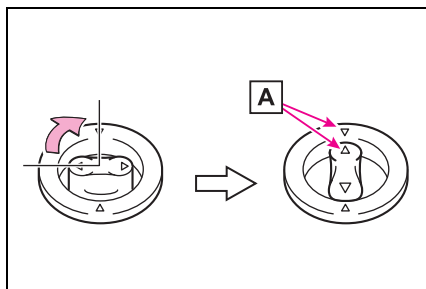
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



※ △ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

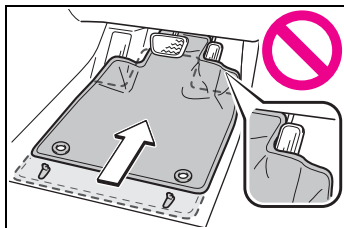
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

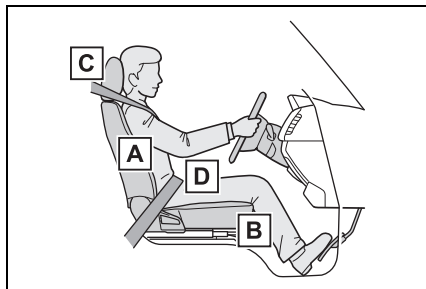


- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.118）
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.118）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.120）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.30）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
 - 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
 - フロントシート※の下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- ※ 前後位置が固定式のシートを除く
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
 - 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
 - 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
 - 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.40)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.135, 136, 145)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

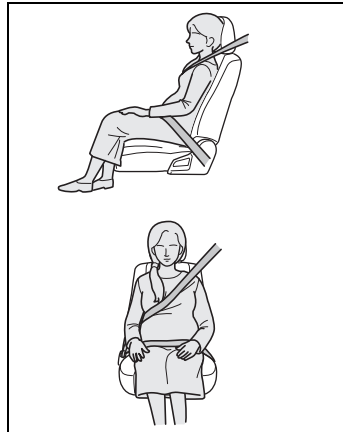
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
 - シートベルトを正しく着用する
 - フロントシートの2点式シートベルト★は、背もたれとシートクッションのあいだに通して着用する
 - シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
 - お子さまはリヤシート★に座らせてシートベルトを着用させる
 - 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
 - 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
 - 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.49

■シートベルトの損傷・故障について

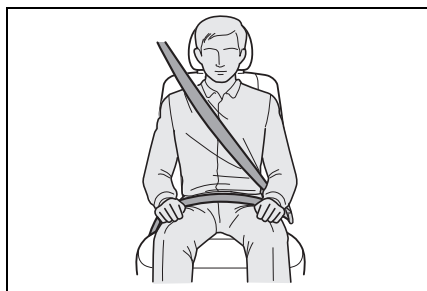
- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

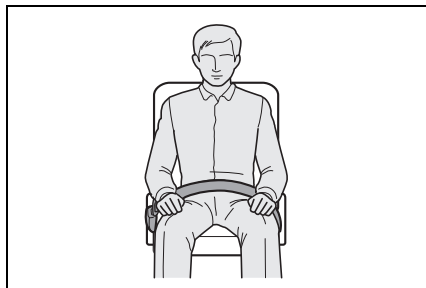
正しく着用するには

▶ 3 点式シートベルト



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

▶ 2 点式シートベルト★



- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調整する
 - 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
 - ねじれないようにする
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

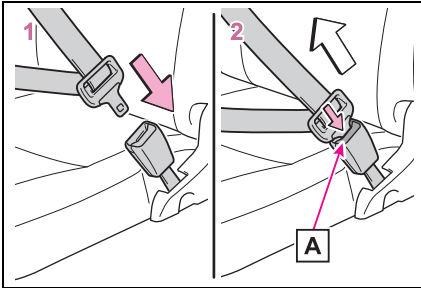
知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.40)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

着け方・はずし方



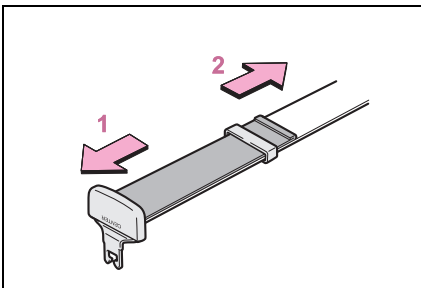
- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法（3点式シートベルト）

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの長さ調節（2点式シートベルト）

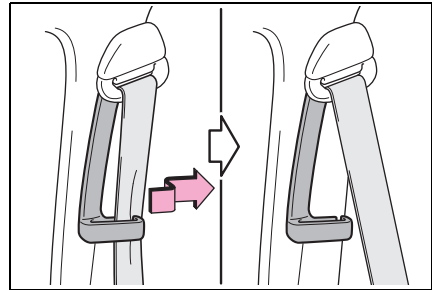


- 1 伸ばす

2 縮める

着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調節してください。

リヤ外側席シートベルトサービスアーム（スーパー GL 標準ボデー車）

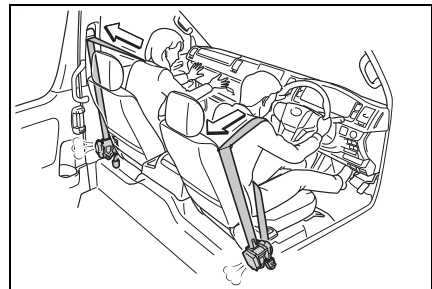


肩部にシートベルトがかからないときは、ベルトをサービスアームからはずして使用してください。

シートベルトプリテンショナー（SRS エアバッグ装着席のシートベルト）

前方から強い衝撃を受けたとき、フロント席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。





知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

**警告****■ プリテンショナー付きシートベルトについて**

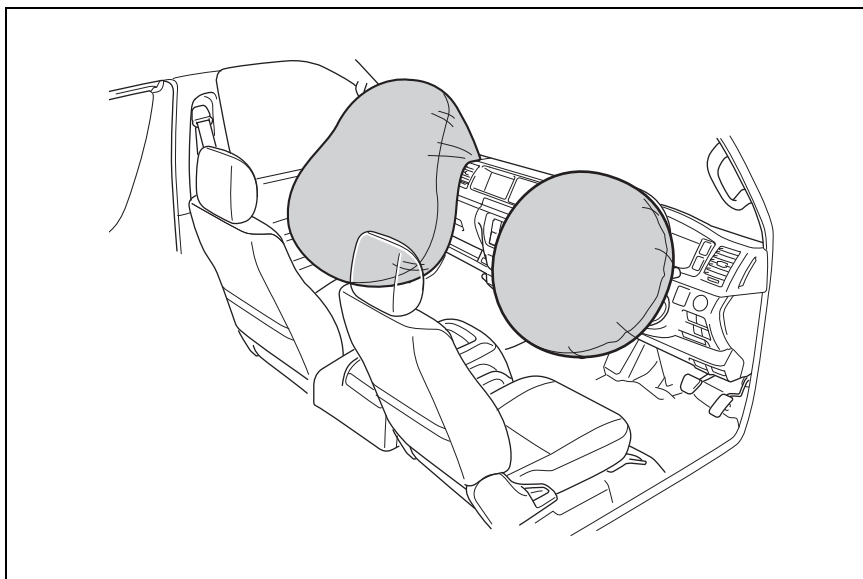
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ (運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ)

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和



知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンド

ルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- すべてのドアが解錠されます。（スーパー GL）（→P.92）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.239）

- 室内灯が自動で点灯します。
(→P.267)
- 非常点滅灯が自動で点滅します。
(→P.319)
- 燃料供給を停止します。(ガソリン車)
(→P.327)

■ 緊急通報について

- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 車両に一定以上の衝撃を受けた

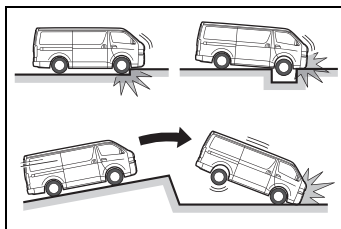
オペレーターからの呼びかけに 응답がなくても、緊急車両などを手配することができます。詳しくは P.53 (マルチメディア非装着車) または「マルチメディア取扱説明書」(マルチメディア装着車) を参照してください。

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値 (移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合 (例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど)
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

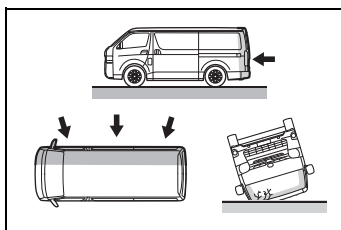
■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。



■ SRS エアバッグが作動しないとき

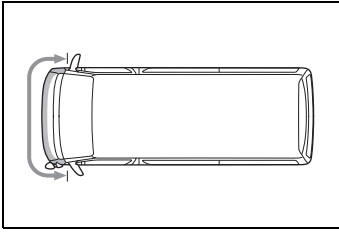
SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

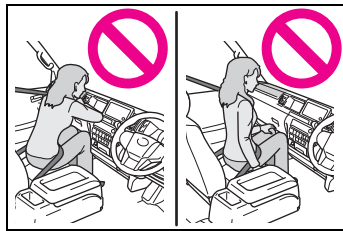
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

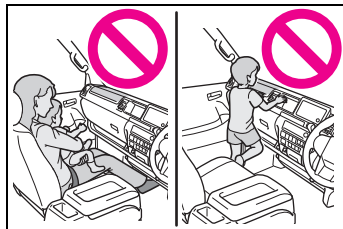
お子さまはリヤ席★に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.40)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



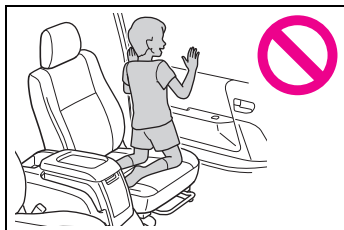
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

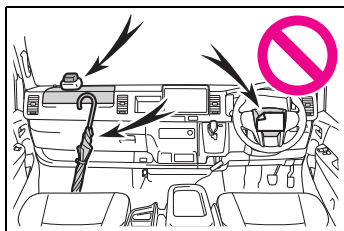
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。

皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造

 警告

- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラス・スライド式リヤサイドガラス★を開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**警告****■排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

(ディーゼル車は、P.244 の注意も併せて参照してください)

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.40)
 - 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
 - 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター★ (→P.100)・ウィンドウロックスイッチ (→P.149) をご使用ください。
 - 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けなどをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.40)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.40

チャイルドシートを使用するとき：
P.41

シート位置別チャイルドシートの
適合性について：P.44

チャイルドシートをシートベルト
で固定する：P.47

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせ

て、適切なチャイルドシートをお選びください。

- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.44)

警告

■ お子さまを乗せるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

⚠ 警告

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.44）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するとき

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

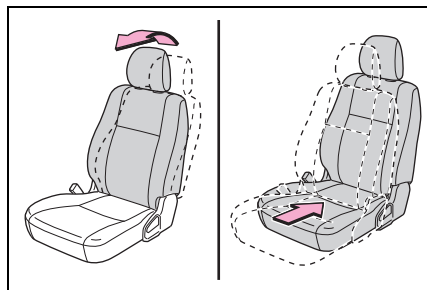
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルド

シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● 前後位置調整レバー装着車：

シートをいちばんうしろに下げる

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

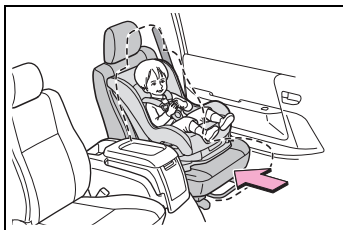
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告

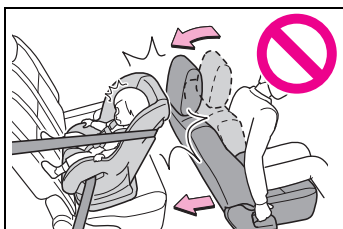
警告

- 助手席の前後位置調整が可能な車両の場合、やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ チャイルドシートを使用するとき

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

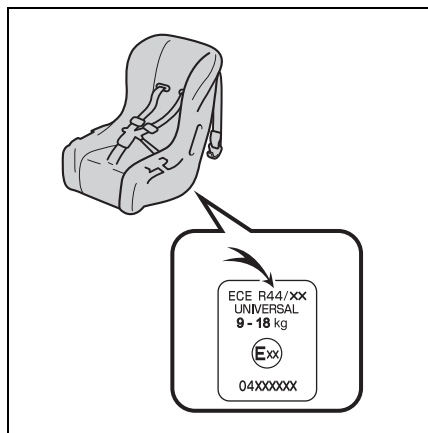
UN (ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN (ECE) R44 認可マーク ※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載

されています。

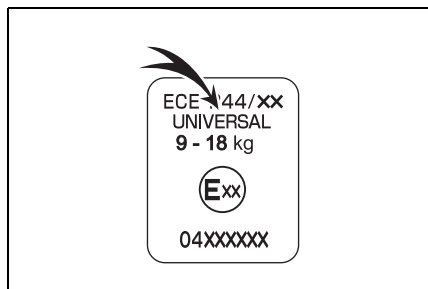


※¹UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。



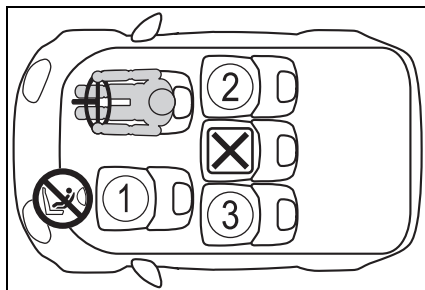
- ・ユニバーサル「universal (汎用)」
- ・セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- ・リストラクティッド

「restricted (限定)」

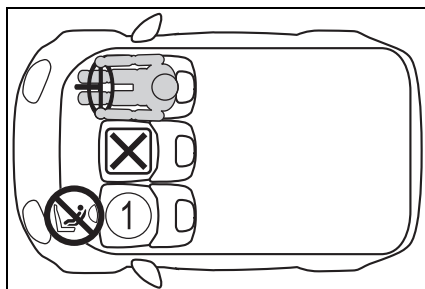
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

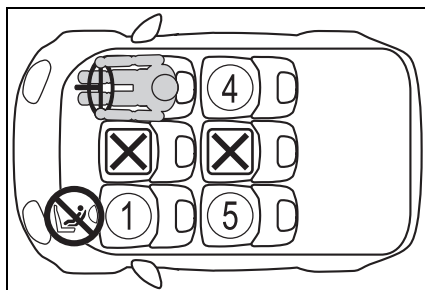
▶ スーパー GL



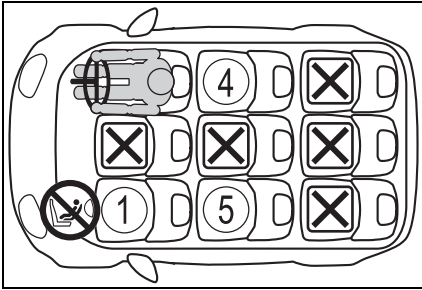
▶ デラックス (3 人乗り)



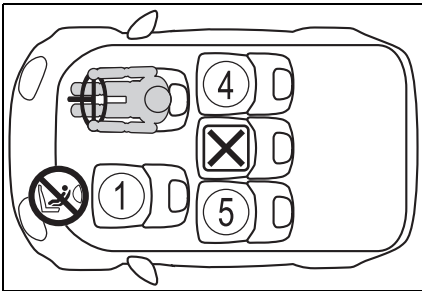
▶ デラックス (3 / 6 人乗り)



▶ デラックス (3 / 6 / 9 人乗り)



▶ デラックス (2 / 5 人乗り)



① ※1, 2, 3	U ※4
②~⑤	純正チャイルドシート の取付けに 適しておりません



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



チャイルドシートの取付けに適していません。



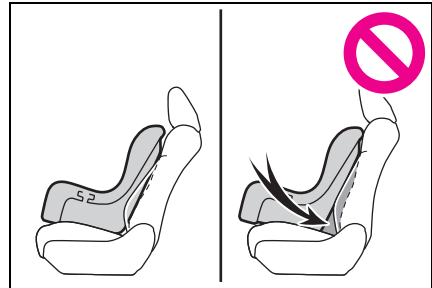
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※³ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※⁴チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	①	②～⑤
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	無
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 / L2）	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

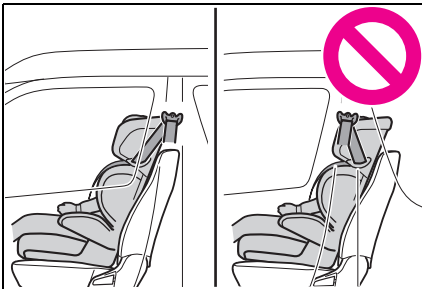
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトの

ショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

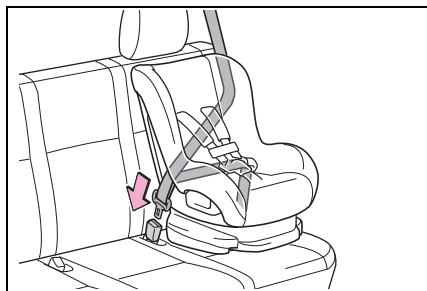
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 46）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.41）
- 2 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください (→P.120)

4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

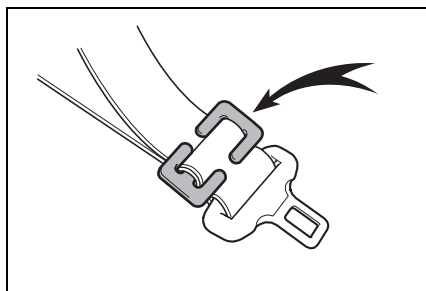
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ (別売) を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキ

ングクリップ品番: 73119-22010)



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.49)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

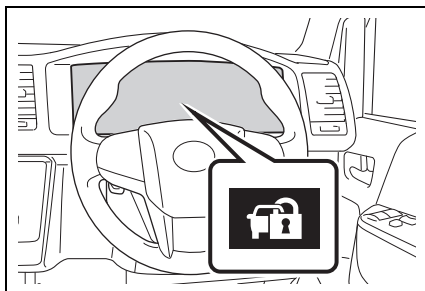
キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき

- ボンネットが開けられたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

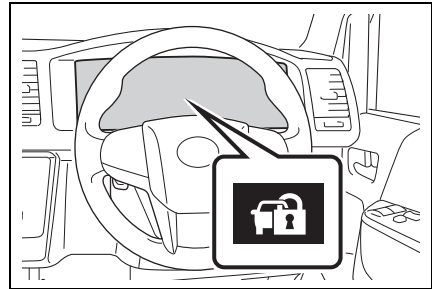
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわりま

す。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する

- エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

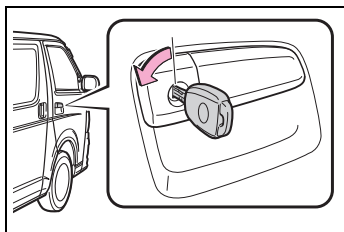
■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

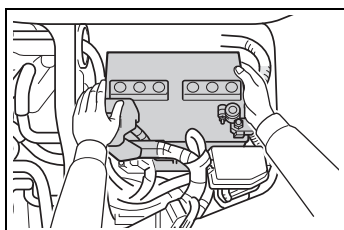
- キーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき
(→P.356)



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

T-Connect エントリー (22)

ここでは、T-Connect エントリー (22) について記載しています。

マルチメディア装着車は、「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

T-Connect のご利用には、契約手続きが必要です。

T-Connect について

T-Connect は DCM (Data Communication Module) を介してお車がお客様と常につながることで、安心・安全・快適なカーライフをサポートするトヨタ専用のコネクティッドサービスです。

■ T-Connect サービス

ご利用可能な T-Connect サービスは、T-Connect の WEB サイト (<https://toyota.jp/tconnectservice/>) をご覧ください。

安全にご利用するため注意すること

T-Connect をご利用になるときは、次の注意事項を必ずお守りの上、正しくお使いください。

■ 消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。

寿命による交換時期は、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯 (赤点滅) でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ T-Connect をご利用になるときは

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。

走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

通信機器について

T-Connect は、通信モジュール (DCM) を利用して、データ通信を行います。

■ 通信モジュール (DCM) について

車両に装着した通信モジュール (DCM) で通信を行います。ご利用には T-Connect 利用申込みが必要です。通信費は T-Connect 利用料金に含まれます。利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の WEB サイト (<https://toyota.jp/tconnectservice/>) でご確認ください。

リコール情報などのお車に関する大切なお知らせをトヨタまたはトヨタ販売店からリモートメンテナンスメールによりお送りするた

め、T-Connect の利用契約の有無にかかわらず、通信を行う場合があります。

通信モジュール（DCM）について

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、ルーフ後部とインストルメントパネルに設置されています。

⚠ 警告

■ ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。

次の点をご理解の上、正しくお使いください。

- 通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。

- 次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。

- ・ トンネルの中にいるとき
- ・ 地下駐車場にいるとき
- ・ 山奥などの通信圏外にいるとき
- ・ 回線が混雑しているなど、発信規制中のとき

- 通信モジュール（DCM）の回線維持期間経過後に T-Connect を新たにご契約いただく場合、通信モジュール（DCM）の回線を接続するための費用が必要になることがありますので、あらかじめご了承ください。

- この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
（その場合には事前にご連絡します）

□ 知識

■ データ取得について

T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

T-Connect を契約するには

T-Connect をご利用いただくには T-Connect 契約が必要となります。初度登録から 5 年間無料でご利用いただけます。

■ 契約（申込み）する

以下のいずれかの方法でお申込みいただけます。

- T-Connect WEB 申込サイト

(https://tconnect.jp/webregist_tsc/): 手数料は無料です。

- トヨタ販売店: 手数料は販売店により異なります。詳しくはトヨタ販売店にご確認ください。

■ 継続契約を行うには

契約の更新月が近付くとトヨタコネクティッド株式会社よりお知らせが届きます。そちらに記載の手続き方法に従って契約の更新を行うことができます。

T-Connect を利用するには

ご利用の際には各サービスの使用方法、留意事項を確認の上ご利用ください。

■ ご利用の前に

ヘルプネットの手動保守点検を行ってください。手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 各サービスを使うには

- ヘルプネット (エアバッグ連動タイプ) (→P.56)
- リモートメンテナンスサービス (→P.68)

上記以外のサービスの使用方法是スマートフォンアプリのヘルプ、もしくは T-Connect の WEB サイト (<https://toyota.jp/tconnectservice/>) をご確認ください。

■ WEB サイト

- トヨタ公式サイト

T-Connect サービスの概要などを確認

することができます。

- ・ URL : <https://toyota.jp/tconnectservice/>
- ・ QR コード :



● My TOYOTA サイト

T-Connect の契約情報の確認、オプションの契約などを行うことができます。

- ・ URL : <https://toyota.jp/member/mytoyota/>
- ・ QR コード :



■ スマートフォンアプリ

● My TOYOTA+ アプリ

お車の燃料残量や走行距離の確認、マイカーサーチの各サービスなどを利用することができます。

- ・ URL : <https://toyota.jp/spapp/mytoyota/qlink/>
- ・ QR コード :



T-Connect を解約する

お車を手放す場合など、T-Connect を解約する際は WEB サイトまたは T-Connect サポートセンターから行うことができます。

■ WEB サイトから解約するには

My TOYOTA サイトにログインして解約手続きをしてください。

URL : <https://toyota.jp/member/mytoyota/>

■ T-Connect サポートセンターから解約するには

T-Connect サポートセンターに連絡して解約してください。

全国共通・フリーコール：

0800-500-6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

必ず契約者本人から、次の情報を準備して、ご連絡ください。

● 自動車検査証（車検証）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動ま

たはボタン操作でヘルプネットセンターに電話接続し、車内からの通報救援要請を補助支援するシステムです。

さらに、あおり運転などのトラブルのときでも、警察へ状況に応じて通報します。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

知識

- いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。
- 事故発生時以外でも、エアバッグが作動したときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。
- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、サービスの利用契約をしていない状態でも緊急通報可能状態として表示することがあります。

⚠ 注意

- ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

サービス開始と解約について

ヘルプネットは、T-Connect を申込みの上、ヘルプネットの手動保守点検を正常に完了してからご利用いただけます。手動保守点検は必ず契約者本人で行うようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect 利用契約を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

緊急通報について

緊急通報は、利用開始操作の完了後に利用できる機能です。

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報し

ます。

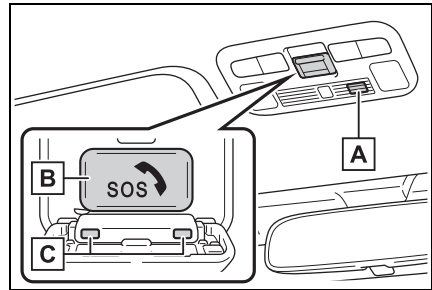
■ ドライバー異常時対応システム作動による自動通報

ドライバー異常時対応システム作動によってお車が自動停車すると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

■ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

各部の名称とはたらき



【A】マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

【B】ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするとき、またはヘルプネットの利用開始操作をするときに押します。

【C】表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。

(→P.64)

 警告**■ ヘルプネットを安全にご利用いただくために**

- 安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。
- 緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。
- 緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じる時は、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。
- 手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。
- 本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。
- 携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- 事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。
- 次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・ 携帯電話サービスエリア外で使用している
 - ・ 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル・マイク・スピーカー・通信モジュール・アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
 - ・ T-Connect が未契約、または契約期限が切れている
 - ・ 手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない
- 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

⚠ 警告

- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 次の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：- 20℃～+ 60℃

- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンスイッチを OFF にしてください。

ヘルプネットをお使いになる前に

ヘルプネットは、手動保守点検を実施してからご利用ください。

- 1 手動保守点検を行い、次の点を確かめる
- 通信が正常に始まる
- 通話ができる
- 通報位置が正しい（ヘルプネットセンターとの通話で確認）
- 2 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確かめる

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないときは、再度、手動保守点検をしてください。

⚠ 警告

- 次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。
 - ・ 通信が始まらない
 - ・ 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う
 - ・ 通話できない

警告

- 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

緊急通報をする**■ エアバッグ作動による自動通報**

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

- 1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

- 2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる
- 3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の可否を伝える

オペレーターからの呼びかけに回答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。

- 4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する
- 5 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援

機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

- 6 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

- 7 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

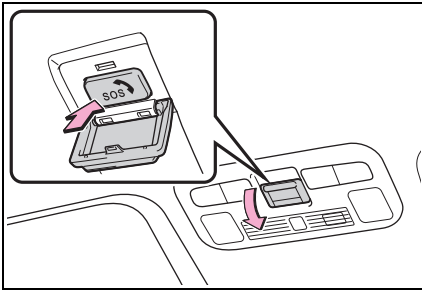
■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

エンジンスイッチが ACC または ON のとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

- 1 ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確認する

- 2 ヘルプネットスイッチパネルを開き、ヘルプネットボタンを押す



- 3 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

- 4 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

- 5 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状況、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、ヘルプネットセンターのオペレーターは、通報者の要請に基づき警察、消防などに接続します。通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

- 6 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

- 7 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救済機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる

る電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

- 8 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

- 9 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救済活動に関わる着信であっても、着信できません。
- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- ・ 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

警告

- ・ 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話できません。
- ・ 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

知識

- 緊急通報中に音声案内が流れているあいだは、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。
- 誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。ただし、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

ヘルプネットの保守点検をする**■ 自動保守点検について**

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

(株) 日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

- 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）

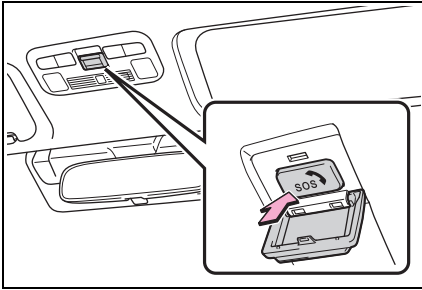
- ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

- 1 できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

- 2 ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 エンジンスイッチを ACC または ON にする
- 5 ヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯がともに点灯し

たら、すぐにヘルプネットボタンを約 10 秒間押し続ける



6 ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

7 ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、次の確認が実施される

- 車両の現在地
- 手動保守点検をしていること
- ヘルプネットセンターに会員登録されていること

8 データ通信完了後、通話モードになる

9 マイクを通して、ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの対応は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。

10 通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯が点滅を終了します。

⚠ 警告

- 手動保守点検の途中で、エンジンスイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度手動保守点検をやりなおしてください。
- 手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にエンジンスイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。
- ・ 手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

 注意

・ 手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはエンジンスイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやりなおしてください。携帯電話サービスエリア内でやりなおしても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネットスイッチパネルの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯でお知らせします。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき (携帯電話サービスエリア内)	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき (携帯電話サービスエリア外)	緊急通報できません。携帯電話サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき (携帯電話サービスエリア内)	携帯電話サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	点滅	緊急通報に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。(→P.60)
		自動保守点検を何回も連続して失敗したとき（携帯電話サービスエリア外）	携帯電話サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。(→P.62) それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。携帯電話サービスエリア内に移動してから、再試行してください。(→P.62)
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	エンジンスイッチを ON にしたとき（約 5 秒間）	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	T-Connect サービスを契約してください。(→P.55)
		関連機器が動作していないとき	エンジンスイッチを ACC または ON にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検をしていないとき	手動保守点検を行います。(→P.62)

警告

- 表示灯が次のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常動作せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ エンジン始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約5秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける
- ・ エンジン始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く
- ・ 携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く
- ・ エンジン始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない

- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります

緊急通報できない場合について

次のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出る場合があります。

■ T-Connect 利用契約の不成立または消滅

- 未契約のとき
- 契約が締結できないとき
- 契約の解除が実施されたとき
- 契約が終了したとき

■ ヘルプネット利用登録の不成立

- 未登録の場合
- 手動保守点検^{*}を完了していない場合
- 登録情報が更新されていない場合

^{*} 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 関連機器の異常による通信不能

- 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル・マイク・スピーカー・通信モジュール・アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障
- 補機バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など
- 車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

■ 緊急通報センターシステムの位置評定エラー

GPSのシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などでGPSでの位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われないまたは誤差が大きいとき

ヘルプネットは、GPSから位置情報を取得しています。

■ ヘルプネットセンター／トヨタスマートセンターのシステムの異常による通信不能

- センターシステムの故障など
- センターの火災などによる、センターシステムの損傷

■ ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能

- 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア外に、登録車両が位置するとき
- 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき
- 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき
- 本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき

- 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

■ 緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止

- センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき
- 大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

■ その他の要因

手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症状	考えられること	処置
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しない	手動保守点検※が正常に完了していない	手動保守点検※をする（→P.62）

症状	考えられること	処置
緊急通報できない	エンジンスイッチを ACC または ON にした直後の点検中ではありませんか	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。(→P.60)
	電波状態は良好ですか	電波状態の良い場所へ移動して、手動保守点検を実施してください。(→P.62)
	携帯電話のサービスエリア外で使用していませんか	
	携帯電話回線が混雑している	しばらくしてから、または電波状態の良い場所へ移動して、手動保守点検を実施してください。(→P.62)
エンジンスイッチを OFF にしても、ヘルプネットスイッチパネルの赤または緑の表示灯が点滅し続けた	緊急通報中ではありませんか	「緊急通報を終了しました」という音声案内が流れてから約 60 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
エンジン始動後、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect 利用契約がされていますか	T-Connect の利用契約をする (→P.54)

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

⚠ 警告

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

リモートメンテナンスサービスについて

お車の状態に関する情報を T-Connect センターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

車両に OBD(On-Board Diagnostic) II 通信を行う機器を接続している場合、正しくサービスが行えない場合があります。

■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、My TOYOTA サイトまたは専用のスマホアプリにメールでご連絡します。また、電話から、その場でトヨタ販売店への入庫予約を行うことができます。

■ e ケア

● ヘルスチェックレポート ※

エンジンオイル量、電子キーのバッテリー等について My TOYOTA+ アプリまたは My TOYOTA サイトで確認できます。また、トヨタ販売店からはお車から発信される情報をもとに最適なメンテ

ナンスのアドバイスが受けられます。

※ サービスのご利用には、リモートメンテナンス店の登録が必要です。登録し

たリモートメンテナンス店を変更する場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

通信モジュール（DCM）についての情報

- ・通信モジュール(DCM)は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。
- ・通信モジュール(DCM)を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

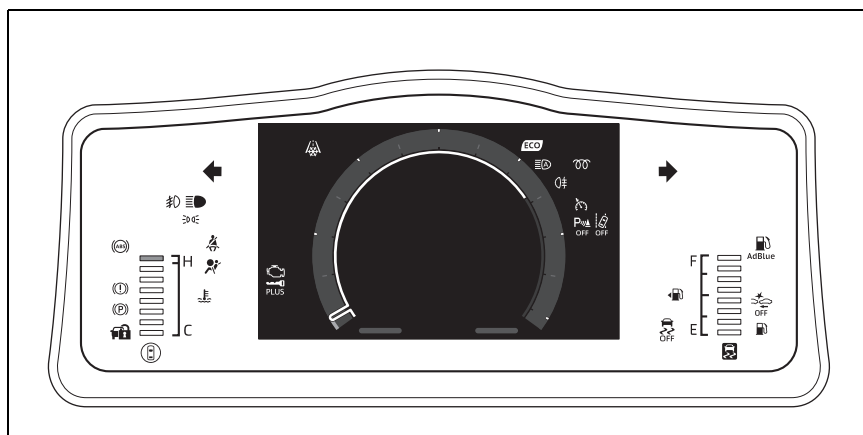
2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	72
計器類	75
マルチインフォメーションディスプレイ	79
燃費画面（マルチメディアシステム装着車）	84

警告灯／表示灯

メーターの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

-  ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.328)
-  高水温警告灯 ※² (→P.328)
-  充電警告灯 ※² (→P.328)
-  油圧警告灯 ※² (→P.328)
-  エンジン警告灯 ※¹
(→P.329)
- SRSエアバッグ／プリテン
-  ショナー警告灯 ※¹
(→P.329)
-  ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※¹ (→P.329)

-  ペダル誤操作警告灯 ※²
(→P.331)
-  燃料残量警告灯 (→P.332)
-  運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.332)
-  PCS 警告灯 ※¹ (→P.329)
-  LDA 表示灯 (→P.330)
(黄色)
-  クルーズコントロール表示灯
(→P.330)
(黄色)
-  レーダークルーズコントロー
ル表示灯 (→P.330)
(黄色)
-  運転支援情報表示灯 ※¹
(→P.331)

 クリアランスソナー OFF 表示灯 ※¹ ★ (→P.329)

 スリップ表示灯 ※¹ (→P.330)

 パーキングブレーキ表示灯 ※¹ (→P.331)

 AdBlue[®] 残量警告灯★ (→P.332)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

 方向指示表示灯 (→P.172)

 尾灯表示灯 (→P.174)

 ハイビーム表示灯 (→P.176)

 AHB 表示灯 (→P.177)

 フロントフォグランプ表示灯★ (→P.179)

 リヤフォグランプ表示灯★ (→P.179)

 PCS 警告灯 ※^{1, 2} (→P.196)

 LDA 表示灯 (→P.205)
(黄色点滅)

 LDA OFF 表示灯 ※² (→P.205)
(黄色)

 クルーズコントロール表示灯 (→P.221)
(緑色)

 クルーズコントロール表示灯 (→P.221)
(白色)

 レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.221)
(緑色)

 レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.217)
(白色)

 運転支援情報表示灯 ※^{1, 2} (→P.229)

 クリアランスソナー OFF 表示灯★ ※^{1, 2} (→P.223)

 クリアランスソナー検知表示灯★ (→P.222)

 スリップ表示灯 ※¹ (→P.239)
(点滅)

 VSC OFF 表示灯 ※^{1, 2} (→P.240)

 スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ ※³ (→P.164)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.173)



エコドライブインジケーター
ランプ (→P.80)



低温表示灯 ※4 (→P.75)



セキュリティ表示灯
(→P.50)



予熱表示灯★ (→P.162,
164)



プラスサポート表示灯★
(→P.234)



制動灯表示灯 (→P.74)

ムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはエ
ンジンを始動すると消灯します。点灯
しない場合や点灯したままのときはシ
ステム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてくださ
い。

※² システムが OFF のときに点灯します。

※³ メッセージと一緒にマルチインフォ
メーションディスプレイに表示されま
す。

※⁴ 外気温が約 3° C 以下のとき、約 10
秒間点滅後に点灯します。



知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯につ いて

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着
車は、クリアランスソナー機能の ON /
OFF の状態に関わらずシフトポジション
を R にすると消灯します。

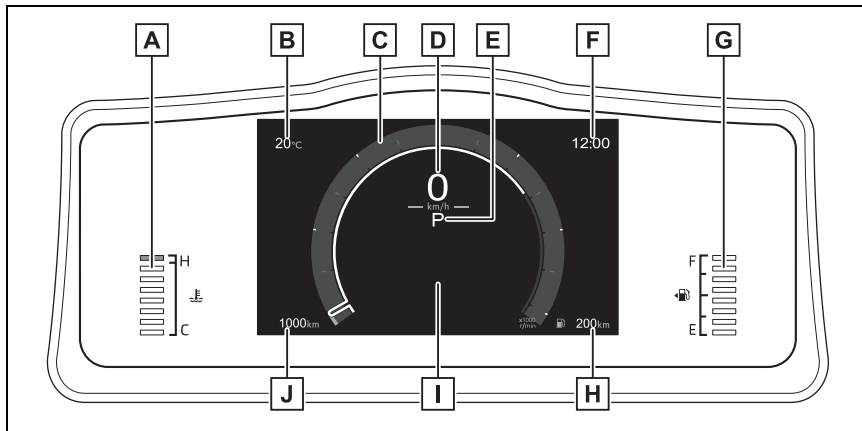
■ 制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システ

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C タコメーター／アナログスピードメーター

マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ画面で、表示を変更できます。

タコメーター：

毎分のエンジン回転数を示します。

アナログスピードメーター：

車両の走行速度を示します。

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→P.169)

F 時計 (→P.78)

マルチメディアシステム装着車：GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.76）

I マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.79）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.334）

J オドメーター

走行した総距離を表示します。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.76）

- “給油してください”と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる

- 2 エンジンスイッチを OFF にする

- 3 メーター操作スイッチの OK を押したまま、エンジンスイッチを ON にする

- 4 そのまま約 5 秒間 OK を押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

- 外気温を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

- 外気温が約 3°C 以下のときは、外気温表示の横に  が点滅し、そのあと点灯します。

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

- “--” または “E” が表示されたときは、

システム故障のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.79

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイ
ので、計器類の表示を変更できます。
(→P.82)

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

- 水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.360)

メーターの照度を調整するには

- 1 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押して、を選択する
- 2 メーター操作スイッチの $\triangleleft$ または $\triangleright$ を押して、を選択する
- 3 メーター操作スイッチの $\triangleleft$ または $\triangleright$ を押して、メーターの照度を選択する

知識

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

時計の調整するには（マルチメディアシステム非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイのから、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

- 1 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して ⚙ を選択する
 - 2 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ を押して ⌚ を選択する
- メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

- 0 ～ 29 分は切り下げられます。
(例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります。)
- 30 ～ 59 分は切り上げられます。
(例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります。)

■ 詳細設定

- 1 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して ⚙ を選択する
- 2 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ を押して ⌚ を選択する
- 3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする
- 4 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ を押して変更したい項目を選択する
- 5 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

- 12 時間表示／24 時間表示
- 時
- 分

時計の調整するには（マルチメディアシステム装着車）

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。

設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

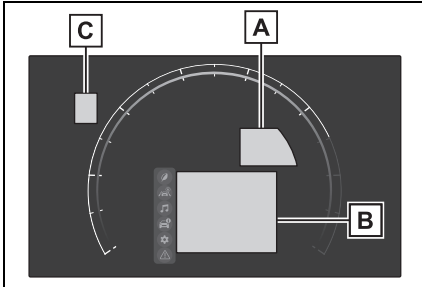
■ 時計の設定画面（マルチメディアシステム装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に“時計：00”が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)
- ・ レーダークルーズコントロール
- ・ クルーズコントロール

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

C RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.208)

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示 (→P.80)



運転支援機能情報表示 (→P.81)



オーディオシステム連携表示★ (→P.81)



車両情報表示 (→P.81)



設定 (→P.82)



警告メッセージ (→P.334)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■ 運転中の使用について

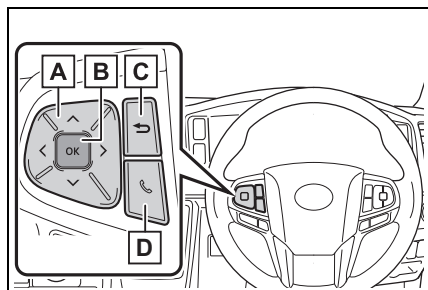
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

→P.77

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- A** </> : 表示項目の切り換え・ページ送り・カーソル移動
 ▲/▼ : メニューの切り換え

- B** 短押し : 決定
 長押し : リセット／詳細項目表示

- C** ひとつ前の画面にもどる

- D** 電話の発着信・履歴表示
 ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムに関しては別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

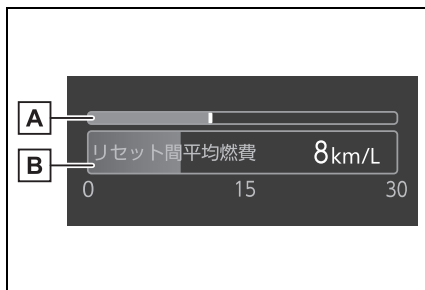
走行情報表示について

■ 表示項目

- 燃費グラフ
- エコドライブインジケータ／航続可能距離

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

始動後・リセット後・給油後のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

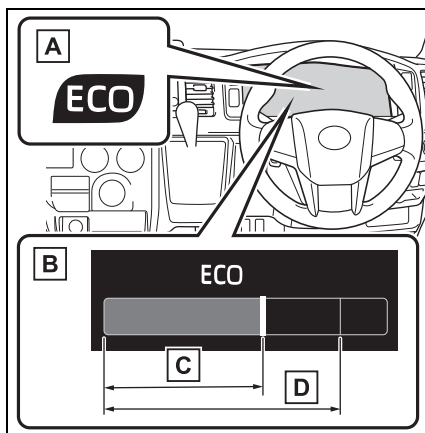
 画面の“燃費グラフ”で選択した燃費が表示されます。(→P.82)

※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 始動後平均燃費は、エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

※3 リセット後平均燃費の表示中に OK を押し続けると、リセットされます。

■ エコドライブインジケータ



A エコドライブインジケータラ

ンブ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケータゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケータゾーン表示の右側が点灯します。

このとき、エコドライブインジケータランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

知識

■ エコドライブインジケータについて

次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- 走行モードがパワーモードのとき
- 車速が約 130km/h 以上のとき

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

運転支援機能情報表示について

■ 走行支援システム連携表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- LDA（レーンディパーチャーア

ラート）（→P.203）

- レーダークルーズコントロール（→P.211）
- クルーズコントロール（→P.219）

車両情報表示について

■ ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：エンジン始動後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示 ※

※ エン진을始動するたびに、表示がリセットされます。

■ トリップインフォメーション

「TRIP A 項目選択」「TRIP B 項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

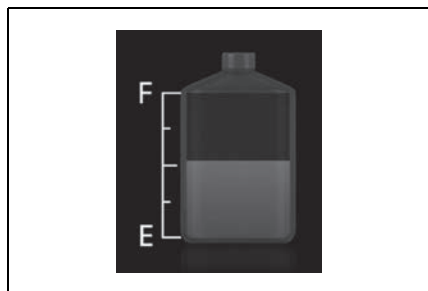
表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※

- ※ OK を押し続けると、表示がリセットされます。

AdBlue[®] 残量表示 (ディーゼル車)

AdBlue[®] の残量を表示します。
(→P.293)



設定について

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能の ON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、OK を押すたびに機能の ON / OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、OK を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

3 設定が完了したら、メーター操作スイッチの **▶** を押す

■ 変更できる項目 (メーター表示)

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メーターデザイン

メーター表示のデザインを選択することができます。

● アナログメーター切りかえ

アナログメーター (→P.75) に表示する項目を選択することができます。

● エコドライブインジケーターストップ

エコドライブインジケーターストップの作動・非作動を切りかえることができます。



・ 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。
(→P.80)



オーディオ画面の表示・非表示を変更することができます。



・ ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

・ ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには **▲** / **▼** / **◀** / **▶** / **OK** / **↶** のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.373



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。
- 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。
- 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

⚠ 警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.334）

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。



知識

■ カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.373)

燃費画面（マルチメディアシステム装着車）

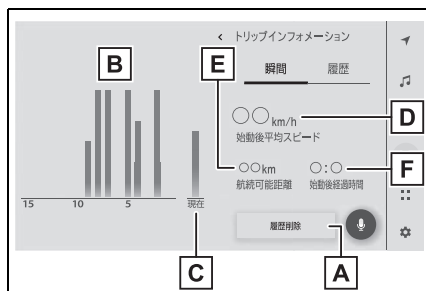
燃費に関する情報をマルチメディアディスプレイに表示します。

瞬間燃費画面の見方

■ 表示のしかた

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する
- 3 “瞬間” を選択する

■ 表示について



- A** 履歴削除
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
- C** 瞬間燃費
- D** エンジン始動後平均車速
- E** 航続可能距離
- F** エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

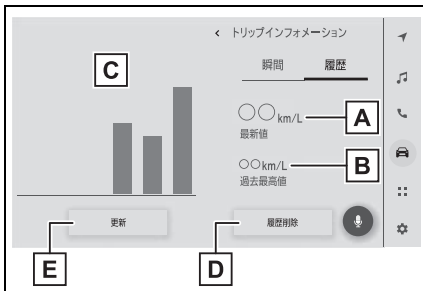
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費履歴画面の見方

■ 表示のしかた

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する
- 3 “履歴” を選択する

■ 表示について



- A** 最新値表示
- B** 過去最高値表示
- C** 過去平均燃費表示
- D** 履歴削除
- E** 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、燃費データ

がリセットされます。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、燃費や航続可能距離などの情報を確認することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー

キー 88

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア 92

スライドドア 96

バックドア 105

スマートエントリー&スタートシ
テム 113**3-3. シートの調整**

フロントシート 118

リヤシート 119

ヘッドレスト 120

シートアレンジ 122

セパレーターバー 127

**3-4. ハンドル位置・ミラー・アン
テナ**

ハンドル 134

インナーミラー 135

デジタルインナーミラー 136

アウターミラー 145

補助ミラー 146

アンテナ 147

**3-5. ドアガラス・スライド式リヤ
サイドガラスの開閉**

パワーウインドウ 148

スライド式リヤサイドガラス.. 150

3-6. お好み設定

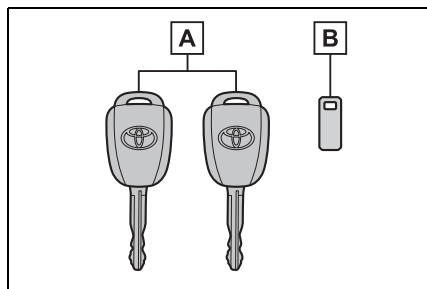
マイセッティング 151

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

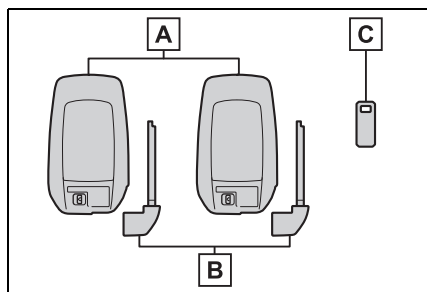


A キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P.90）

B キーナンバープレート

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



A 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P.113）
- ・ ワイヤレス機能の作動（→P.90）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ キーの構成について

車の仕様により、ここで説明している内容とキーの枚数・組み合わせが異なる場合があります。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.114）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.302）
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→P.302）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV

- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ 電子キーの取り扱いについて

■ マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
(→P.302)

■ 電池の交換方法

→P.302

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

JP

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

01

■ マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたと

きにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.354

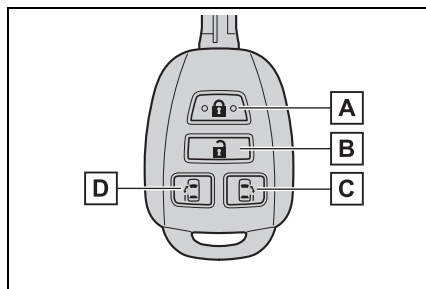
■ 電子キーを紛失したとき

→P.353

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



A 全ドアを施錠する (→P.92)

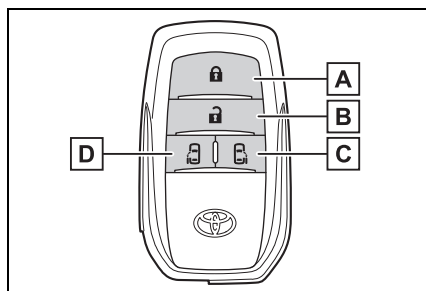
B 全ドアを解錠する (→P.92)

C 運転席側パワースライドドア★を開閉する (→P.98)

D 助手席側パワースライドドア★を開閉する (→P.98)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



A 全ドアを施錠する (→P.92)

B 全ドアを解錠する (→P.92)

C 運転席側パワースライドドアを開閉する★ (→P.98)

D 助手席側パワースライドドアを開閉する★ (→P.98)

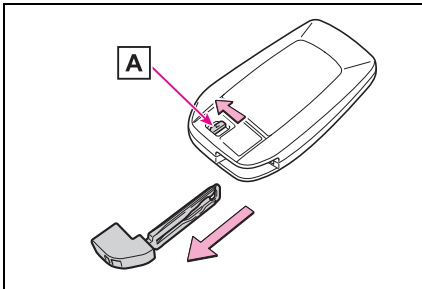
★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、
解除レバー[A]をスライドさせて
キーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定の
ある片溝キーです。キーシリンダーに挿
し込めないときは、キー溝面の向きをか
えて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒
に携帯してください。電子キーの電池が
切れたときやスマートエントリー&ス
タートシステムが正常に作動しないとき、
メカニカルキーが必要になります。
(→P.354)



知識

■ キーまたはメカニカルキーを紛失した
とき

→P.353

■ 不正キーの使用について（スマートエ
ントリー&スタートシステム装着車）

指定のメカニカルキー以外のキーを使用
すると、キーシリンダーが空まわりして
解錠できません。

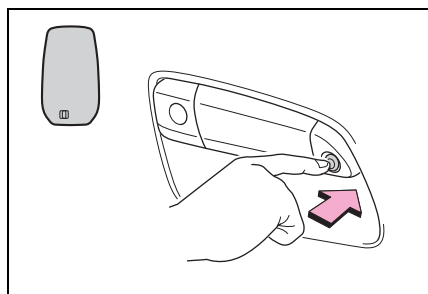
フロントドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する★

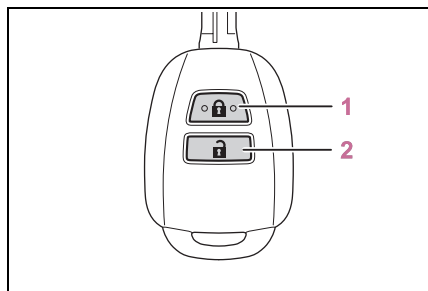
電子キーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレス機能を使用する

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

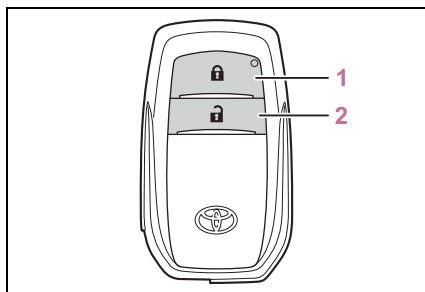


1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

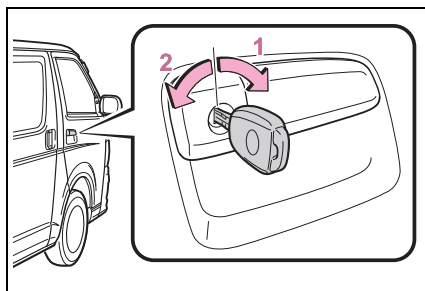


1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

■ キーを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム（スーパー GL）

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ 作動の合図

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでのドアの施

錠・解錠を、ブザー^{*}と非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

^{*} スマートエントリー&スタートシステム装着車

■ワイヤレスリモコンの作動条件（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- 周囲の状況により作動可能距離が変わることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近付いて操作してください。
- エンジンスイッチにキーが挿し込まれている場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- 次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス電話な

どの無線通信機器を携帯しているとき
・ 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき

- ・ ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ・ 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ・ ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

- 金属を含むフィルムや、金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）をバックドアガラスに貼り付けると、車両後方からの操作時に、作動可能距離が短くなる場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P.115

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.92)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.354)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.302)

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーおよびキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.92, 354)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● すべてのドアを確実に閉め、施錠する

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

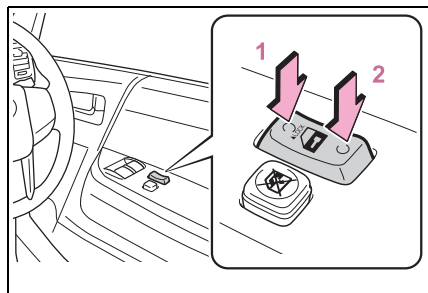
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

車内から施錠／解錠するには

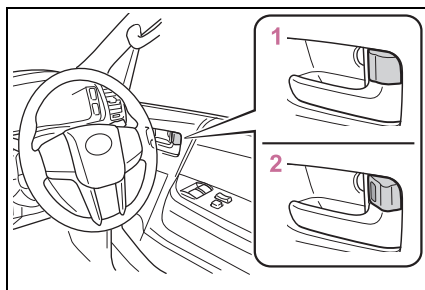
■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

📖 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー&スタートシステム
非装着車：キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー&スタートシステム
装着車：エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

オートドアロック・アンロック機能（スーパー GL）

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.95 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーをP以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPにしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから約 43 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

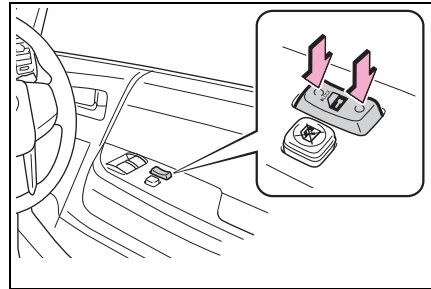
設定・解除のしかた（スーパー GL）

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをONにする（その後10秒以内に2を行う）
- 2 シフトレバーをPまたはNに入れ、ドアロックスイッチのLOCK 側または UNLOCK 側を約5秒間押し続けて離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト操作連動ドアロック	P	LOCK
シフト操作連動アンロック		UNLOCK
車速感応オートドアロック	N	LOCK
運転席ドア開連動アンロック		UNLOCK

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクター★を使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

- お子さまをリヤ席★に乗せるときは、チャイルドプロテクター★（→P.100）を使用して車内からドアが開かないようにする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スライドドアの操作にあたって

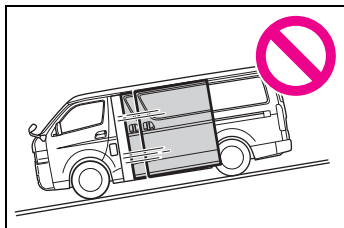
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

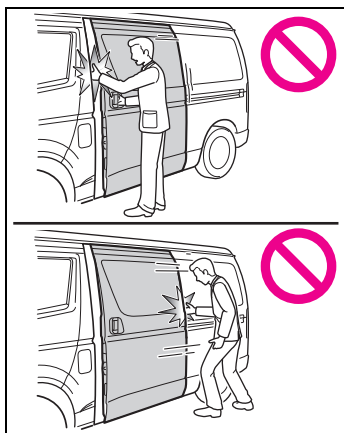
- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- スライド式リヤサイドガラス★を開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

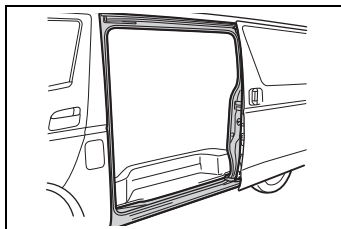
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたり挟んだりしないように注意してください。



- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



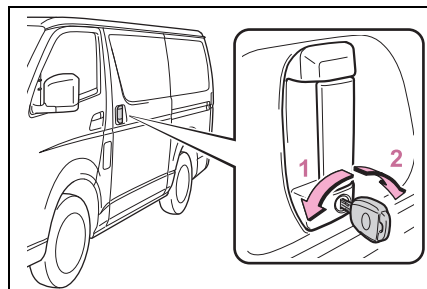
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車外から解錠／施錠するには

- ワイヤレス機能を使用する

→P.92

- キーを使用する



1 ドアを施錠する

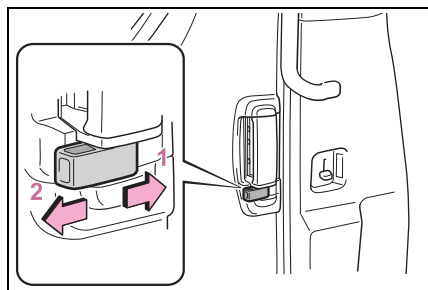
2 ドアを解錠する

車内から解錠／施錠するには

- ドアロックスイッチを使用する

→P.94

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

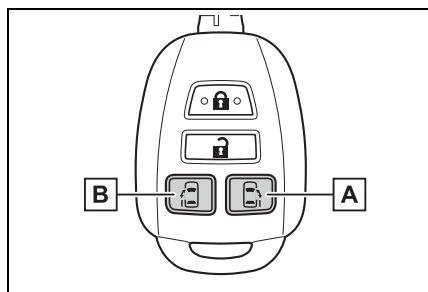
2 ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてスライドドアを閉じます。

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用する

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



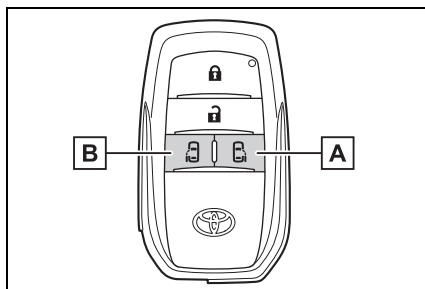
A 運転席側パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

B 助手席側パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



A 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

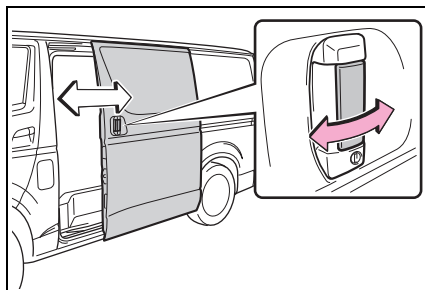
B 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

■ アウトサイドドアハンドルを使用する

パワースライドドアメインスイッチ（→P.100）が ON のとき、アウトサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。



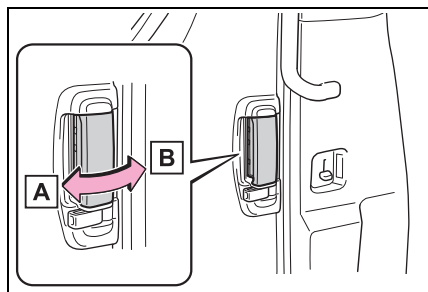
スライドドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中、ドアハンドルを逆方向に操作すると、反転作動します。ただし、作

動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

■ インサイドドアハンドルを使用する

パワースライドドアメインスイッチ (→P.100) が ON のとき、インサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。



開閉作動中、ドアハンドルを逆方向に操作すると、反転作動します。ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

■ A 開ける

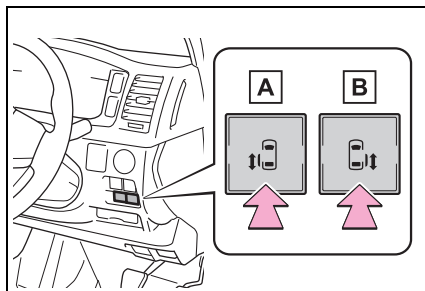
スライドドアを解錠してから操作してください。

■ B 閉める

■ パワースライドドア開閉スイッチを使用する

スイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。



■ A 助手席側パワースライドドア開閉スイッチ

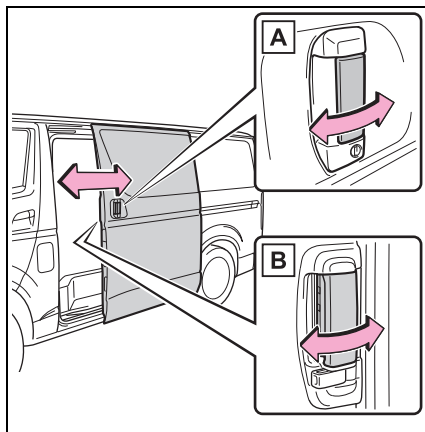
■ B 運転席側パワースライドドア開閉スイッチ

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

スライドドアの手動開閉

パワースライドドアメインスイッチ (→P.100) が OFF のとき、車外のアウトサイドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。



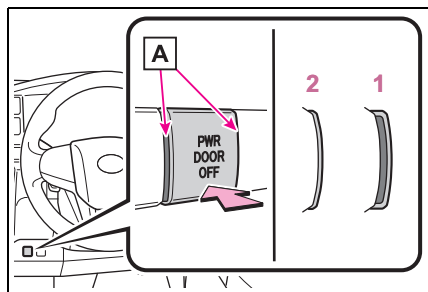
■ A アウトサイドドアハンドル

B インサイドドアハンドル

パワースライドドア★の機能を停止するには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてパワースライドドアの機能を停止します。



1 ON※

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／アウトサイドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドア開閉スイッチの操作により、自動で開閉できます。

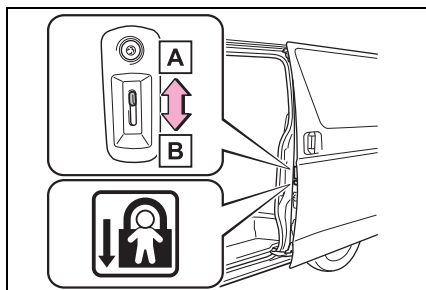
2 OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

※ ON にすると、スイッチ左右部にオレンジ色 **A** のマークが表れます。

チャイルドプロテクター★

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。



A 解錠

B 施錠

おさまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スライドドアアイジークローザー★

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアアイジークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチの位置、またはモードに関係なく、スライドドアアイジークローザーは作動します。
- パワースライドドア装着車：パワースライドドアメインスイッチが OFF のときでも作動します。
- アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、スライドドアアイジークローザーが作動しないことがあります。
- スライドドアアイジークローザーが作動中でもアウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作してドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクター★が施錠側のときを除く)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■チャイルドプロテクター★使用時のドアの開け方

ドアを解錠してアウトサイドドアハンドルを操作すると開きます。

スライド式リヤサイドガラス装着車で、万一、車内から開ける場合は、リヤサイドガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワースライドドア★の作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき
- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

- シフトレバーの位置が P のとき
- パーキングブレーキがかかっているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 作動条件を満たしていても、エンジンスイッチが ON のときは、ワイヤレスリモコンで開閉することはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワースライドドア★の作動について

- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から反転作動します（連続して 2 回異常を感知すると、ブザーが鳴り、自動開閉できなくなります）。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知した場合は、その位置で作動を停止します。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。

- パワースライドドアの自動開閉中に反転操作をすると、連続 2 回まで反転作動し、3 回目は反転作動を停止します。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリー端子を脱着したとき

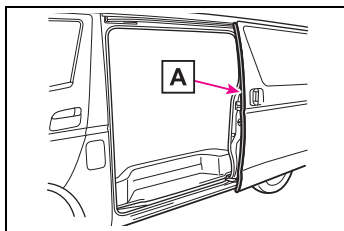
パワースライドドア★を適切に作動させるために、初期設定が必要です。アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの前端部には、センサー^Aが付いています。ドアを自動で閉めているときに、センサーが異物の挟み

込みなどを感知すると、スライドドアが反転作動し、全開位置で自動停止します。



■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

エンジンスイッチを OFF にしてからスライドドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

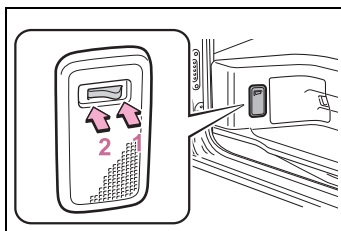
- スライドドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
- エンジンがかかっている状態でスライドドアを開閉した

ただし、スライドドアを開けてから約 2 秒以内にスライドドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、スライドドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■スライドドアステップランプ★

スイッチを ON にしておくと、スライドドアまたはバックドアを開けたときに点灯します。



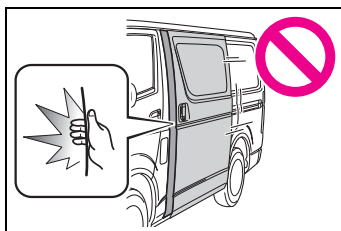
- 1 ON
- 2 OFF

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■スライドドアアイズークローザー★について

- スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアアイズークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
(→P.100)



- スライドドアアイズークローザーは、パワースライドドアメインスイッチ★が OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

警告

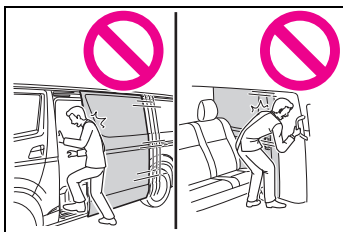
- ロックレバーやチャイルドプロテクター★が施錠側のとき、スライドドアイーゼークローザー作動中にインサイドドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースライドドア★について

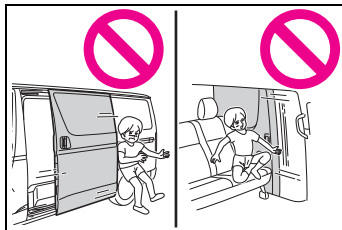
パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

⚠ 警告

- チャイルドプロテクター★を施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

- タイヤ交換時や洗浄機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

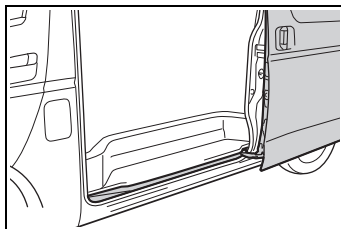
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

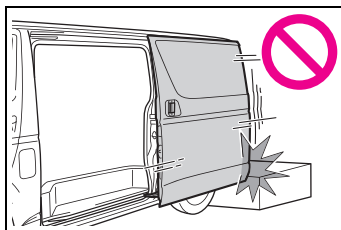
⚠ 注意

■スライドドアについて

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 走行するときやドアを開閉するとき、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→P.272）に収納しないでください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



⚠ 注意

■ スライドドアイーজークローザー★ について

- スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

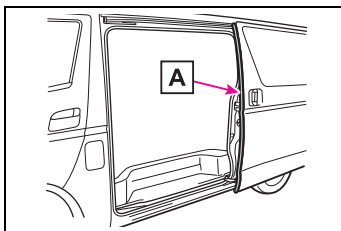
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースライドドア★について

パワースライドドア前端部のセンサー

A を刃物などの鋭利なもので傷付けな
いよう注意してください。

センサーが切断されると自動で閉める
ことができなくなります。



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・
解錠および開閉することができ
ます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およびか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっている
ことを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突
然開き、車外のものにあたったり、
荷物が投げ出されたりして思わぬ事
故につながるおそれがあります。
- 荷室でお子さまを遊ばせないでくだ
さい。
誤って閉じ込められた場合、熱射病
などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作
をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉め
るときに手・頭・首などを挟んだり
するおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてくだ
さい。
開けたまま走行すると、バックドア
が車外のものにあたったり荷物が投
げ出されたりして、思わぬ事故につ
ながるおそれがあります。
- 荷室には絶対に人を乗せないでくだ
さい。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや
衝突したときなどに、重大な傷害に
およびか、最悪の場合死亡につな
がるおそれがあります。

警告

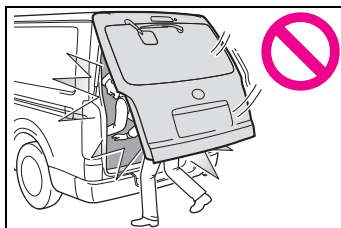
- 走行中は車内のバックドアハンドルを操作しないでください。バックドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バックドアの操作にあたって

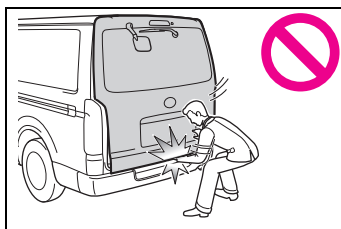
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確認してください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

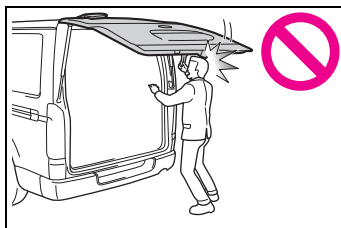
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

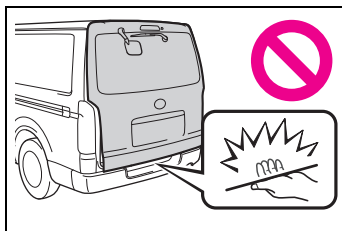


- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップで直接バックドアを閉めると、頭をぶついたり手や腕を挟むおそれがあります。



警告

- バックドアダンパーステー(→P.110)を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。
- バックドアイーザークローザー★について
- バックドアが半ドア状態になったとき、イーザークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



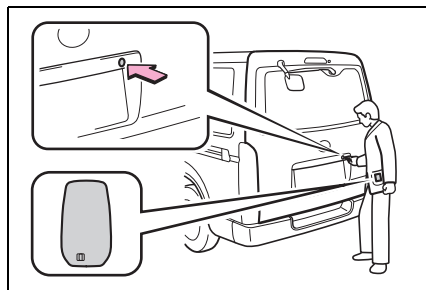
- ロックレバーが施錠側のときは、イーザークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステム★を使用する

電子キーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠する

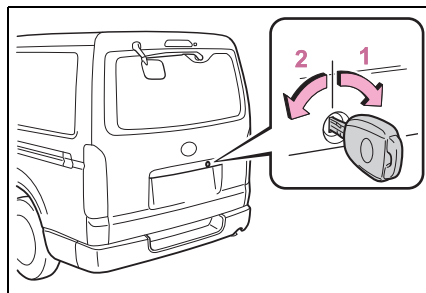


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.92

■ キーを使用する



- 1 ドアを施錠する
- 2 ドアを解錠する

知識

■ 作動の合図

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでのドアの施錠・解錠を、ブザー※と非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2

回)

※ スマートエントリー&スタートシステム装着車

■ 解錠操作のセキュリティ機能

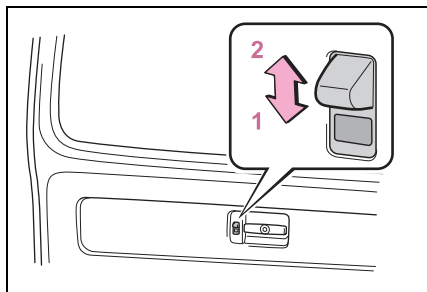
スマートエントリー & スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.94

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

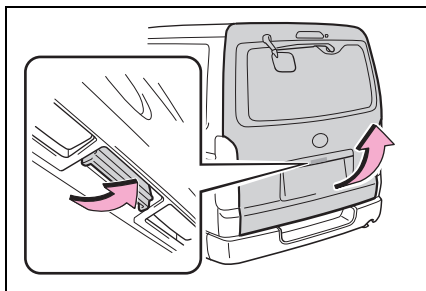
2 ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてバックドアを閉じます。

バックドアを開けるには

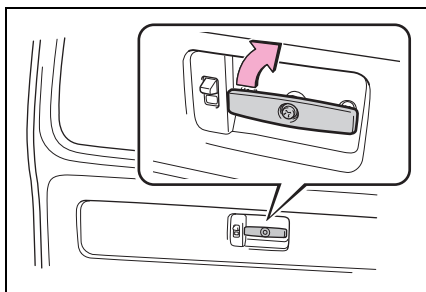
■ バックドアハンドル（車外）を使用する

バックドア解錠時に、バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる



■ バックドアハンドル（車内）を使用する

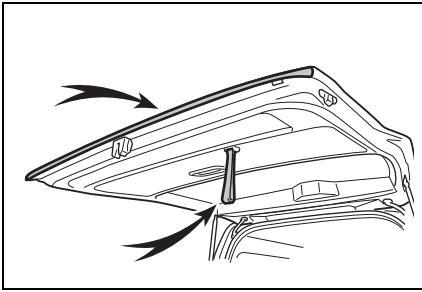
バックドア解錠時に、バックドアハンドルを右にまわして、バックドアを押し上げる



バックドアを閉めるには

バックドアストラップまたはバックドアの下端を持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

バックドアストラップを持って引き下げるときは、横方向に力をかけないように引き下げます。



知識

■バックドアイージークローザー★

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

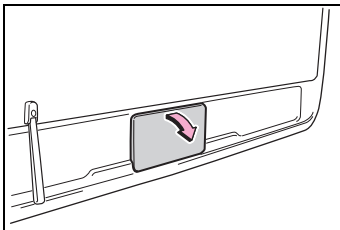
- エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- バックドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアハンドルを操作してバックドアを開けることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

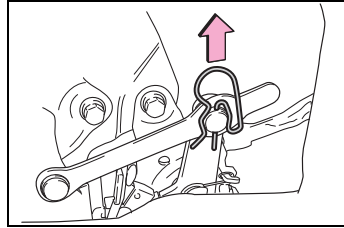
■バックドアイージークローザー★が故障したときは

バックドアが開かない場合は、次の手順で車内からロックを解除してください。

- 1 上側部分を手前に引いてカバーをはずす



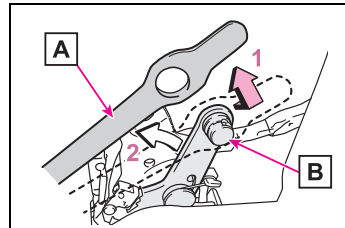
2 ピンを引き抜く



- 3 ロッドを手前に引いて上側にずらし（1）、ロッドとレバーとの連結をはずす

レバーが矢印の方向に動きます（2）。

レバーが自動で動かないときは、矢印の方向に手で動かしてください。



A ロッド

B レバー

- 4 車内または車外のバックドアハンドルを操作してバックドアを開ける（→P.108）

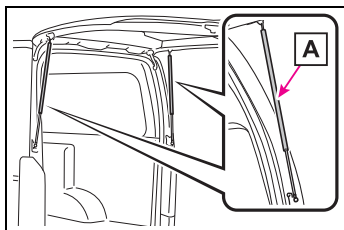
この処置でバックドアを開けることができて、すみやかにトヨタ販売店でバックドアイージークローザーの点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステー^Aが取り付けられています。ダンパーステー^Aの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアを操作するときは

車内のドアハンドルや、バックドアの下端に付いているロック部品などをつかんで、バックドアを操作しないでください。ドアハンドルやロック部品などが破損するおそれがあります。

■バックドアイージークローザー★について

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フリーストップバックドア（開度調整機構）★

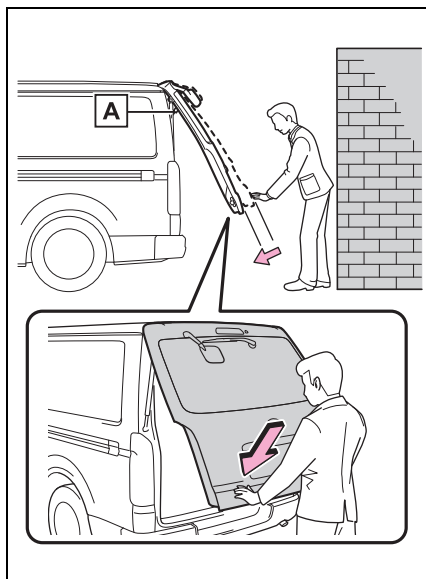
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを保持したい位置で、外からバックドアを 10cm 程度押し、手を離すとバックドアが途中で保持されます。

バックドアが静止していることを確認して使用してください。

中間保持状態からはバックドアを開かないでください。保持した後は、閉じる方向にのみ動かすことができます。

中間保持状態を解除するときは、バックドアを 1 度閉めてから、再度バックドアを開けてください。



A 開度調整機構

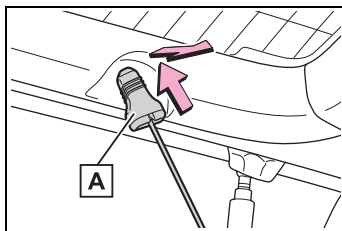


知識

■ フリーストップバックドアを非作動にするには

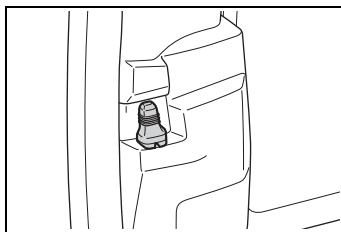
開度調整機構のソケットを取り外してフリーストップバックドアを非作動にすることができます。

- 1 バックドアを全開にする。
- 2 ソケットを手でしっかりと持ち、ソケットを持ち上げてバックドアから外す。



A ソケット

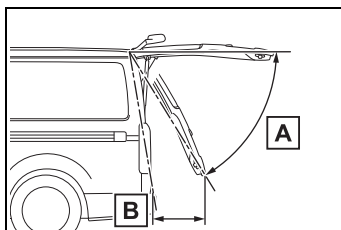
- 3 最後まで手を添えて、ソケットをトリムに格納する。



取り付けるときは、取り外したときと逆の手順でソケットを取り付けます。

■ バックドアを保持できる範囲について

フリーストップバックドアは、バックドア全開付近では保持することができません。



A 保持できる範囲

B 保持できない範囲（約 20cm）

使用環境（気温、路面の傾斜など）によって保持できる範囲は変わることがあります。

■ 内部保護機能

バックドアが中間保持状態でバックドアが開く方向に大きな荷重が加わると、内部保護機能が作動し、大きな音とともにバックドアが少し開きます。ただし、思わぬ故障につながるおそれがあるため、故意に作動させないでください。

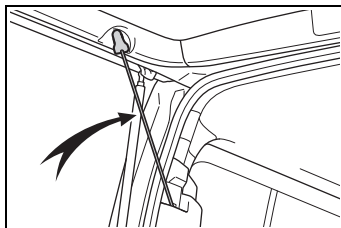
警告**■ フリーストップバックドアについて**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 強風時の使用は十分注意してください。
バックドアが風にあおられ勢いよく閉まり、指などを挟むおそれがあります。
- 開度調整機構のケーブルをバックドアの開度調整以外の目的で使用しないでください。
- カバーに手をかけたり、もたれかからないでください。
転倒するおそれがあります。
- 中間保持状態で積荷作業等をする際は、ケーブルやバックドア含め周囲の環境に注意してください。
接触すると怪我をするおそれがあります。
- バックドアが中間保持状態でバックドアにもたれかからないでください。
バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあります。
- バックドアを中間保持状態で長時間放置しないでください。バックドアが意図せず閉まるおそれがあります。

注意**■ フリーストップバックドアについて**

開度調整機能のケーブルを無理に引き出したり、使用中に力を加えたりしないでください。損傷や作動不良になるおそれがあります。



スマートエントリー&スタートシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

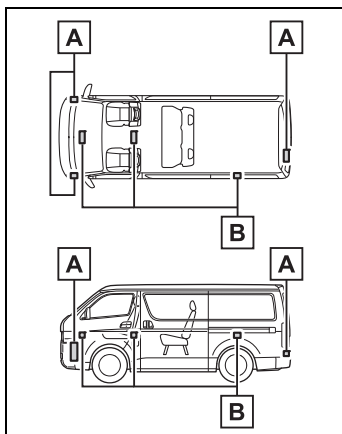
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する
(→P.92)
- バックドアを解錠・施錠する
(→P.107)
- エンジンを始動する
(→P.164)



知識

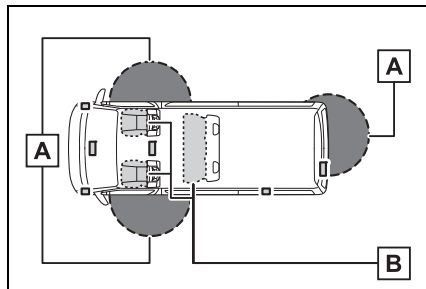
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

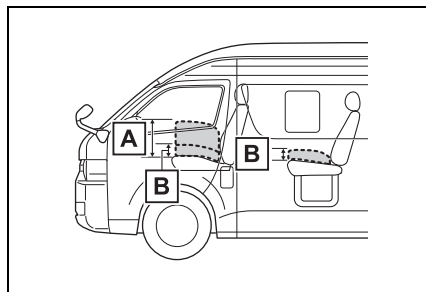


A ドアの施錠・解錠時

各ドアのロック／アンロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのロック／アンロックスイッチのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



A シートからの高さ 50cm（運転席）

B シートからの高さ 15cm（助手席およびセカンドシート）

フロア上、ダッシュボード上、サードシートよりうしろの座席などは作動範囲の対象外です。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を

防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されたときは

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間が

かかる場合があります。またイルミネテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

- ・車の周辺に一定時間電子キーを放置した
- ・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

- 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

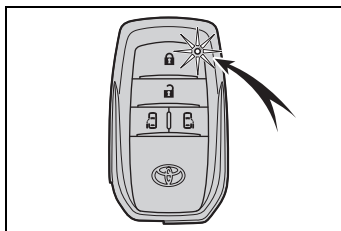
■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、

 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定

時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含む

フィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する
- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.354）

また、スマートエントリー&スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.354 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
 - ・ ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・

解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します)
- ワイレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができませんことがあります。(ワイレスリモコンを使用すると解錠できます)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をするとき、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く(盗難に注意し保管してください)
 - ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する(→P.114)
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあるとき、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないこ

とがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.376)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.114)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■電子キーが正常に働かないときは

- ドアの施錠・解錠(→P.354)
- エンジンの始動(→P.354)

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P.374)

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.90, 354)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.167
- エンジンの停止：→P.166

警告

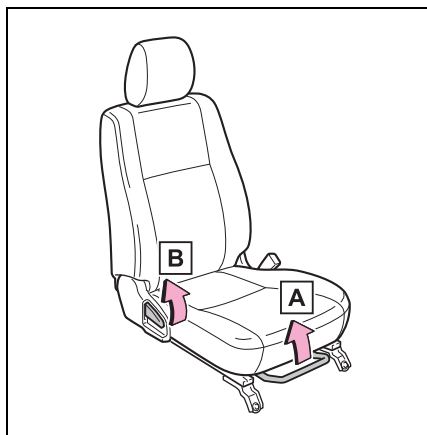
■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.113）から22cm以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

フロントシート

調整のしかた



A 前後位置調整※

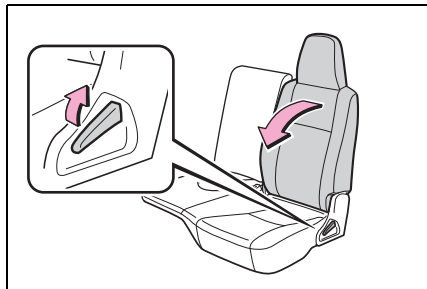
B リクライニング調整

※ 助手席は車種により固定式になります。
また、シートの意匠は車種により異なります。

助手席・中央席の前倒し（中央席装着車のみ）

■ 助手席

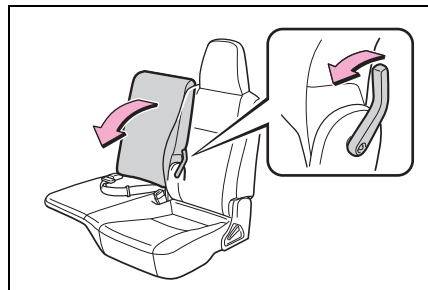
- 1 レバーを引いたまま、背もたれを前に倒す



- 2 もとにもどすときは、背もたれをそのまま引き起こす

■ 中央席

- 1 レバーを前側に引いて、背もたれを前に倒す



- 2 もとにもどすときは、レバーを前側に引いて背もたれを引き起こす

知識

■ 中央席の背もたれについて

前倒しから起こした状態で、レバーを前側に引きながら後方に倒すと、背もたれを3段階うしろに倒すことができます。

警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

⚠ 警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■ 背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しない

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあと

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする

リヤシート★

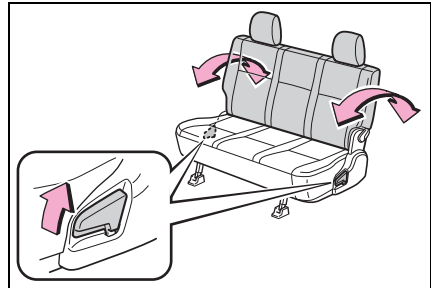
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシートは折りたたむことができます。

調整のしかた

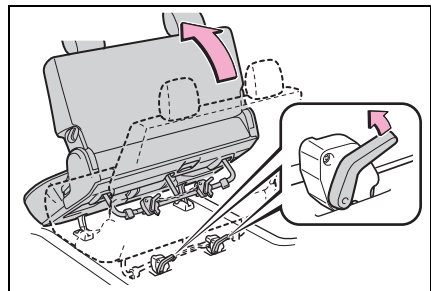
■ リクライニング角度の調整

左右いずれかのレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす



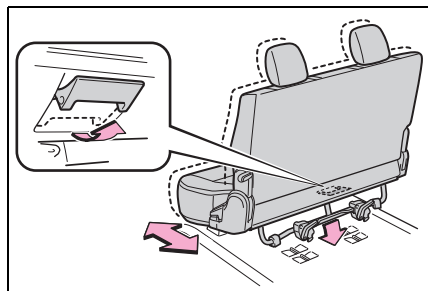
■ 前後位置の変更

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、セカンドシート後部を持ち上げる



- 3 スライドレバーを引いてシートを前後に移動させ、シートをフロアに押し付けてロックする

シートが確実に固定されたことを確認してください。



ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

一体式ヘッドレスト★はシート一体式のため、調整できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

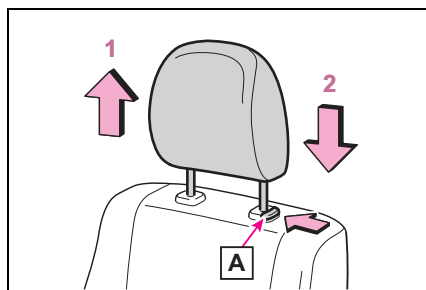
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ 分割式ヘッドレスト



1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

■ 一体式ヘッドレスト

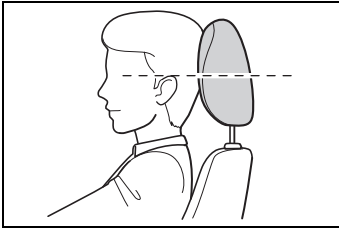
ヘッドレストの調整・取りはずしはできません。



知識

■ ヘッドレストの高さについて

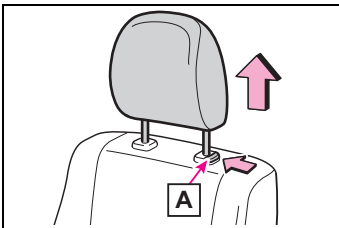
必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。
(→P.118)

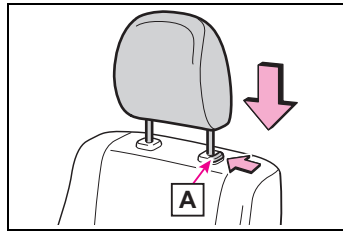


ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げて

ください。

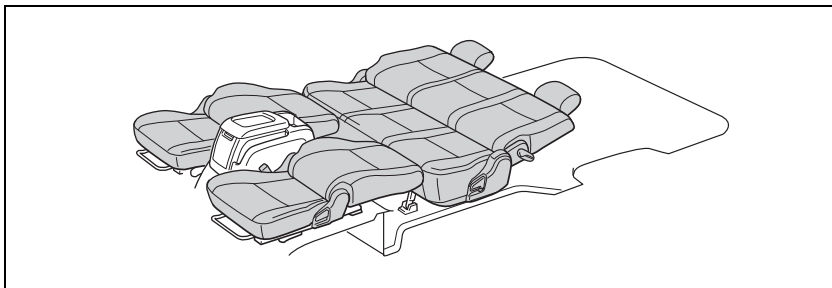
さらに下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作してください。



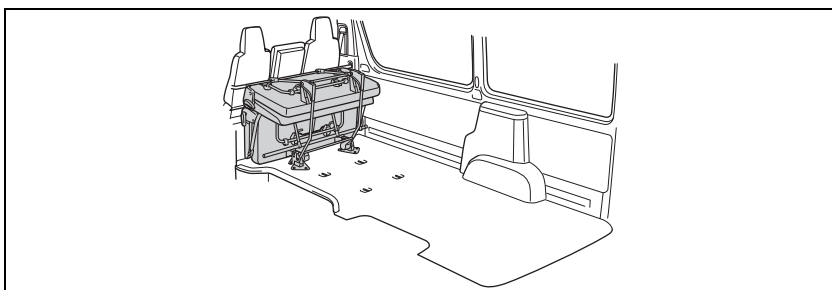
シートアレンジ

シートアレンジ

■ フラットシート（スーパー GL のみ）（→P.122）



■ 荷室の拡大



イラストはデラックス（3 / 6 / 9 人乗り）のシートで代表しています。

▶ スーパー GL

→P.123

▶ デラックス（3 / 6 人乗り）・デラックス（2 / 5 人乗り）

→P.123

▶ デラックス（3 / 6 / 9 人乗り）

→P.124

フラットシート（スーパー GL のみ）

1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

2 セパレーターバーを取りはずす（→P.127）

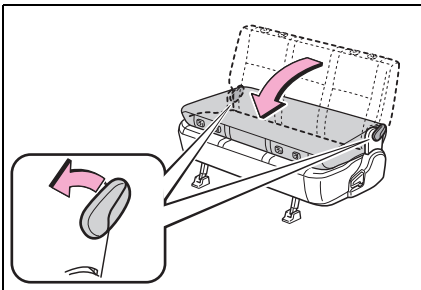
3 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→P.119）

- 4 セカンドシートの背もたれを後方にいっぱいまで倒す (→P.119)
- 5 フロントシートをいちばん前まで移動させる (→P.118)
- 6 フロントシートのヘッドレストをはずす (→P.120)
- 7 フロントシートの背もたれを後方にいっぱいまで倒す (→P.118)

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

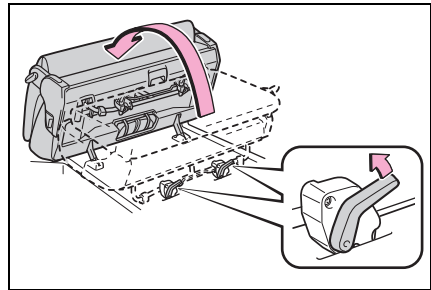
荷室の拡大 (スーパー GL)

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる (→P.119)
- 3 セカンドシートのヘッドレストをはずす (→P.120)
- 4 セカンドシートの背もたれを起こす (→P.119)
- 5 左右いずれかの前倒しレバーを引いて、背もたれを前に倒す

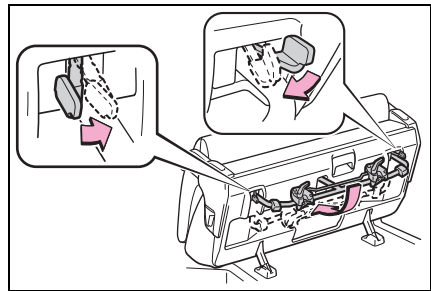


- 6 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部の

ロックを解除し、セカンドシート全体を前方に起こす



- 7 左右のレバーを内側に引いてロックを解除し、シート脚部を折りたたむ

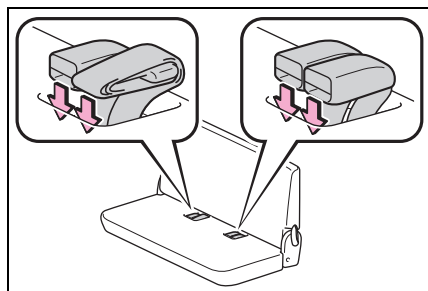


シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

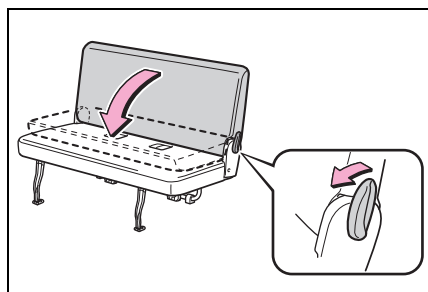
荷室の拡大 (デラックス 3 / 6 人乗り・デラックス 2 / 5 人乗り)

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

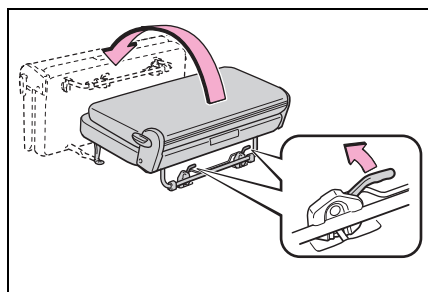
2 シートベルトのバックルとプレートを格納する



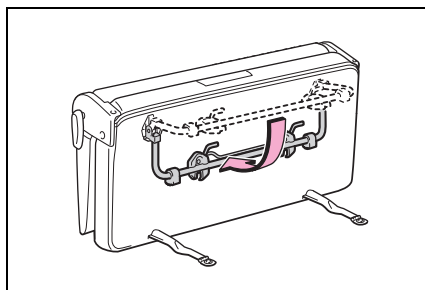
3 セカンドシート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す



4 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、セカンドシート全体を前方に起こす



5 脚部を折りたたむ



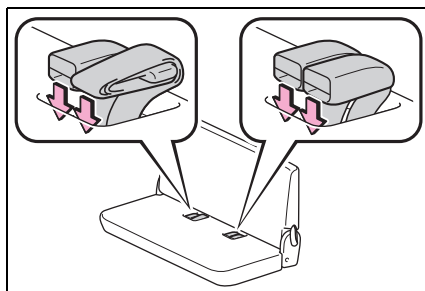
6 セパレーターバーの取り付け位置をかえる（→P.127）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

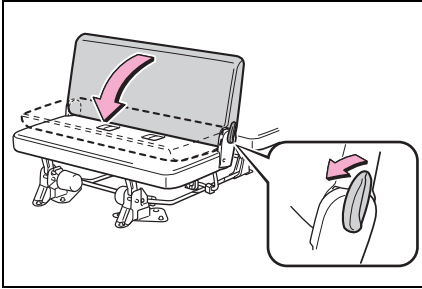
荷室の拡大（デラックス 3 / 6 / 9 人乗り）

■ 3 人乗りにするとき

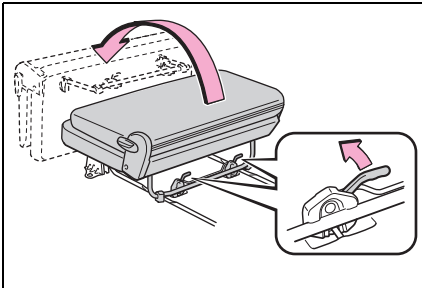
- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 シートベルトのバックルとプレートを格納する



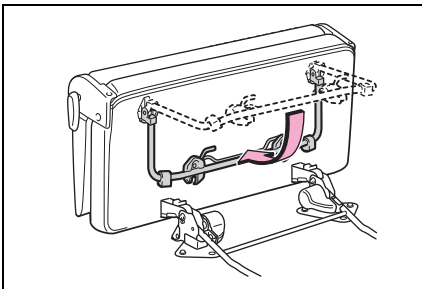
- 3** セカンドシート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す



- 4** 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート後脚部のロックを解除し、セカンドシートを前方に起こす



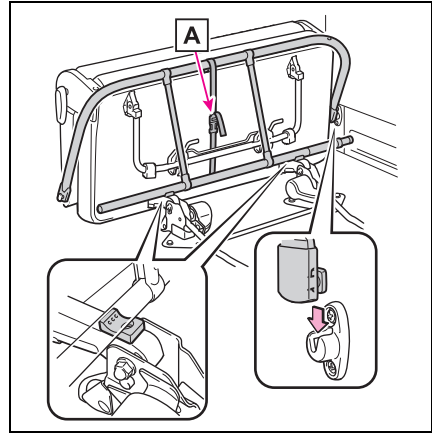
- 5** 脚部を折りたたむ



- 6** セパレーターバー（Dタイプ：→P.131）を取りはずし、図のように格納する

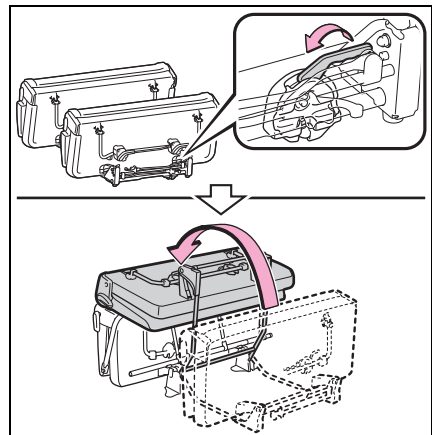
運転席側にあるブラケットに、セパレーターバー取り付け部を挿し込み、バンド

- A** で固定します。



- 7** セカンドシートの操作手順 **2** ～ **5** と同様にサードシートを前方に起こす

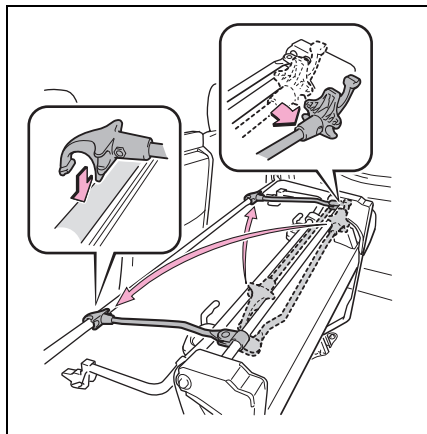
- 8** サードシート前脚部のロック解除レバーを引いてロックを解除し、サードシート全体を持ち上げ、セカンドシートの上に載せる



- 9** サードシートを固定する

サードシート後脚部にあるフックをはさみ、図のようにセパレーターバー（A タ

イブ：→P.129) にかけます。



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

セカンドシートをもとにもどすときは、サードシートが固定されていないと、シートは固定できません。

■ 6人乗りをするとき

- 1 P.124 の手順 1 ～ 5 までの操作をサードシートで行う
- 2 セパレーターバーの取り付け位置をかえる (→P.129)

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

セカンドシートをもとにもどすときは、サードシートが固定されていないと、シートは固定できません。

⚠ 警告

■ シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートアレンジ操作をしない

- 平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかける
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしない
- 操作をするときに可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意する
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する
- ラゲージルームに人を乗せて走行しない
- フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しない（スーパー GL）
- お子さまに操作させない
- ラゲージルームにお子様を乗せない

■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する
- ヘッドレストを取りはずしたときは、もとどおりに取り付ける（調整式ヘッドレスト装着車）

⚠ 注意

■フラットシートについて（スーパーGL）

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

■荷室の拡大について（デラックス 3 / 6 / 9 人乗り車）

セカンドシートのみを折りたたんだ状態で車を使用しないでください。

6 人乗りにするときは、必ずサードシートを折りたたみ、セパレーターバーを正しく取り付けられた状態で乗車してください。

セパレーターバー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セパレーターバーは、必ず荷室のいちばん前の位置になるように取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、不正改造になります。

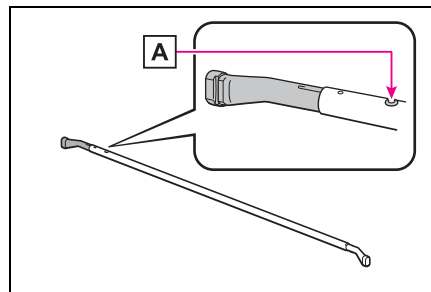
また、紛失すると車検を受けることができなくなります。

デラックス（2 人乗り）にはセパレーターバーの設定がありません。

セパレーターバーの種類

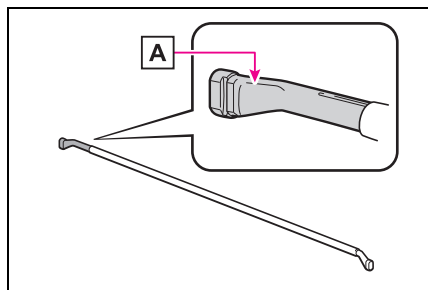
セパレーターバーには次の 4 種類があります。

■ A タイプ（固定クリップ付き）



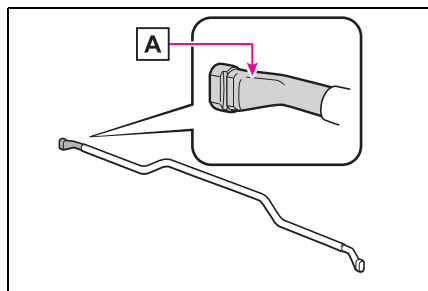
- ・ セパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
- ・ セパレーターバーの固定クリップ **A** が、運転席側になるように取り付けます。

■ B タイプ（伸縮式）



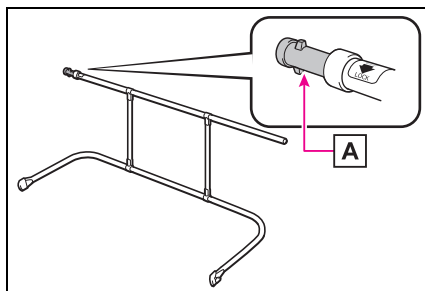
- ・ セパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
- ・ セパレーターバーの伸縮部 **A** が、運転席側になるように取り付けます。

■ C タイプ（ハイルーフ・ミドルルーフ用）



- ・ セパレーターバーのカーブが必ず上になるように取り付けます。
- ・ セパレーターバーの伸縮部 **A** が、運転席側になるように取り付けます。

■ D タイプ(デラックス3／6／9人乗り用)

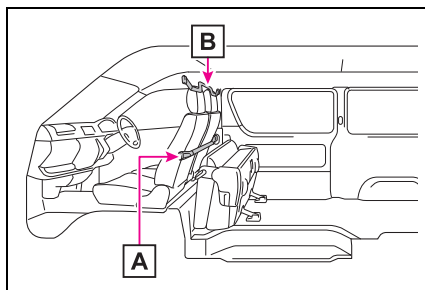


セパレーターバーの伸縮部 **A** が、必ず運転席側になるように取り付けます。

セパレーターバーの取り付け位置

■ スーパー GL

▶ 2人乗り時

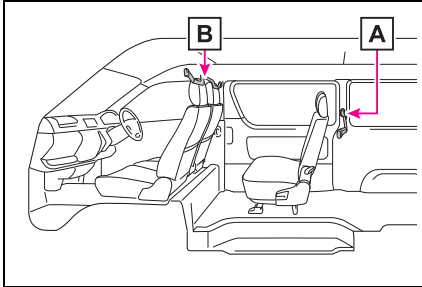


A B タイプ

B C タイプ

C タイプはミドルルーフの車両にのみ設定されます。

▶ 5人乗り時

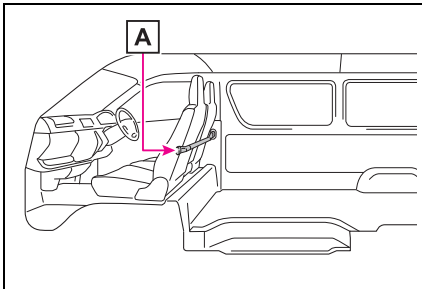


A Bタイプ

B Cタイプ

Cタイプはミドルルーフの車両にのみ設定されます。

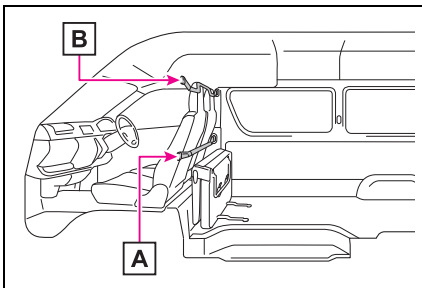
■ デラックス (3人乗り)



A Bタイプ

■ デラックス (3 / 6人乗り) ・ デラックス (2 / 5人乗り)

▶ 前席使用時

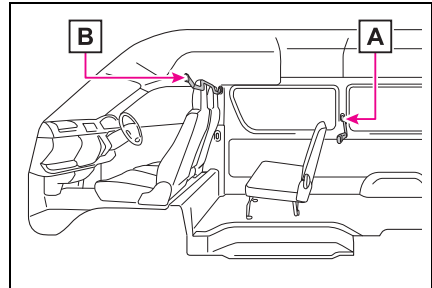


A Bタイプ

B Cタイプ

Cタイプはハイルーフの車両にのみ設定されます。

▶ 前後席使用時



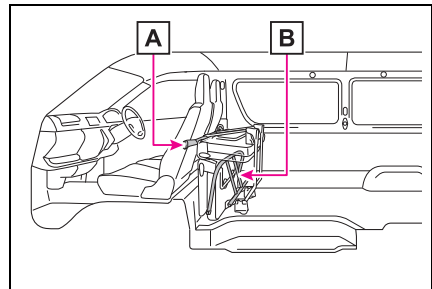
A Bタイプ

B Cタイプ

Cタイプはハイルーフの車両にのみ設定されます。

■ デラックス (3 / 6 / 9人乗り)

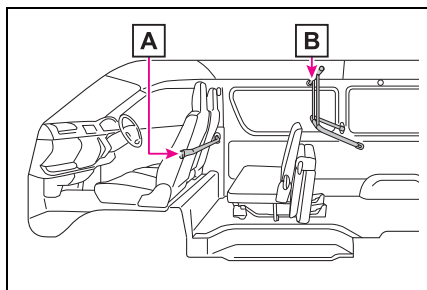
▶ 3人乗り時



A Aタイプ

B Dタイプ

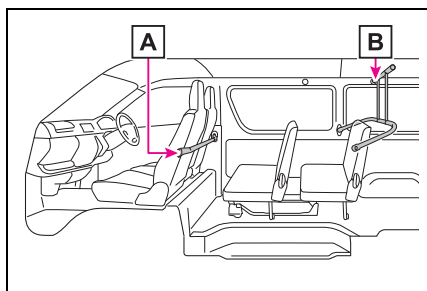
▶ 6人乗り時



A Aタイプ

B Dタイプ

▶ 9人乗り時



A Aタイプ

B Dタイプ

セパレーターバーの脱着 (Aタイプ)

■ 取りはずし方

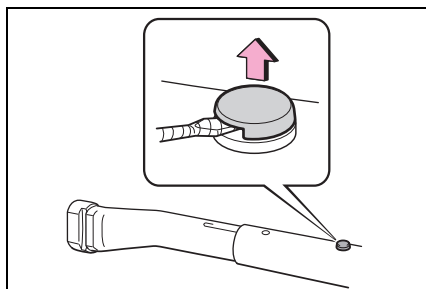
1 セパレーターバーの固定クリップをはずす

固定クリップは運転席側の取り付け部にあります。

固定クリップのピンをマイナスドライバーなどで引き上げて取りはずします。

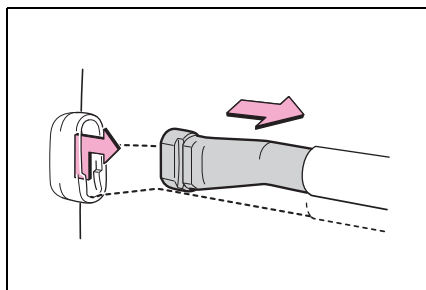
傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いて保護してく

ださい。



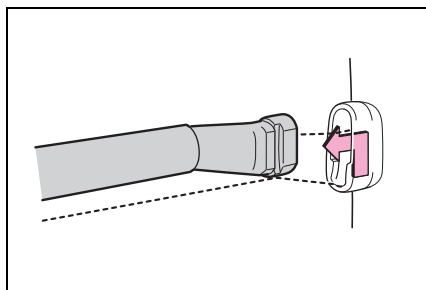
2 セパレーターバーの取り付け部(運転席側)を引き上げ、内側に縮める

運転席側(固定クリップ側)の取り付け部は、伸縮します。



3 セパレーターバーの取り付け部(助手席側)を引き上げ、セパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。



■ 取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で行います。

セパレーターバーのカーブが車両後方を向き、固定クリップが運転席側になるように取り付けてください。

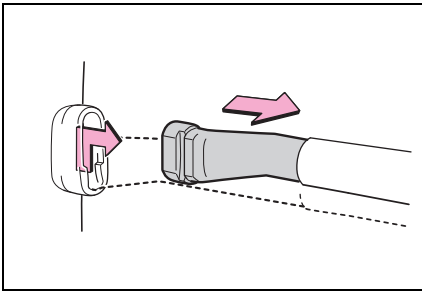
セパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

セパレーターバーの脱着 (B タイプ・C タイプ)

■ 取りはずし方

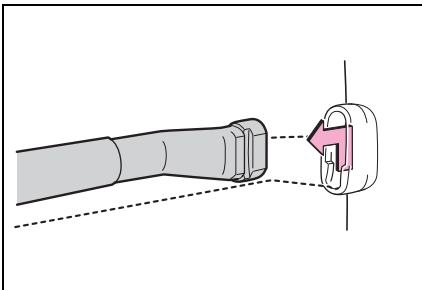
- 1 セパレーターバーの取り付け部（運転席側）を引き上げ、内側に縮める

運転席側の取り付け部は、伸縮します。



- 2 セパレーターバーの取り付け部（助手席側）を引き上げ、セパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。



■ 取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で行います。

セパレーターバーのカーブが車両後方を向き、伸縮部が運転席側になるように取り付けてください。

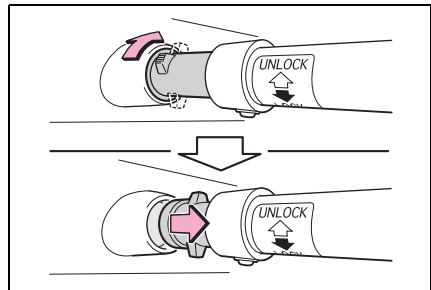
セパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

セパレーターバーの脱着 (D タイプ)

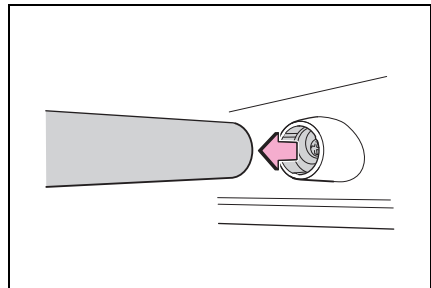
■ 取りはずし方

- 1 上側のセパレーターバー取り付け部（運転席側）をブラケットから取りはずす

取り付け部のツマミを UNLOCK 側にしてロックを解除し、取り付け部を内側に縮めて取りはずします。

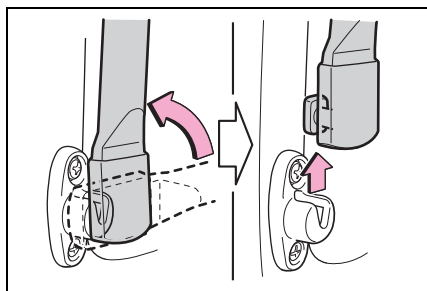


- 2 上側のセパレーターバー取り付け部（助手席側）をブラケットから取りはずす



- 3 下側のセパレーターバー取り付け部をブラケットから取りはずす

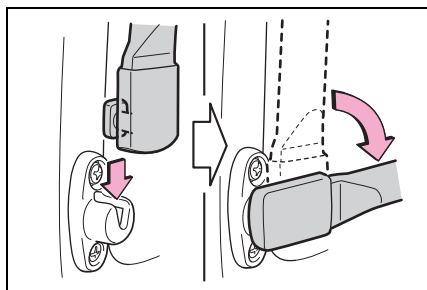
下側のセパレーターバー取り付け部が垂直になる位置まで起こし、セパレーターバー全体を引き上げてブラケットから取りはずします。



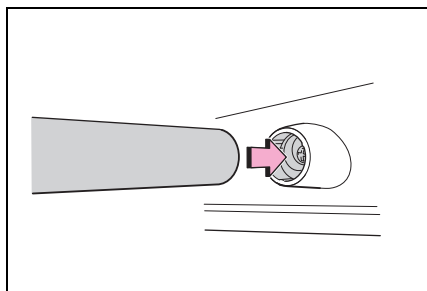
■ 取り付け方

- 1 下側のセパレーターバー取り付け部をブラケットに挿し込み、前方または後方に倒す

9人乗り時は車両後方に倒し、6人乗り時は車両前方に倒します。

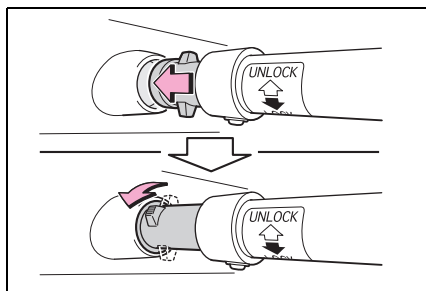


- 2 上側のセパレーターバー取り付け部（助手席側）をブラケットに挿し込む



- 3 上側のセパレーターバー取り付け部（運転席側）をブラケットに取り付ける

取り付け部を引き出してブラケットに挿し込み、ツマミを LOCK 側にして固定します。

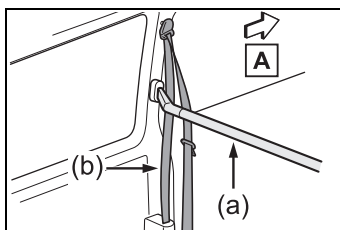


⚠ 警告

■ セパレーターバーを取り付けるとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、シートベルトが正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- セパレーターバー（B タイプ）を取り付けるときは、次のようにセパレーターバー（a）をシートベルト（b）のあいだにセットしてください。

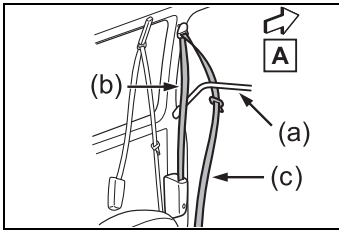


A 前方

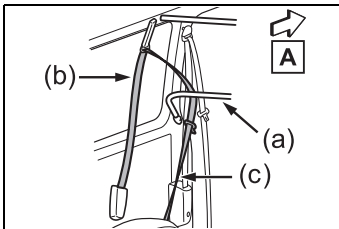
- セパレーターバー（D タイプ）を取り付けるときは、次のようにセパレーターバー（a）をシートベルト（b）と（c）のあいだにセットしてください。

⚠ 警告

- ・ 6 人乗り時は右図のようにセパレーターバーをセットする

**A** 前方

- ・ 9 人乗り時は右図のようにセパレーターバーをセットする

**A** 前方**■ セパレーターバーを取り付けたあとは**

確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、走行中にセパレーターバーがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

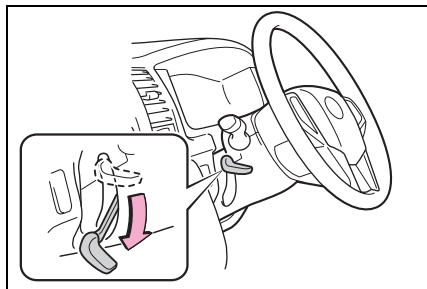
⚠ 注意**■ はめ込むタイプのセパレーターバーについて**

セパレーターバーの取り付け部をブラケットにはめ込むときは、必ずセパレーターバー全体を下側に押さえてください。片側のみに荷重をかけると、ブラケットが破損するおそれがあります。

ハンドル

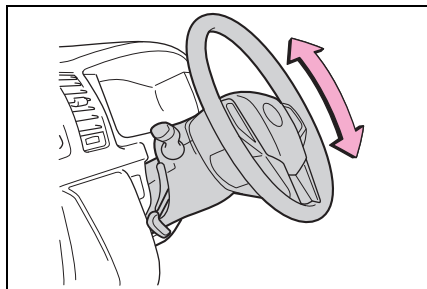
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

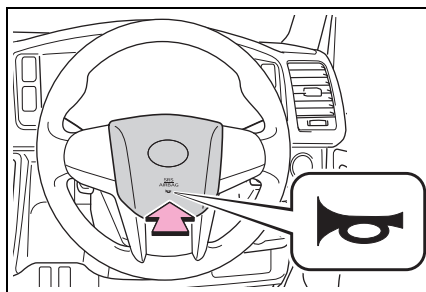
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー★

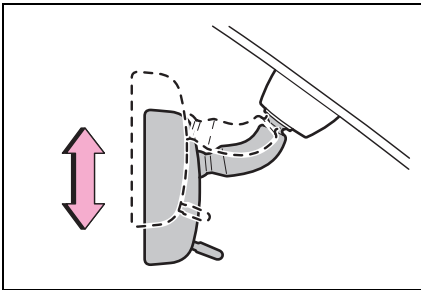
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

■ 走行中の留意事項

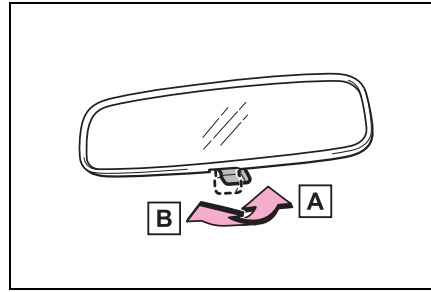
走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



A 通常使用時

B 防眩時

▶ 自動防眩ミラー

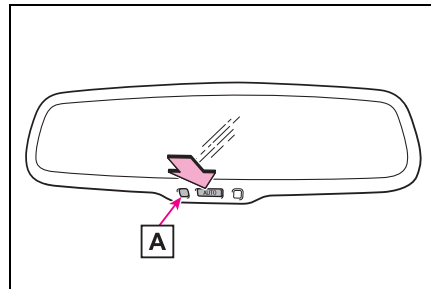
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター **A** が点灯します。

エンジンスイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。

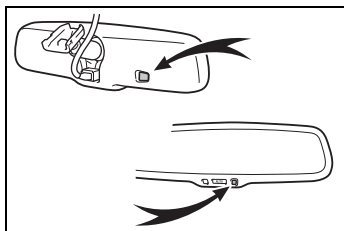


知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサー

にふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。

切り替えレバーを操作することで、鏡面ミラーモードとデジタルミラーモードを切り換えることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

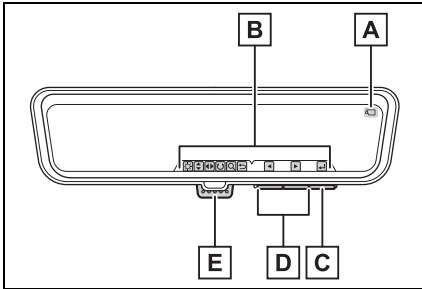
⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.138)
- ・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称

**A** カメラインジケータ

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.138）などが表示されます。

C メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

D 選択スイッチ

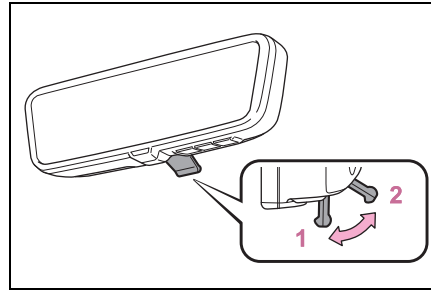
調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

**1** デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

- カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、リヤウォッシャー（→P.140）を作動させてください。それでも見えにくい場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- ミラーの反射や汚れで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してくだ

さい。

- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
- ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
- ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
- ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点を合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

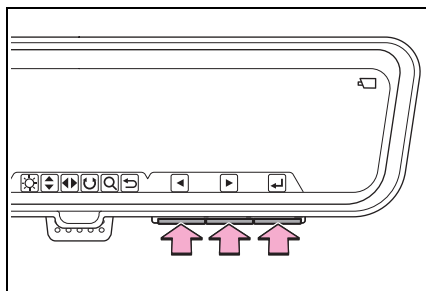
調整するには

■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整ができます。

- 1 メニュー／決定スイッチまたは選択スイッチのいずれかを押す

調整アイコンが表示されます。



- 2 選択スイッチを押して調整したい項目（調整アイコン）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

各調整画面が表示されます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。

- 3 選択スイッチを押して調整し、メニュー／決定スイッチを押す
調整アイコンの表示画面に戻ります。

- 4 選択スイッチを押して にカーソルを合わせてメニュー／決定スイッチを押す

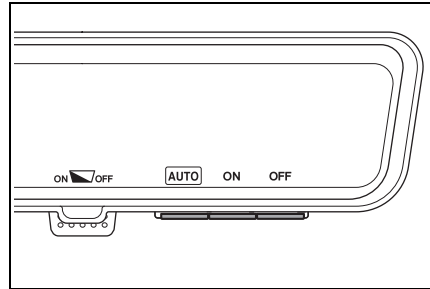
調整アイコンの表示が消えます。

■ 防眩機能の切りかえ（鏡面ミラーモード）

防眩設定画面が表示されているときに、選択したい防眩機能アイコンのスイッチを押すことで、鏡面ミラーモードの防眩機能を切りかえることができます。

鏡面ミラーモードでいずれかのスイッチを押したとき、またはデジタルミラーモードから鏡面ミラーモードへ切りかえたときに防眩設定画面が表示されます。

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと防眩設定画面の表示が消えます。



防眩機能アイコン	設定内容
	スイッチを押すごとに、自動防眩機能の ON/OFF が切りかわります。 自動防眩機能 ON：車両前方が暗いとき、車両後方の明るさに応じて、自動的に防眩状態の ON（ミラーの反射率が低い状態）/OFF（ミラーの反射率が高い状態）を切りかえて、まぶしさを低減します。 ON：防眩 ON の状態 OFF：防眩 OFF の状態 自動防眩機能 OFF：ミラーの反射率が高い状態で固定されます。
	自動防眩機能 OFF かつ防眩 ON 状態（ミラーの反射率が低い状態）で固定されます。
	自動防眩機能 OFF かつ防眩 OFF 状態（ミラーの反射率が高い状態）で固定されます。

□ 知識

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行くと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

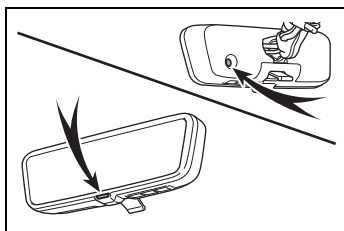
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわりません。

■ センサーの誤作動防止

本体の 2ヶ所に明るさを測定するセン

サーがあります。

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

● 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

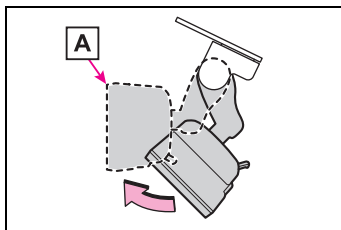
デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の高さと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用を続けると、発火の原因になります。ただちに鏡面ミラーモードに切りかえてトヨタ販売店にご相談ください。

■ ミラー本体の位置が下がってしまったときは

ミラー本体を“カチッ”と音がして固定されるところ **A** (通常使用位置) まで引き上げてください。下がった状態のままでは、運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



お手入れについて

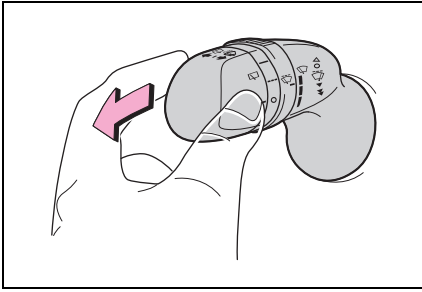
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、車両後方の状態を鮮明に見ることができません。この場合、リヤウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。

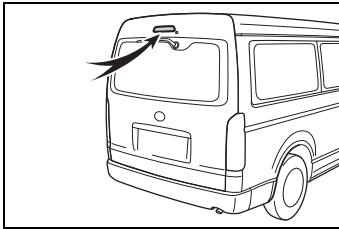
ワイパーレバーを前方へ押すとリヤウォッシャーが作動します。



知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



■ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

- カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなる場合がありますので、周囲の状況に注意して運転してください。
- カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなる場合があります。この場合、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。
- カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメ

ラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

⚠ 注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。
- ミラー表面をふくときは、強くこすらないでください。強くこすると、ミラー表面が傷ついて車両後方の状態が見えにくくなる場合があります。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

 注意

- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される車両後方の状態が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。
	・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した ・ 排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
ディスプレイに表示される車両後方の状態がずれている	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	・ リヤウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。（→P.140） ・ 鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ・ 大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上にが表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった ディスプレイ上のが消灯した	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上にが表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がるとが消えます) ミラーの温度が下がってもが消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます)

アウターミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にアウターミラーを使用するとき

寒冷時にアウターミラーが凍結していると、アウターミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。アウターミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.253, 258）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

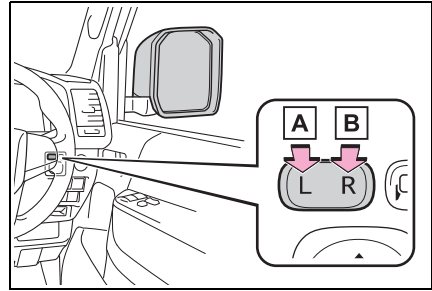
■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整のしかた

スイッチで鏡面の角度調整をします。

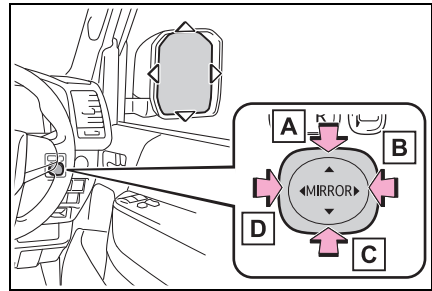
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

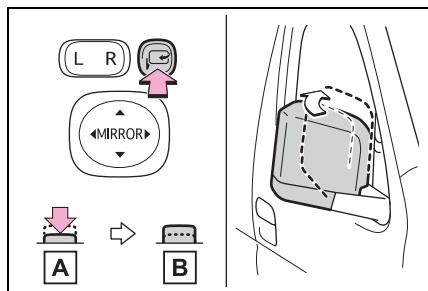
知識

■作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

アウターミラーを格納する

ボタンを押してアウターミラーを格納する



A 格納状態

B 復帰状態

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

⚠ 警告

■ ミラーが動いているとき

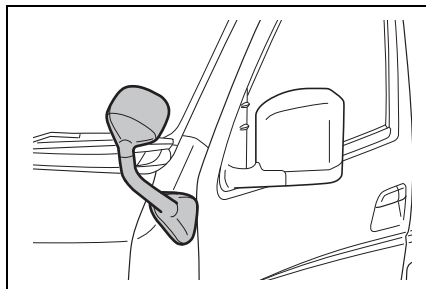
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助ミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、車両前面を確認するときに役立ちます。

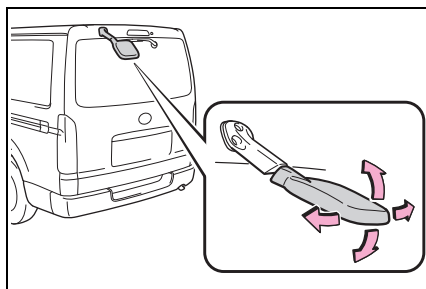


リヤアンダーミラー

後退時の視界確保に貢献します。

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



⚠ 注意

■ 補助ミラーについて

● 補助ミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

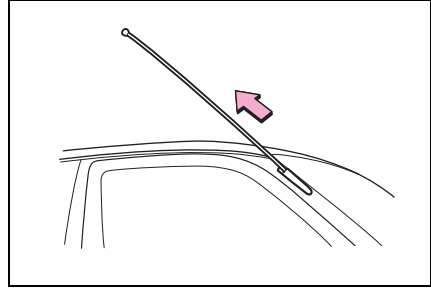
⚠ 注意

- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、デジタルインナーミラー★・インナーミラー★・アウターミラーなども併用し十分注意して行ってください。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アンテナ★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

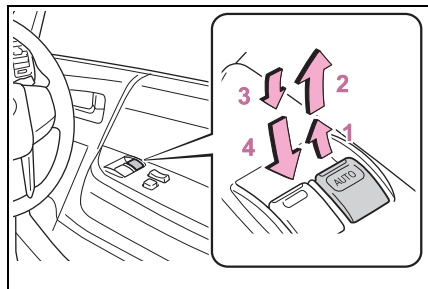
次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉（運転席のみ）※
- 3 開ける
- 4 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動（運転席ドアガラスのみ）

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ドアガラスを閉じることができないとき（運転席ドアガラスのみ）

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉じることができないときは、パワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉じない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする
- 2 半分までドアガラスを開ける
- 3 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けてドアガラスを全閉し、そのままスイッチを約 11 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを再接続したときは

運転席ドアガラスの自動開閉や挟み込み防止機能などが作動しなくなります。

パワーウィンドウを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

- 1 半分まで運転席のドアガラスを開ける
- 2 スwitchを引き上げて運転席のドアガラスを全閉し、そのままスイッチを 11 秒間保持する

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

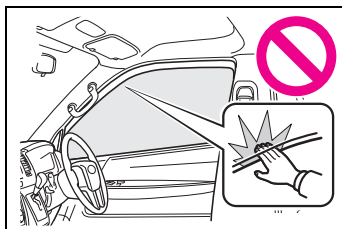
警告

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.149)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

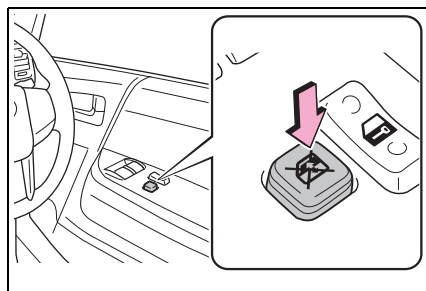
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウィンドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが非作動になります。



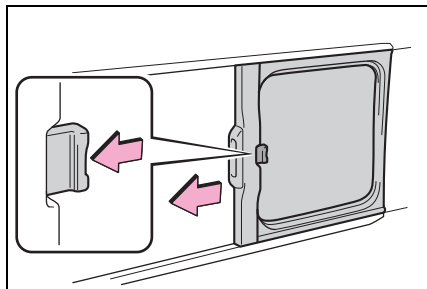
スライド式リヤサイドガラス★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

開けるときは、ノブを押してロックをはずし、ガラスをスライドさせる

ガラスの開度は、3段階から選択できます。

操作後は、ガラスが確実に固定されたことを確認してください。



⚠ 警告

■ スライド式リヤサイドガラスを開閉するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤサイドガラスを開閉するとき、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リヤサイドガラスの操作をさせないでください。リヤサイドガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

マイセッティング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

マルチメディアシステム装着車：認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動切りかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー★

スマートエントリー&スタートシステム★が電子キーを検出することで個人を特定します。(→P.88)

● Bluetooth® デバイス★

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参

照してください。

電子キー検出して個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● 表示設定※（メーター、マルチメディアディスプレイ★）

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● 車両設定※（マルチインフォメーションディスプレイ、マルチメディアディスプレイ★で設定できる項目）

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 一部の設定項目を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	154
荷物を積むときの注意	161

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）	162
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	164
オートマチックトランスミッション	169
方向指示レバー	172
パーキングブレーキ	173

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	174
AHB（オートマチックハイビーム）	177
フォグランプスイッチ	179
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	181
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	182

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	184
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）	187
Toyota Safety Sense	190
PCS（プリクラッシュセーフティ）	196
LDA（レーンディパーチャーアラート）	203
発進遅れ告知機能	207

RSA（ロードサインアシスト）	208
レーダークルーズコントロール	211
クルーズコントロール	219
クリアランスソナー	222
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	228
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）	232
プラスサポート（販売店装着オプション）	234
運転を補助する装置	239
排出ガス浄化装置（ディーゼル車）	244

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	248
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.162, 164

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.169)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.173)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.173)

長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→P.169)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.173)、シフトレバーをPにする (→P.169)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め (→P.341) を使用してく

ださい。

■ 上り坂で発進する

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■ エンジン出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します (→P.239)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、または

シフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドリング運転について（ディーゼル車）

ターボ装置の損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドリング運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

■ 環境に配慮した運転

→P.80

■ 路面状態の悪い泥水路を走行したあとは（ディーゼル車）

尿素水インジェクターの冷却フィンに詰まった異物（泥や木の葉）を取り除いてください。

必要に応じてトヨタ販売店にご相談くだ

さい。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

 警告

- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.320 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.169)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラー★・デジタルインナーミラー★の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。また 4WD 車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N に入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。特にディーゼル車は高温になる場合がありますので、注意してください。
(→P.244)

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。また制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■ 万一脱輪したとき (4WD 車)

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために (ディーゼル車)

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→P.155)
- 排気管・エアクリーナなどには純正部品または同等品をお使いください。

- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- 極寒の環境では、エンジン始動後に30秒以上アイドリング運転を行ってください。また、アイドリング運転中は空ぶかしをしないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。(→P.366)

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.339を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジンの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- 電動ファンシステム
- エンジン・トランスミッション・トランスファー (4WD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

**注意****■ 駐車するとき**

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき ※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制

できない場合があります。

**知識****■ ドライブスタートコントロールについて**

- TRCの作動を停止(→P.240)すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。(→P.240)
- タイヤがスリップ(空転)していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御のON(作動)/OFF(非作動)を切りかえることができます。(→P.373)
 - ・ エンジンスイッチをONにしたときは、後退速度の抑制制御は常にON(作動)になっています。
 - ・ 後退速度の抑制制御をOFF(非作動)にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージスペースに積まないでください。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席・フロント中央席★・リヤシート★（荷物を積み重ねる場合）
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

- セパレーターバー装着車は、セパレーターバーを取りはずした状態で、荷室に荷物を絶対に積まないでください。
急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
また、セパレーターバーを取りはずしたまま走行すると、不正改造になります。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンをかけるには

▶ ガソリン車

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかり踏む
- 4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

▶ ディーゼル車

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかり踏む
- 4 エンジンスイッチを“ON”にまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら“START”の位置にまわす



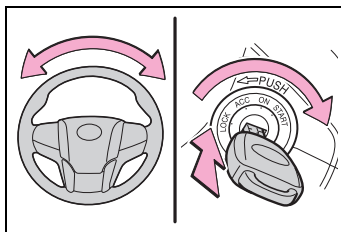
知識

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→P.50）
トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



⚠ 警告

■ エンジンが始動するときは

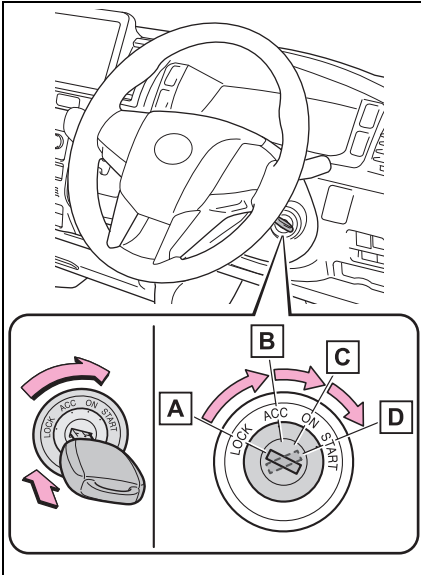
必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンが始動するとき

- 一度に30秒以上スターターをまわさないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

エンジンスイッチを切りかえるには



A “LOCK” (OFF)

ステアリングロックがかかります。シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます。

B “ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

C “ON”

すべての電装品が使用できます。

D “START”

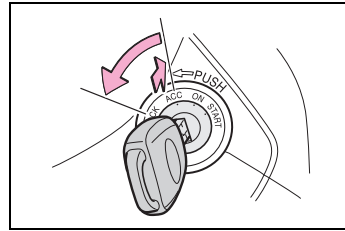
エンジンが始動できます。



知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■極寒時のエンジン始動について (ディーゼル車)

極寒時は約 30 秒を限度に、エンジンを始動するまでエンジンスイッチをまわし続けてください。約 30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エンジンスイッチを“ACC”にもどし、約 20 秒以上待ってから再始動してください。

警告

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ACC”にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P.320)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

 注意

■ 予熱表示灯について（ディーゼル車）

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

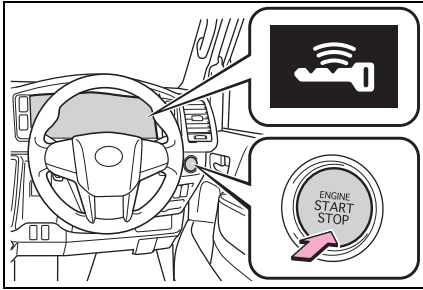
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

ディーゼル車： （予熱表示灯）が点灯後消灯したらエンジンが始動します。
エンジンスイッチのどのモードからでも

エンジンを始動できます。



プラスサポート★をご使用の方は、P.234 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ エンジンスイッチ文字照明

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ文字照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、エンジンスイッチ文字照明が点灯します。
- エンジンスイッチが OFF のとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ文字照明が点滅します。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、エンジンスイッチ文字照明が点灯します。
- エンジンスイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、エンジンスイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■ 電子キーの検知に関する留意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、オープントレイ内、カップホルダー内、荷室内などにあるときは、スマートエン

トリー&スタートシステムが正常に作動しません。また、リヤシート装着車はリヤシート上にある場合も、正常に作動しないことがあります。（作動範囲：→P.113）

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.50）
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.354 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.94）はエンジンを始動できます。

■ 電池の消耗について

→P.88

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.115

■ ご留意いただきたいこと

→P.115

■ マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池交換

→P.302

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動させようとする場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待つてから操作してください。

■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー & スタートシステムを非作動にしたときは、P.376 を参照してください。

⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

- 2 パーキングブレーキをかける(→P.173) メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。
- 3 シフトレバーを P の位置にする(→P.170)

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

⚠ 警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.320) ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

エンジン停止するには

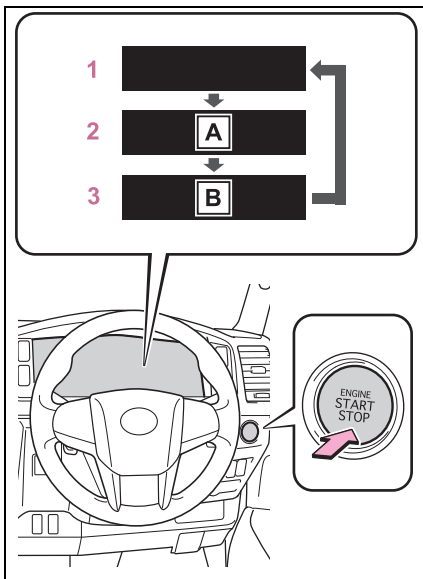
- 1 車両を完全に停止させる

警告

- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを短く確実に押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B パワー ON

1 OFF※¹

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※²

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”が表示されます。

※¹シフトレバーが P 以外の場合は ON のままになり、OFF になりません。

※²カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。
(→P.381)

知識

■ACC カスタマイズ★が“OFF”のとき

エンジンスイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■自動電源 OFF 機能

●シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 ACC か ON (エンジンがかかっている状態) にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

●シフトレバーが P にあるとき、エンジンスイッチが ACC または ON (エンジンが始動していない状態) のときにバッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチは ON のままになるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※ ¹
S	S モード走行 ※ ² (→P.171)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。



知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に S モード走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

■ オートマチックトランスミッション保護機能

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。

このとき、トランスミッションが損傷ないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。

トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.160

■ AI-SHIFT ★

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているとき自動的に作動します。（シフトレバーを S にすると機能が解除されます。）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

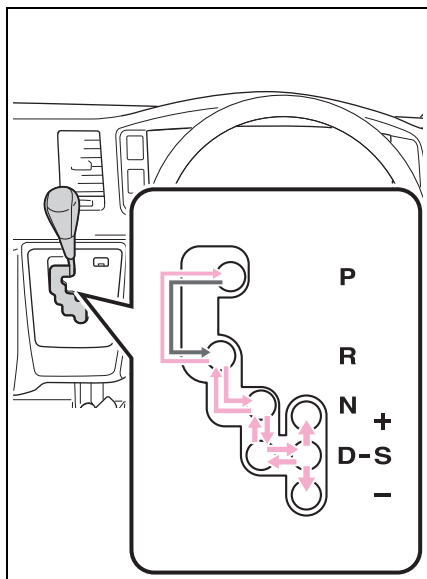


警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチが ON の

状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレ

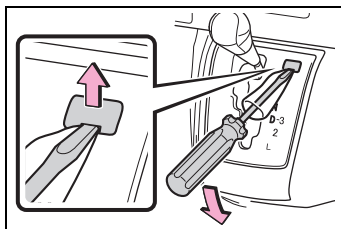
バーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

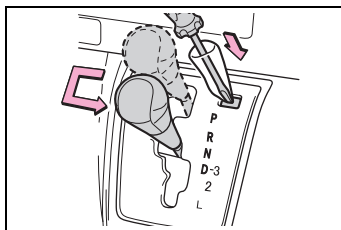
- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 ドライバーの先端などでシフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

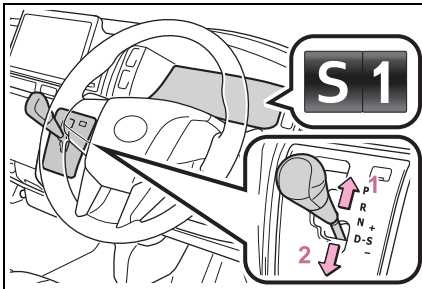
■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

S モードでのシフトレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

1～6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 または 4 レンジに設定されます。

ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジになる場合があります。

(→P.169)

■ シフトレンジ機能

- 車速と走行状況によって、1～6 速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■ S モードについて

- 4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると 6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします

■ シフトダウン制限警告ブザー (S モード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■ シフトレバーを S にしても、シフトポジション表示が S にならないとき

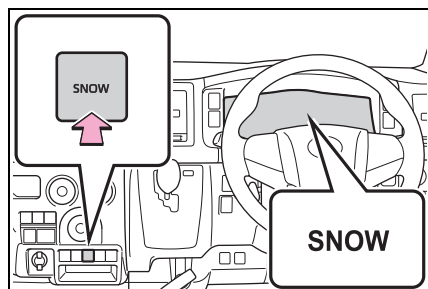
システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スノーモードの選択★

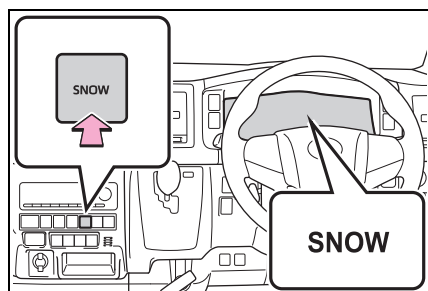
雪道などすべりやすい路面での発進時に選択します。

スノーモードスイッチを押す
もう一度押すと、解除されます。

▶ マニュアルエアコン装着車



▶ オートエアコン装着車



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

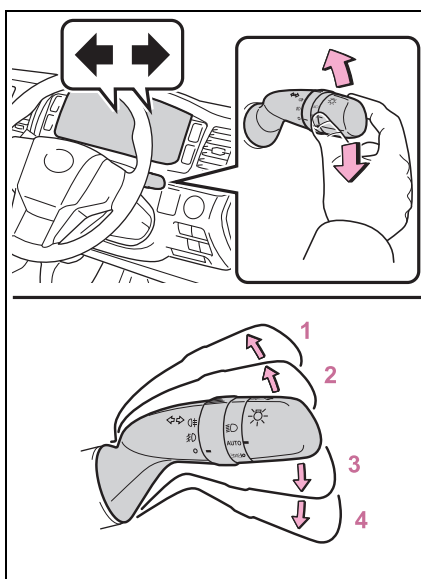
■ スノーモードの自動解除★

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

方向指示レバー

操作のしかた



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- 3 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- 4 右折

 知識

■ 作動条件

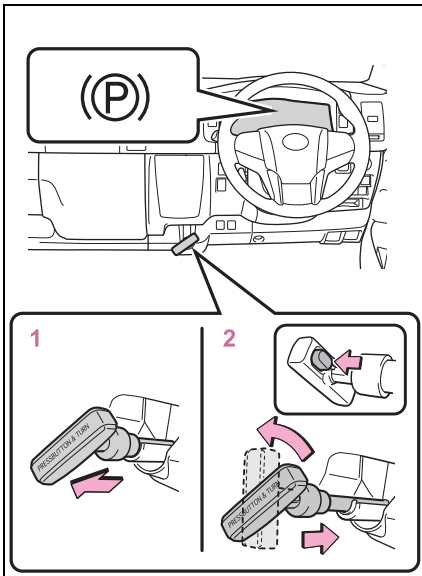
エンジンスイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた



- 1** パーキングブレーキをかける
ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。
パーキングブレーキ表示灯が点灯します。
- 2** パーキングブレーキを解除する
レバー裏側にあるボタンを押しながら左にまわし完全に奥までもどしてください。

知識

■ 駐車するとき

→P.154

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/hをこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.248

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

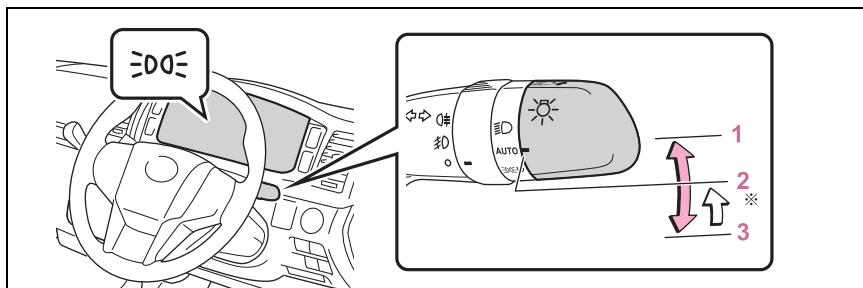
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※ ¹	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドライト・スモールランプが点灯
3  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※¹ **3**  の状態に切りかえるには  スイッチを下に回した状態で約 1 秒保持してから、手を離します。

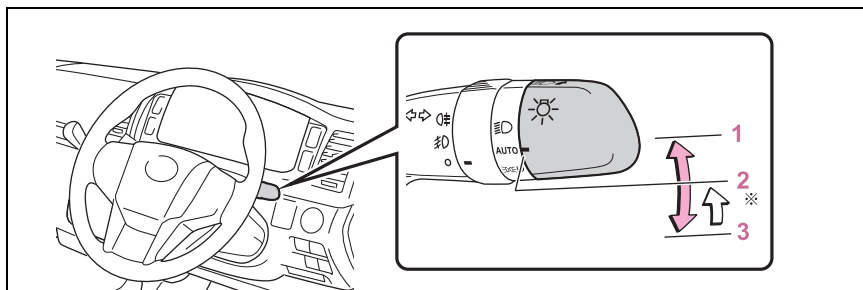
約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は **2** **AUTO** のまま変化しません。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

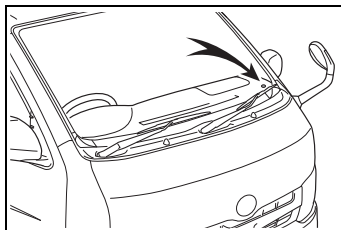
エンジンスイッチが ON のとき

■ 自動で点灯 / 消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯 / 消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にしてバックドアを除くいずれかのドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または

 の位置にします。

■ カスタマイズ機能

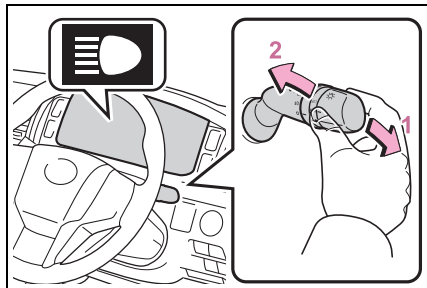
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.377)



注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	ハロゲンランプ	LED ランプ
運転者	なし	0	0
	ラゲージルーム 満載時	3	2※1,4 2.5※2,4 3※3,4

※1 TRH221K-LRTDK、TRH226K-LRTDK、GDH226K-LRTDY モデル

※2 ※1, 3 以外のモデル

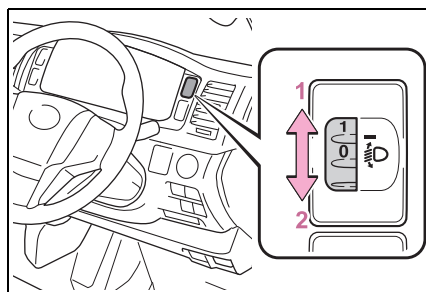
※3 TRH200V-SRTEK、TRH211K-KRTEK、GDH201V-SRTEY、GDH211K-KRTEY モデル

※4 車両の型式を確認するには、製造者ラベルで確認することができます (→P.11)

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

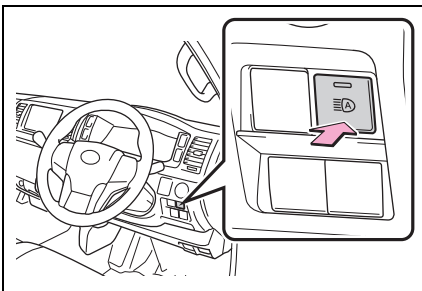
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.190

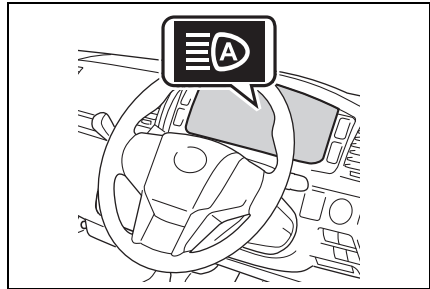
オートマチックハイビームを使うには

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたはにする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき

- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.194
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき

- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.190
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.194

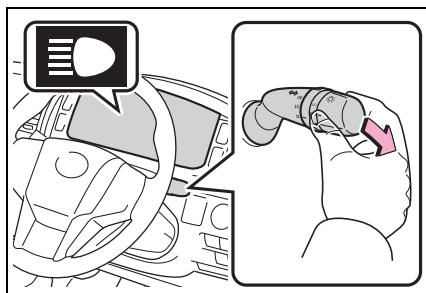
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

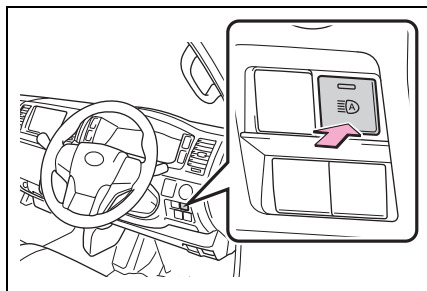


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

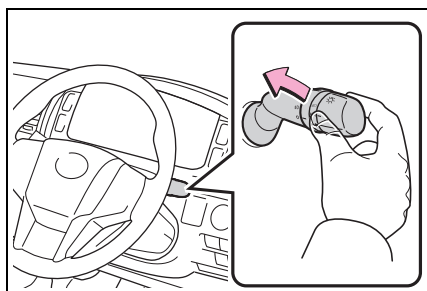


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



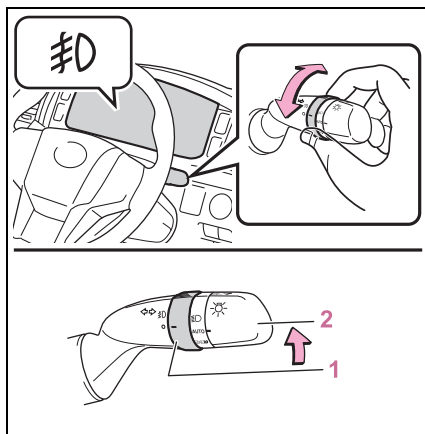
フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた

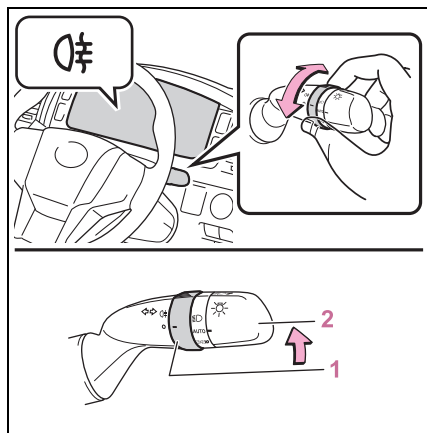
▶ フロントフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 Ⓚ 点灯する

▶ リヤフォグランプ装着車



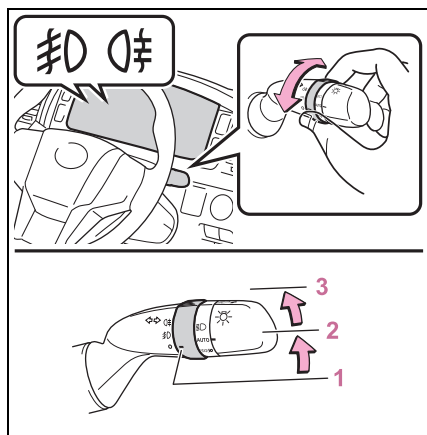
1 ○ 消灯する

2 点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると消灯します。

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 点灯する

3 フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと 点灯する位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切り替えたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。



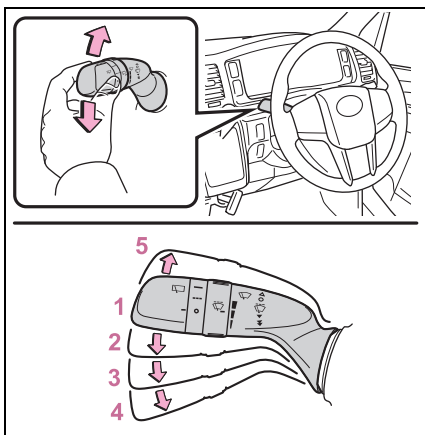
注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

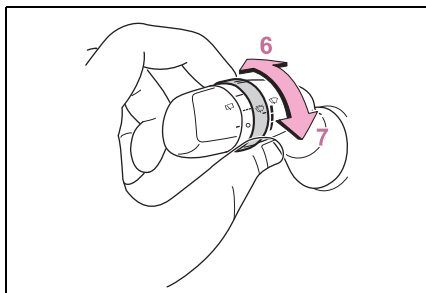
操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



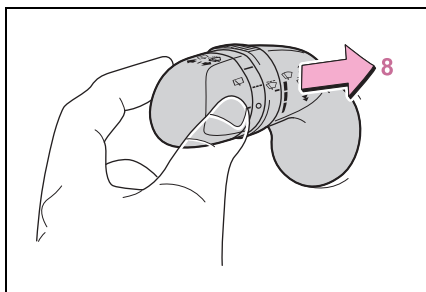
- 1 ○ 停止
- 2 間欠作動
- 3 ▼ 低速作動 (LO)
- 4 ▼ 高速作動 (HI)
- 5 △ 一時作動 (MIST)

間欠作動を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。(間欠時間調整式ワイパー装着車)



6 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

7 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)

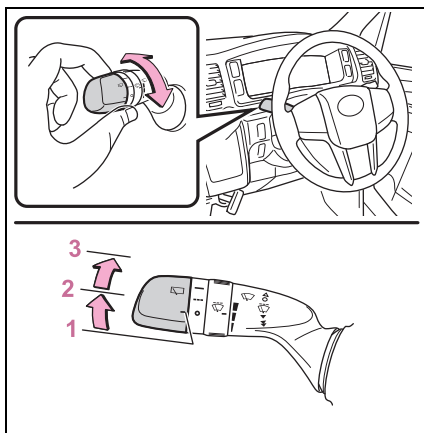
注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

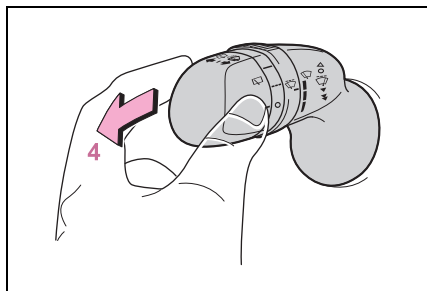
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 — 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。デジタルインナーミラー★（→P.136）を洗浄するウォッシャーも同時に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R に入れるとリヤワイパーが 1 回作動します。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■ カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更することができます。（カスタマイズー

覧：→P.373)

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

▶ ガソリン車

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

▶ ディーゼル車

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

■ バイオ混合ガソリンについて

ガソリン車は、エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリンまたは軽油や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

● 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

■ 給油するとき（ディーゼル車）

指定の軽油を使用してください。

指定以外の軽油や他の燃料（ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合軽油※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

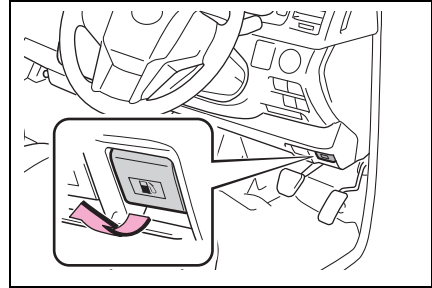
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
 - エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
 - エンジン出力が低下する
 - 排気制御システムが正常に機能しない
 - 燃料系部品が損傷する
 - 塗装が損傷する
 - 排出ガス浄化装置が正常に機能しない
- 指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。
- ※ 脂肪酸メチルエステル混合率 5% をこえるもの

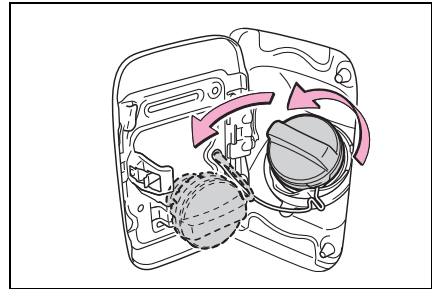
給油口の開け方／閉め方

■ 給油口を開けるには

- 1 オープナーを引いて、給油扉を開く



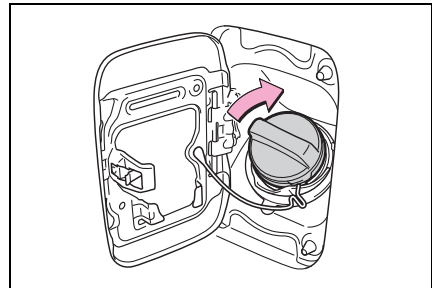
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



■ 給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



**警告****■ キャップが正常に閉まらないとき**

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま
使用したり、純正品以外のキャップを
使用すると、火災などを引き起こし、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

- Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイ★※ / スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 メインメニューの  にタッチする
- 2 “運転支援アップデート” にタッチする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

■ 自車のToyota Safety Senseのバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

- 1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



知識

■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイ★に通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ソフトウェアアップデートについて留意事項**

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。
 - 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。エンジンスイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。
 - ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。
 - ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。
 - 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。
 - ・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※
 - ・法規上の問題が発生したとき ※
 - ・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき
- ※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やバンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

⚠ 警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置**■ AHB（オートマチックハイビーム）**

→P.177

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.196

■ LDA（レーンディパーチャアラート）

→P.203

■ 発進遅れ告知機能

→P.207

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.208

■ レーダークルーズコントロール

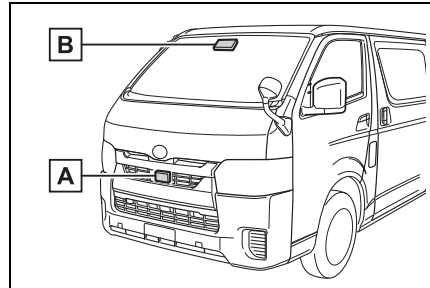
→P.211

■ クルーズコントロール

→P.219

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー**A** 前方レーダー**B** 前方カメラ**⚠ 警告****■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

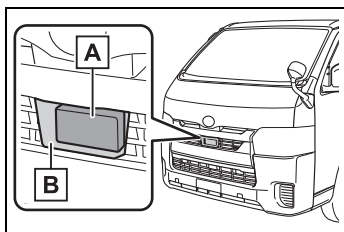
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

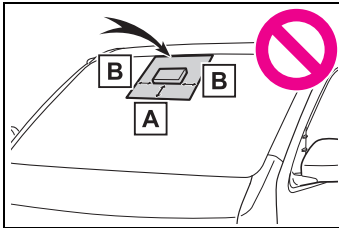
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

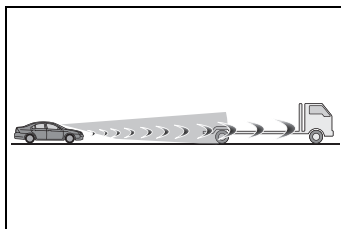
知識

■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

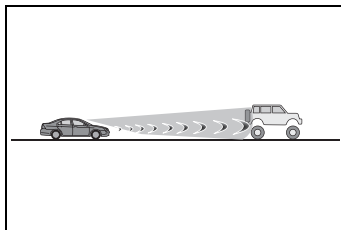
- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール

- ・ ガードレール
- ・ 鉄板

- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれているとき
- 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

変化する道

- ・ 左右に傾きのある道
- ・ 路面に深いわだちがある道
- ・ 整備されていない荒れた道
- ・ 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定なとき
- 車線内での自車の位置が一定でないとき
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに入出りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき

■ 車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC 等の安全システムが作動時
- VSC、TRC 等の安全システムが OFF のとき

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.196）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.202）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・安全にお使いいただくために：
→P.190

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるときは：→P.190

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

※人が乗車している場合のみを作動対象としています。

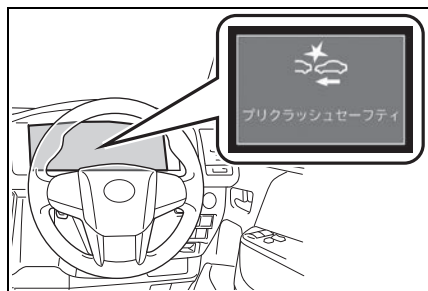
機能一覧

■衝突警報

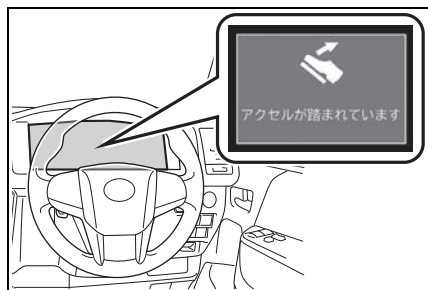
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

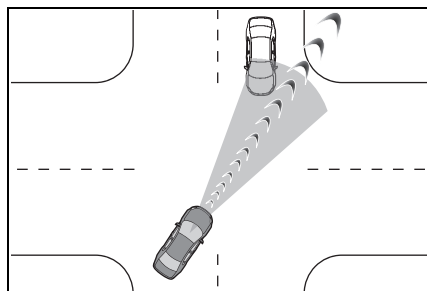
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 交差点衝突回避支援（右左折）

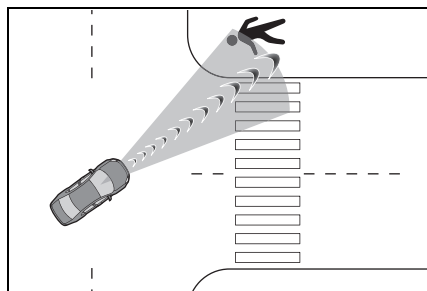
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



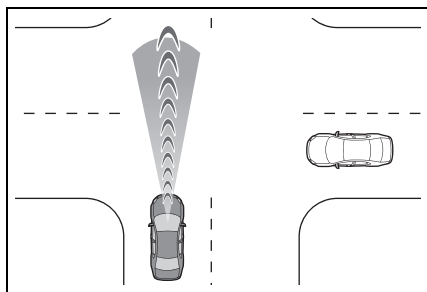
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

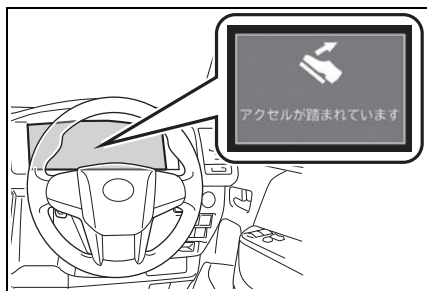
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	・ 自車速度以下 ・ 約 40km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

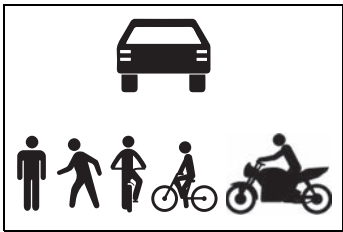
作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

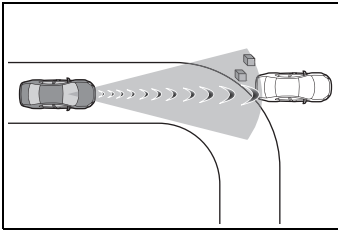
■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。

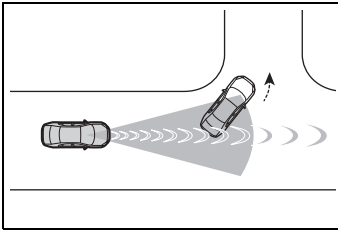


■ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

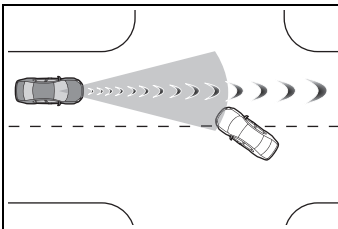
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



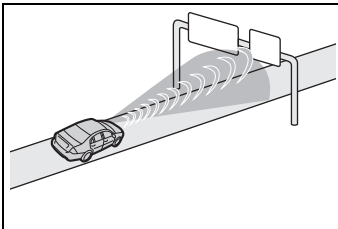
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつかにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

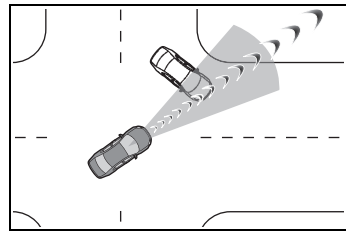


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

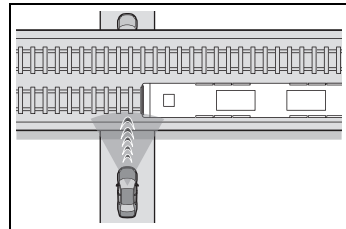


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき

- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき

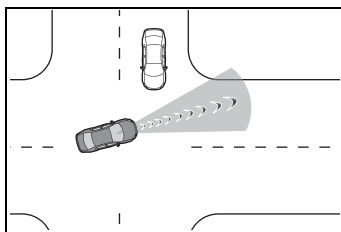


■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

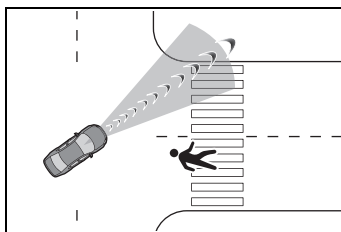
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）

- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間

- ・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追いつくように前方にでくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
- ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
- ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
- ・ 壁が生垣など草木のとき
- ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
- ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタ

マイズメニューから切りかえることができます。(→P.373)

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.373)
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が (早い) のタイミングで作動します。

LDA (レーンディパーチャアラート)

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

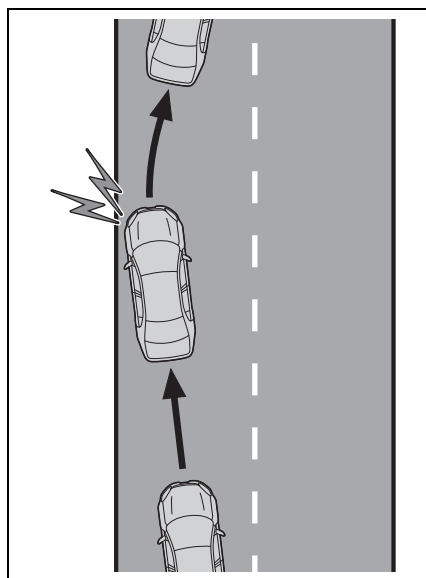
※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

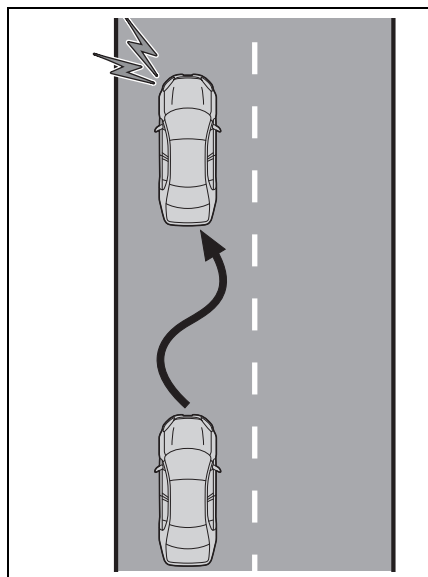
道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

□ 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)

- ・ システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ VSC または TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

■ 機能の一時解除

作動条件（→P.204）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能の作動について

- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報が作動しない場合があります。

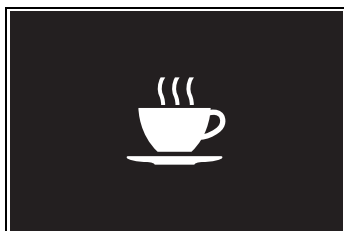
※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

■ 休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.373)
- エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→P.373)

⚠ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動しないおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.195
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.194
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.195
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.190

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	状態
 黄色点灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	システムが車線を認識している

表示灯	車線表示	状態
 黄色点減	 黄色点減	点減している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかかったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■ 作動条件

次の条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

あるとき：→P.194

■ 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいらない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき
- 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかかったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.373)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることが

できます。(→P.373)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.190
- 機能が正常に作動しないおそれのある状況
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.194

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標識が制

限される場合があります。

知識

■ 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

● システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

● 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

● 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

● 終わりを示す補助標識を認識したとき

■ 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

● 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

● 電光標識のコントラストが低いとき

● 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

● 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

● 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

● 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

● 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

● システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

● 側道の手前標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

● ロータリー（環状交差点）を走行して

いるとき

● トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

● 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

● 工事などの通行規制区間に標識があるとき

● 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

● ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

● ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとしてシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■ 告知機能の作動条件

● 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

● 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

● 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

■ 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- ・ 右左折等により標識が検知できないとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 信号機が点滅信号のとき
- ・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

- ・ 交差点間の距離が近いとき

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・ 標識や信号機が多数あるとき
- ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別が付きにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・ 信号機の灯色が黄色のとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止



RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.373)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.216

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

 警告

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

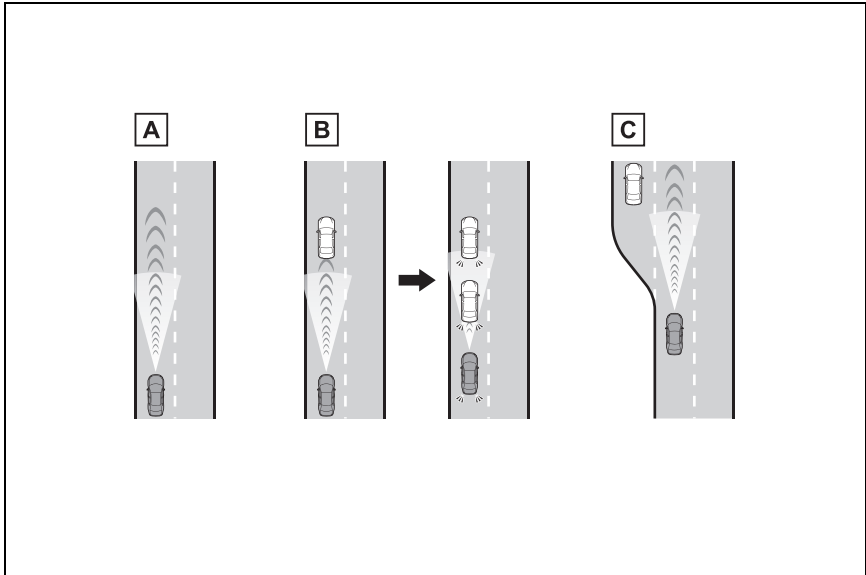
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.194
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.190

基本機能

**A** 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止し、停止後に制御が解除されます。制御を再開させる場合は、再度“RES”もしくは“走行支援スイッチ”を操作する必要があります。

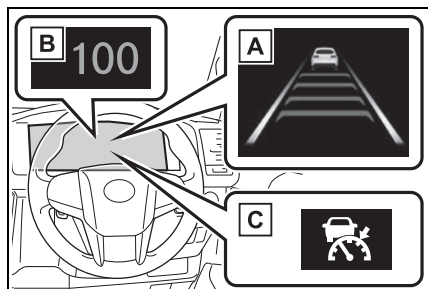
C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

システムの構成部品

■ メーター表示

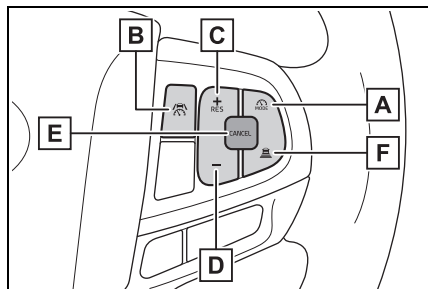


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D - スイッチ

E キャンセルスイッチ

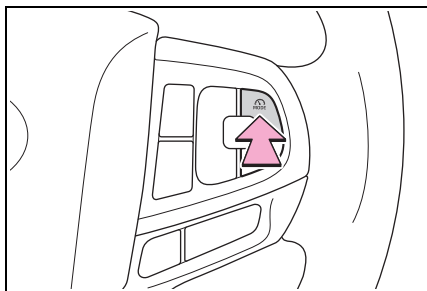
F 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズモードを選択する

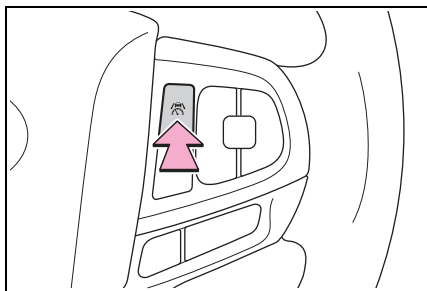
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。

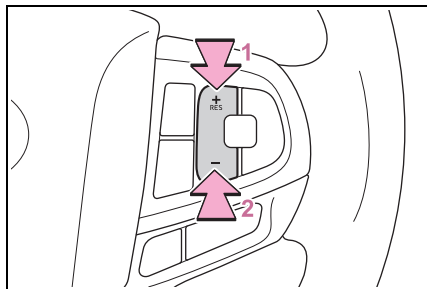


■ 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチま

たは－スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

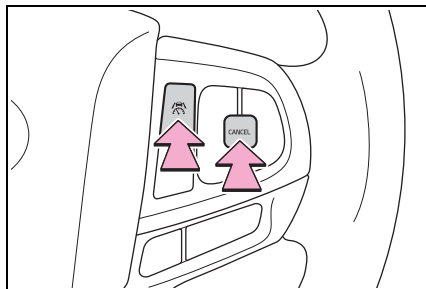
2 ＋スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除され

ます。

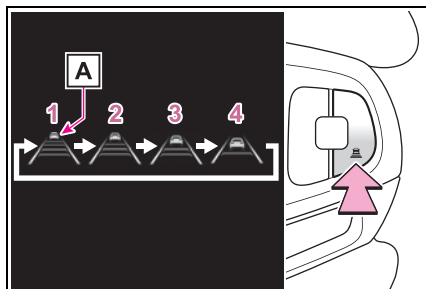


2 制御を復帰させるには、RESスイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク**A**も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/hの場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。

知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- ・ 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
- ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車両が停車したとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき
- 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- プリクラッシュセーフティが OFF のとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.195

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.190

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が

不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.216）も作動しないおそれがあります。

- 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけたとき
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機

能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して減速することで、車線変更を補助します。

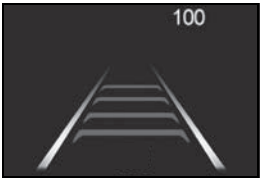
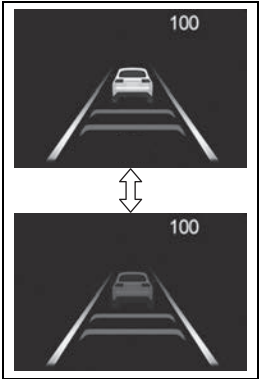
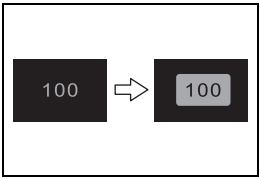
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.373)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色 点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
 緑色		設定速度：緑色反転 表示	設定速度超過時

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

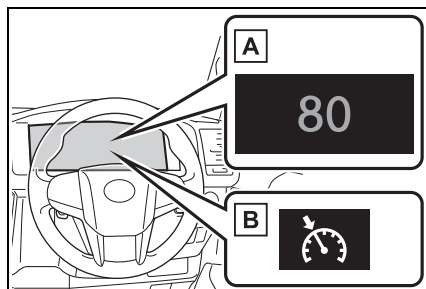
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.190

システムの構成部品

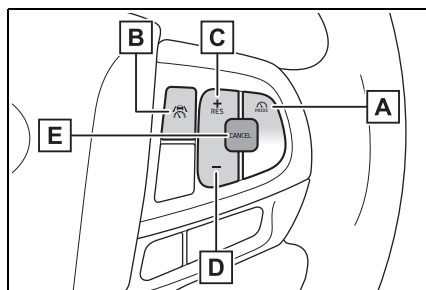
■メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D - スイッチ

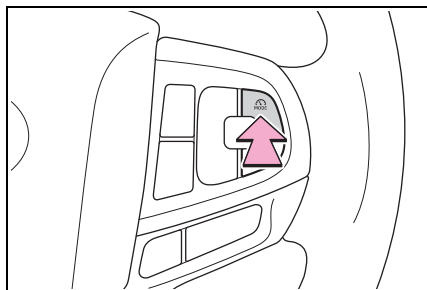
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

■速度を設定する

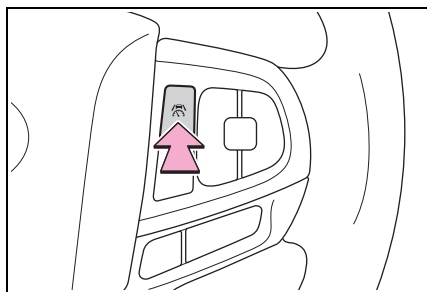
- 1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2** 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

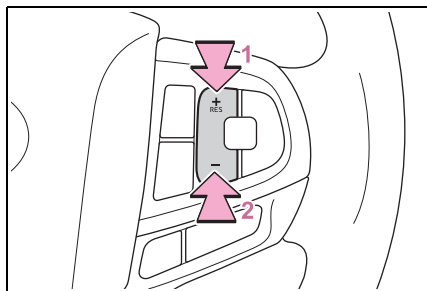
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。



- 1 速度を上げる

- 2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

- アクセルペダルで設定速度を上げる

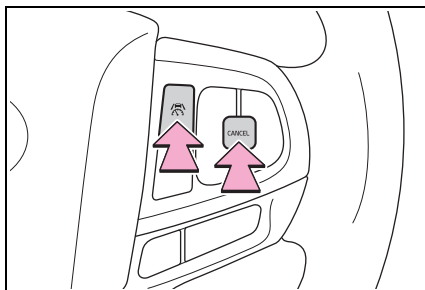
- 1 設定したい车速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- 2 ＋スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



- 2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

□ 知識

■ クルーズコントロールの自動解除

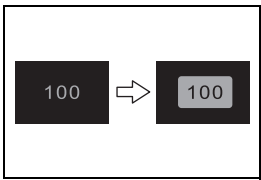
次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より车速が約 16km/h 以上低下したとき
- 车速が約 30km/h 未満になったとき

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.195

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色			クルーズコントロール OFF
 緑色			設定速度：緑色 定速走行
 緑色			設定速度：緑色反転表示 設定速度超過時

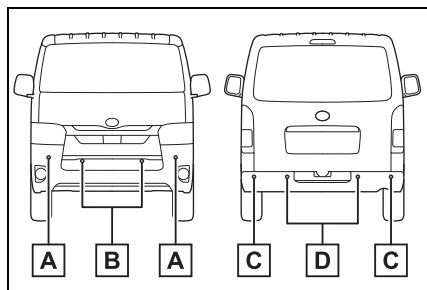
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内※で運転者にお知らせします。

※ 仕様によって音声案内の有無は変わります。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディアディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、

仕様により異なります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



▶ マルチメディアディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

□ 知識

クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.223) が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.373)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.73) が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.373) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。(エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品 (字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど) を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本シ

ステムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの

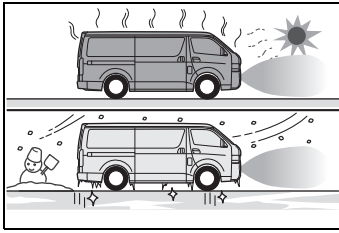
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
 - 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパーリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

き

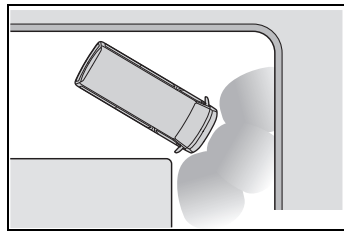
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

- けん引しているとき

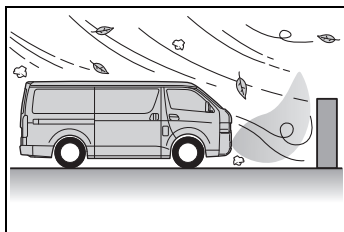
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

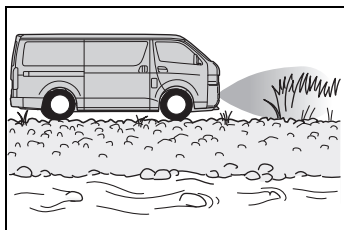
- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



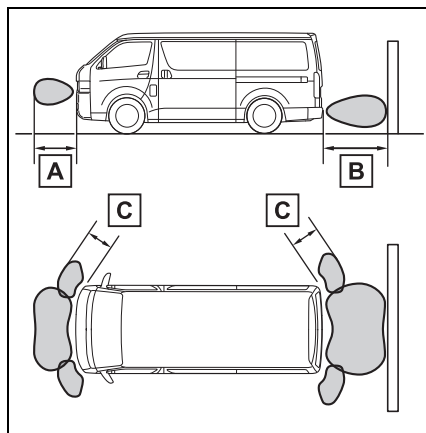
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→P.227)

■ 音声案内※とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内※を行います。

※ 仕様によって音声案内の有無は変わります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

■ 知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナーの音量を切りかえることができます。(→P.373)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナーのブザー音がミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が一定値以上になったとき
 - ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
 - ・ エンジンスイッチを OFF にしたとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）：→P.232

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき

警告

- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.373)

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.73）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.373）から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。
（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ
表示例：“アクセルが踏まれています
ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

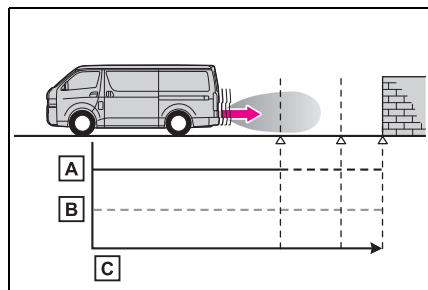
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより车速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図3）

● 図1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

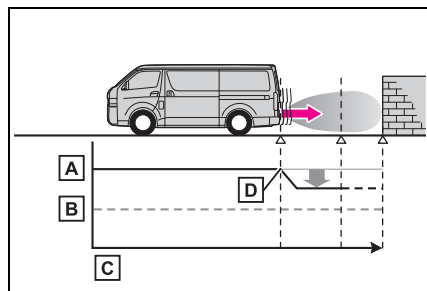


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図2（エンジン出力抑制制御時）



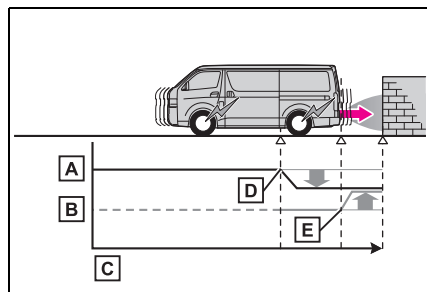
A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき）

● 図3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と

衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)

およその距離をお知らせします。

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。
(→P.73)

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく (→P.223)、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ (→P.229)、ブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象との

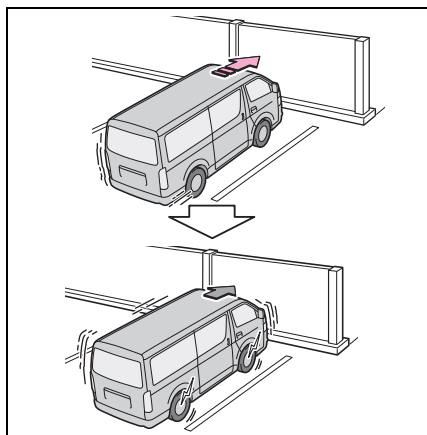
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

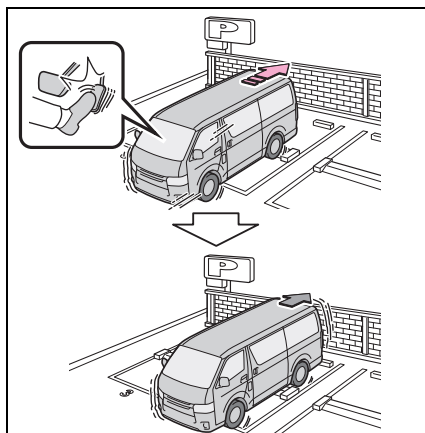
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

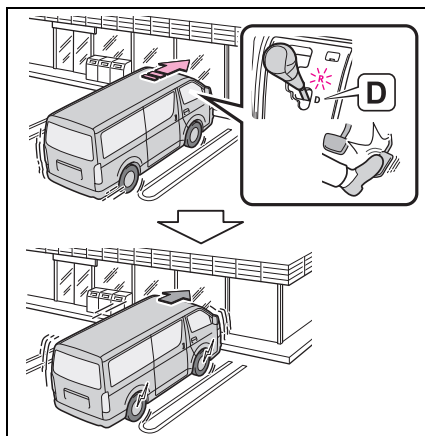
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



- 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.222

⚠ 警告

- システムを正しく作動させるために

→P.223

警告

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.231

■ 洗車時の注意

→P.223

知識

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.72）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.226）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.224

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.225

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起
- 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフ

ティシステム）

- LDA（レーンディパーチャアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- クリアランスソナー

知識

■ カスタマイズの初期値変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

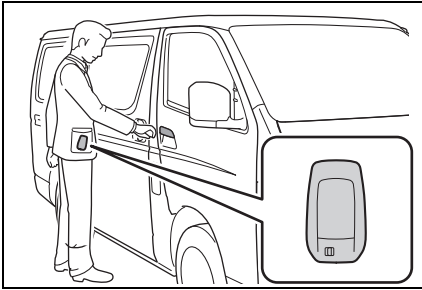
プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.88, 92）

エンジンスイッチがOFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは

作動可能になりません。

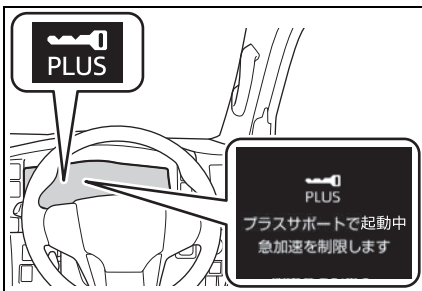


2 通常の手順でエンジンをかける
(→P.164)

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチのを押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するま

で、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

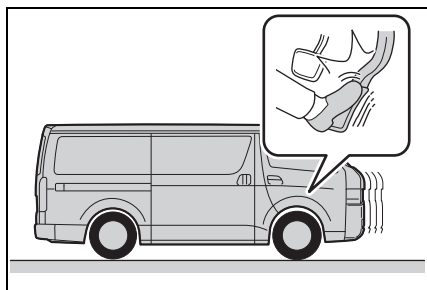
■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください(→P.73)。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行(約 30km/h 以下)中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジン出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

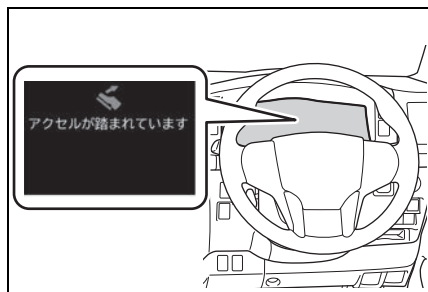
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションがP・N以外するとき
- 車速が約 30 km / h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30 km / h、後退時は約 12 km / h* までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

* 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、ま

たはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）

- 急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両姿勢の変化
 - ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - ・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
 - ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
 - ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
 - ・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
 - ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくともシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

- 車両姿勢の変化
 - ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - ・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
 - ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
 - ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
 - ・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき

- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき
- 運転操作の影響
- ・ 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・ 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ ETC ゲート通過後に急加速したとき
- ・ ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■ 交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続

車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

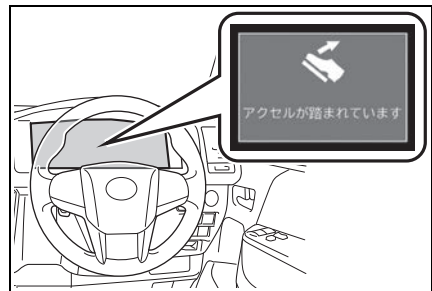
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

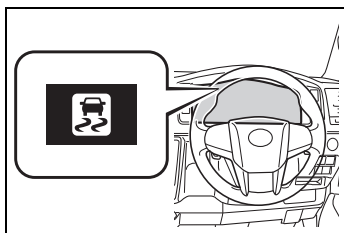
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

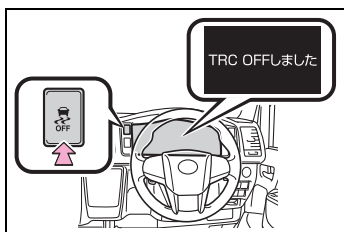


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでエンジンの出力が上がらず、脱出が困難場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す



マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ ブリクラッシュブレーキアシスト・ブ

リクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.198)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R のとき

- 車両停止状態

- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが ON

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R 以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- エンジンスイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチをOFFにしたとき
- (TRCのみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中にSRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

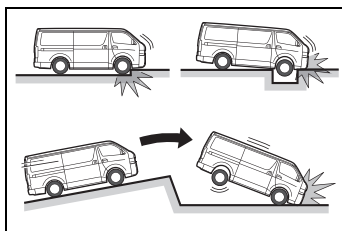
次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
 - ・車速が約 60km/h 以下のとき
 - ・SRSエアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
 - ・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
 - ・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ
※あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※とき
- ※アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突してなくても、システムが作動する場合があります。
 - ・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
 - ・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
 - ・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 警告**■ タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

（→P.369）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

● 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

排出ガス浄化装置（ディーゼル車）

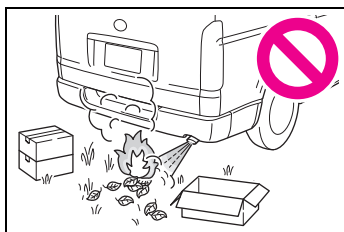
排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

警告

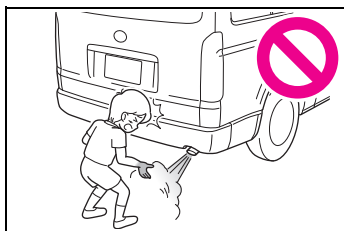
■ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものや乾いた草などの近くに車を停車しない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼（再生）処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

注意

■排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不可 販売店で点検してください”と表示※されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがなければ定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百km※ 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生中”が表示されます。
- ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。（→P.245）

※ 気候や走行状況等により異なります。

排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドリング回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

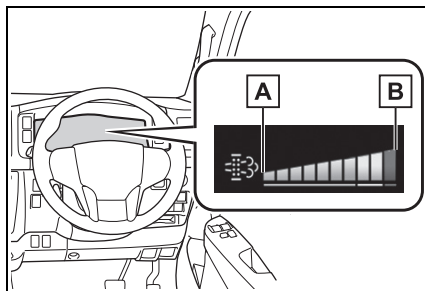
排出ガス浄化装置堆積モニターについて

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。メーカー操作スイッチの  または、

 を押して  を選択し、

 または、 を押して、通知画面を表示してください。

排出ガス浄化スイッチを押したとき、または警告メッセージと一緒に表示されます。表示される情報は、参考としてご利用ください。



A 少ない

B 多い

ススの堆積量が規定以上になると、マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください”が表示されます。表示を確認したら必ずススの燃焼（再生）処理をしてください。（→P.245）

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分 取扱書を確認してください”と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

- 1 車を安全な場所に停車する
- 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする

エンジンは停止しないでください。

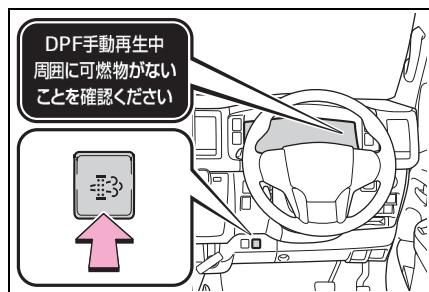
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。（→P.244）

エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。※1

- 3 排出ガス浄化スイッチを押す
マルチインフォメーションディスプレイ

にメッセージが表示され、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分^{※2} 程度の時間が必要です。



燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドリング回転数がもとにもどります。

※¹ 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

※² 燃焼（再生）に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから 10 分後のエンジン回転数が約 2000rpm のときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約 3000rpm までエンジン回転数を上げてください。

● マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分取扱書を確認し手動再生を実施ください”と表示されたときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。（→P.245）

● マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不可販売店で点検してください”と表示[※]されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

知識

■ 燃焼処理について

● 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。

● 燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。

● 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→P.364）

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示される場合があります。

**注意****■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき**

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します[※]。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

[※] このときは、排出ガス浄化スイッチが機能なくなります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.297）



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃

料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以上にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安 ※
JIS 2 号軽油	－ 5 ℃
JIS 3 号軽油	－ 12 ℃
JIS 特 3 号軽油	－ 19 ℃

※ 環境や使用状況により異なります。

⚠ 警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける

警告

- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

注意**■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪

を取り除いてください。

- 外装ランプ・アウターミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識**■ 寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

注意**■ ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車

し、必ず輪止め※¹をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

5-1. エアコン・デフォグガーの使い方

マニュアルエアコン.....	252
オートエアコン	257
リヤクーラー	262
リヤヒーター	264
シートヒーター	265

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	266
------------	-----

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	269
荷室内装備.....	275

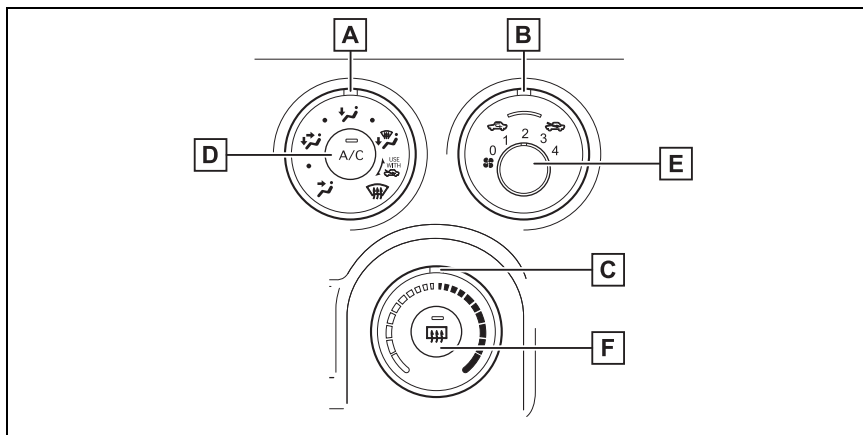
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	277
----------------	-----

マニュアルエアコン★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本操作



- A** 吹き出し口切りかえダイヤル
- B** 外気導入／内気循環切りかえダイヤル
- C** 温度調節ダイヤル
- D** 冷房・除湿スイッチ
- E** 風量調節ダイヤル
- F** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左にまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせる。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえダイヤルをまわす

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

■ 外気導入／内気循環を切りかえる

外気導入／内気循環切りかえダイヤルを  の位置に操作すると外気導入、 の位置に操作すると内気循環に切りかわります。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントウインドウガラス、運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

吹き出し口切りかえダイヤルを

 にまわし、外気導入・内気循環切りかえダイヤルを  の位置にしてください。

冷房・除湿スイッチを押してエアコンをオンにすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

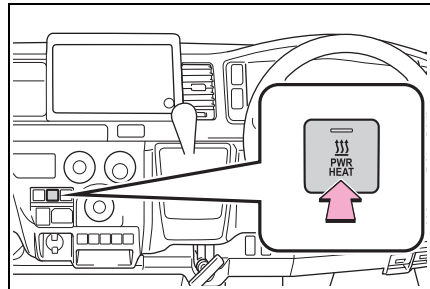
■ パワーヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときに使用してください。

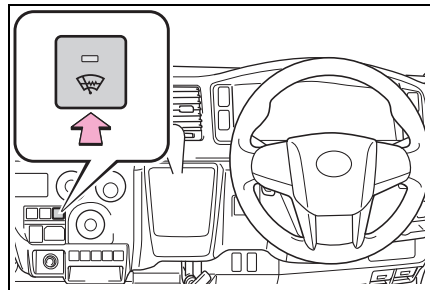
パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す

パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。



■ ウインドシールドデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーを使用するには、ウインドシールドデアイサースイッチを押す

ウインドシールドデアイサーが ON のと

き、スイッチの作動表示灯が点灯します。
フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 外気温度が 0℃ 付近のとき

冷房・除湿スイッチを押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ PTC ヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。

次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジン冷間時
- 外気温が低いとき

■ パワーヒーター★の機能について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の 2 つの機能により、寒冷時の暖房効果を高めます。

- アイドルアップ機能：
エンジンが冷えているときにアイドル回転数が上がり、暖房効果を高めます。
- ホットガスヒーター機能：
エアコン装置を利用する補助ヒーターです。作動条件が満たされているとき、自動的に働きます。

■ ホットガスヒーター★機能の作動条件

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーヒータースイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、自動で作動します。

- ファンが作動しているとき
- エンジンが冷えているとき
- 外気温が低いとき（約 3～5℃ 以下）

■ ホットガスヒーター★機能の制限事項

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- エアコン（冷房・除湿機能）が ON だと、ホットガスヒーター機能が作動しにくくなります。
- -30℃ を下まわるような極寒時には作動しません。

■ エアコンフィルターについて

→P.300

警告**■フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために**

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルをの位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウィンドウデフォグラー&ミラーヒーター★作動中の警告

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ウィンドシールドデアイサー★作動中の警告

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

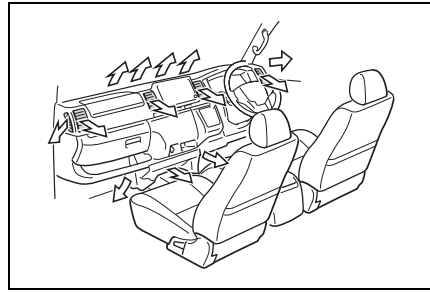
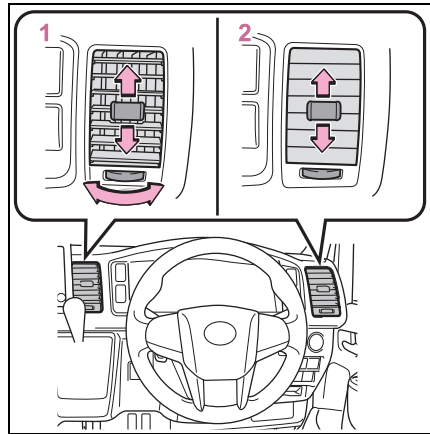
フロントウィンドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意**■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

吹き出し口の配置・操作**■吹き出し口の位置**

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

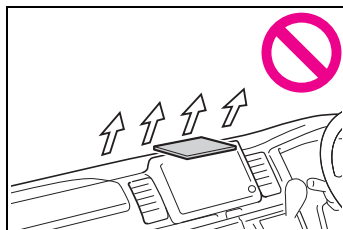
**■風向きの調整と吹き出し口の開閉**

1 風向きの調整

2 吹き出し口を閉じる

⚠ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために**

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

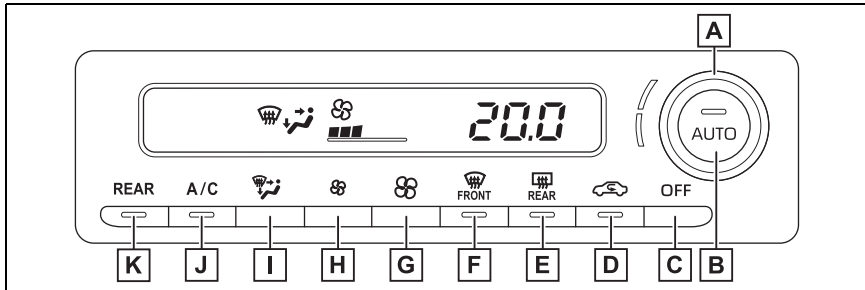


オートエアコン★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 温度調整ダイヤル
- B** AUTO スイッチ（オート設定）
- C** OFF スイッチ
- D** 内外気切りかえスイッチ
- E** リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチ★
- F** フロントデフロスタースイッチ
- G** 風量増スイッチ
- H** 風量減スイッチ
- I** 吹き出し口切りかえスイッチ
- J** 冷房・除湿スイッチ
- K** REAR スイッチ（リヤオートエアコンの作動／停止）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

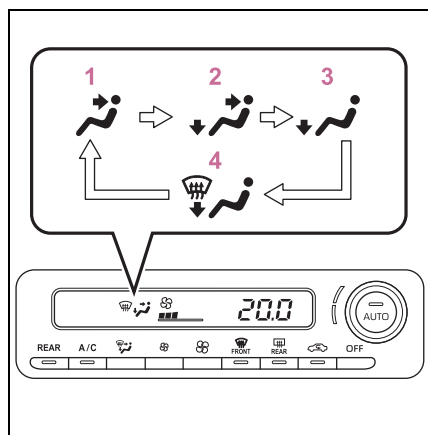
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように設定が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ エアコン（冷房・除湿機能）を切りかえるには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、作動表示灯が点灯します

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを

押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウィンドウデフォグラー＆ミラーヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤウィンドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウィンドウデフォグラー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウィンドウデフォグラー＆ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウィンドウデフォグラーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

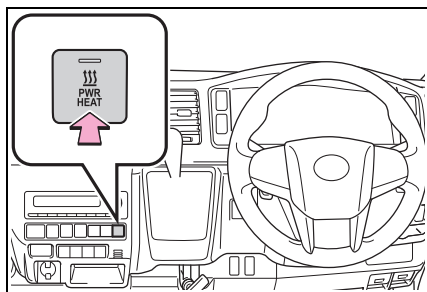
■ パワーヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときに使用してください。

パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す

パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。



■ ウインドシールドデアイサー★

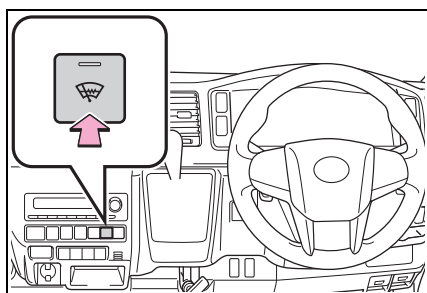
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーを使用するには、ウインドシールドデアイサースイッチを押す

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



□ 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- 冷房・除湿スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が動かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ PTC ヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。

次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジン冷間時

- 外気温が低いとき

■ パワーヒーター★の機能について

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の 2 つの機能により、寒冷時の暖房効果を高めます。

- アイドルアップ機能：
エンジンが冷えているときにアイドル回転数が上がり、暖房効果を高めます。
- ホットガスヒーター機能：
エアコン装置を利用する補助ヒーターです。作動条件が満たされているとき、自動的に働きます。

■ ホットガスヒーター★機能の作動条件

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーヒータースイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、自動で作動します。

- ファンが作動しているとき
- エンジンが冷えているとき
- 外気温が低いとき（約 3 ～ 5℃以下）

■ ホットガスヒーター★機能の制限事項

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- エアコン（冷房・除湿機能）が ON だと、ホットガスヒーター機能が作動しにくくなります。
- - 30℃を下まわるような極寒時には作動しません。

■ エアコンフィルターについて

→P.300

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.374）

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リアウインドウデフォグター&ミラーヒーター★が作動しているとき

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

オート設定が ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

2 温度調整ダイヤルで温度を設定する

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スwitchの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スwitchを押す



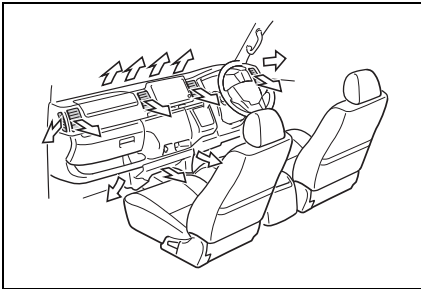
■ オート設定の作動について

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スwitchを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

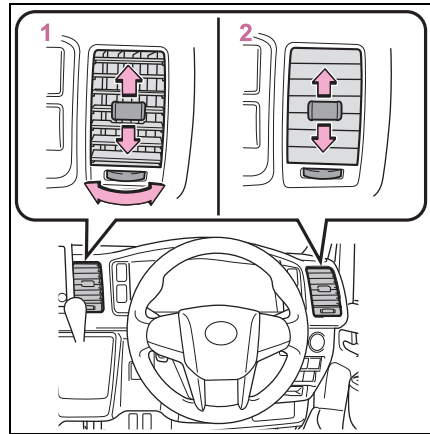
吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



1 風向きの調整

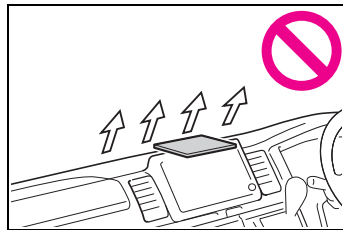
2 吹き出し口を閉じる



警告

■ フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をささえぎるようなものを置かないでください。送風がささえられ、曇りが取れにくくなることがあります。

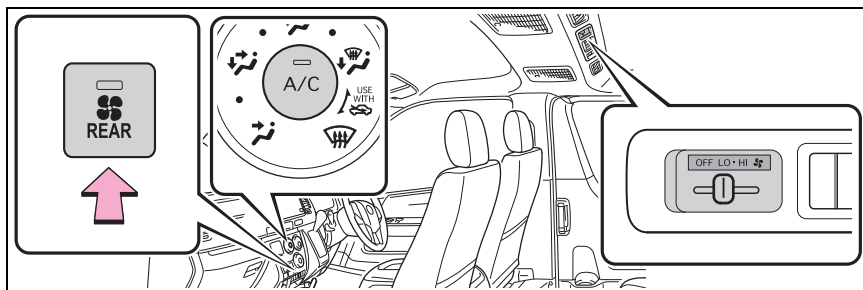


リヤクーラー★

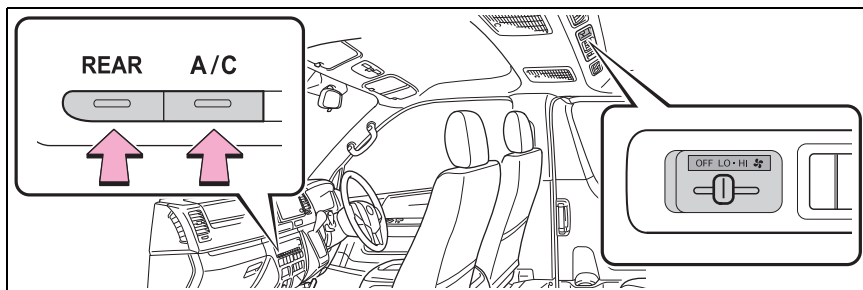
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後部座席付近を冷房することができます。

▶ マニュアルエアコン装着車



▶ オートエアコン装着車



リヤクーラーを使用する前に

フロントエアコンの A/C スイッチが ON になっていることを確認し、リヤクーラーメインスイッチを ON にしてください。

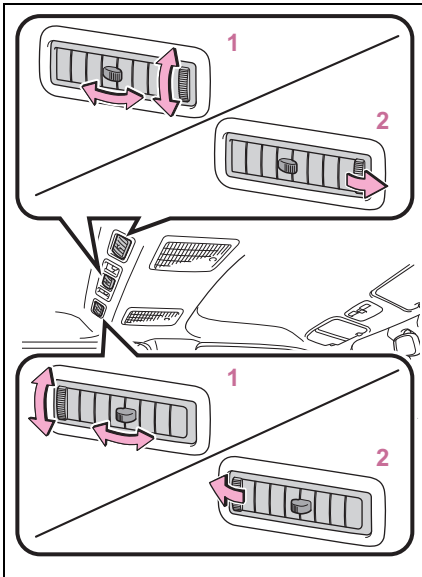
A/C スイッチが OFF のときは、リヤクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

リヤクーラーを使用するには

ファン調整レバーを右（増）か左（減）に操作する

風向きの調整と吹き出し口の開閉



1 風向きの調整

ノブを上下左右に動かして、風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

センター：閉めるときは、ノブをいっぱいまで右に動かします。

サイド：閉めるときは、ノブをいっぱいまで車両外側に動かします。



注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

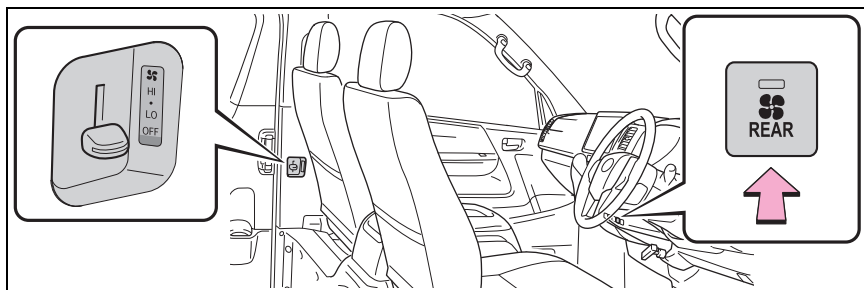
エンジン停止中は、必要以上にリヤクーラーを使用しないでください。

リヤヒーター★

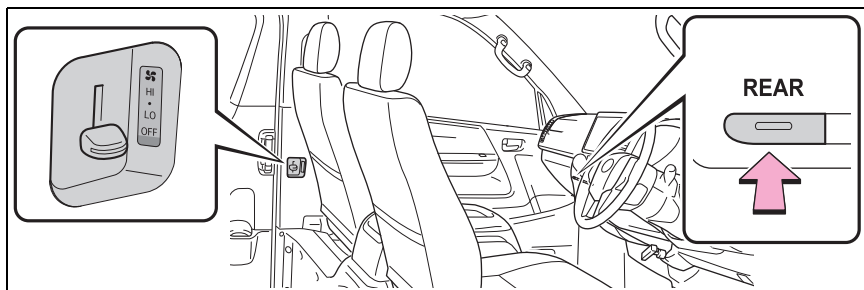
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内の後方部分を暖房することができます。

▶ マニュアルエアコン装着車



▶ オートエアコン装着車



リヤヒーターを使用する前に

リヤヒーターメインスイッチをON にしてください。

リヤヒーターを使用するには

ファン調整レバーを上（増）か下（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーをOFF の位置にします。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

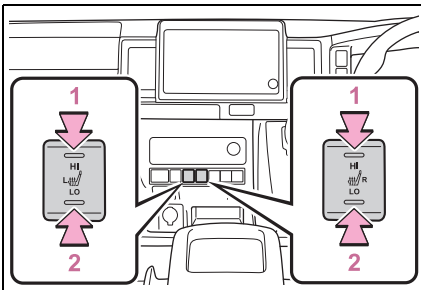
シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートの表面を暖めることができます。

シートヒーターを操作するには

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 HI（強）

2 LO（弱）

作動中はインジケーターが点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、インジケーターが消灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき



警告

■ 低温やけどや異常過熱を防ぐために

● 次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

- ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- ・ 皮膚の弱い方

- ・ 疲労の激しい方
- ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
- ・ 長時間連続使用しない
- ・ 毛布・クッションなどを使用しない



注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

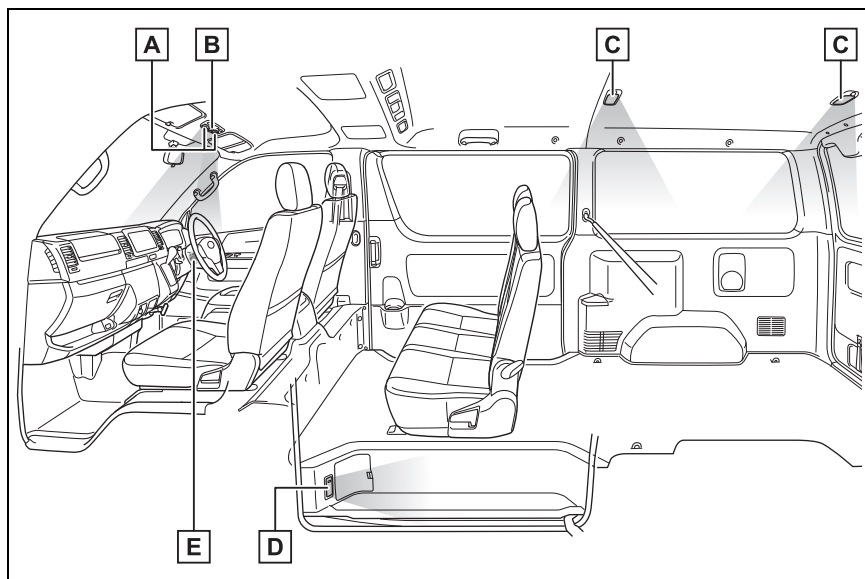
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



イラストはスーパー GL で代表しています。

A パーソナルランプ (→P.267)

B センターコンソール照明 (LED ダウンライト) ★ ※¹

C リヤルームランプ★ ※² (→P.267)

D スライドドアステップランプ★ (→P.102)

E エンジンスイッチ照明

※¹ ランプスイッチが ON のとき点灯します。

※² リヤルームランプの数は車種により異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■各部照明の自動点灯／消灯について

●スマートエントリー&スタートシステム非装着車：ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯

します。(イルミネーテッドエントリーシステム)

●スマートエントリー&スタートシステム装着車：ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリー

システム)

- エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。(→P.380)

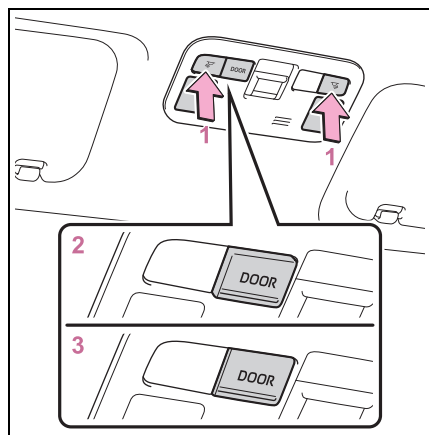


注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

パーソナルランプを操作するには

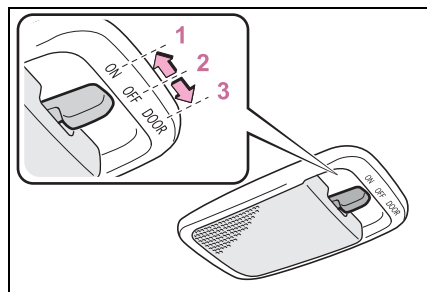


- 1 ランプを点灯・消灯する
- 2 ドア連動を OFF にする

3 ドア連動を ON にする (ドアポジション)

ドア連動 ON にしていると、フロントドアまたはスライドドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます

リヤルームランプ (標準タイプ) ★を操作するには



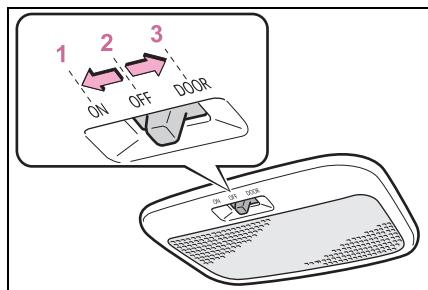
- 1 ランプを点灯する
- 2 ランプを消灯する
- 3 ドア連動を ON にする (ドアポジション)

フロントドアまたはスライドドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

フロントルームランプに連動してランプが点灯・消灯します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤルームランプ（大型タイプ） ★を操作するには

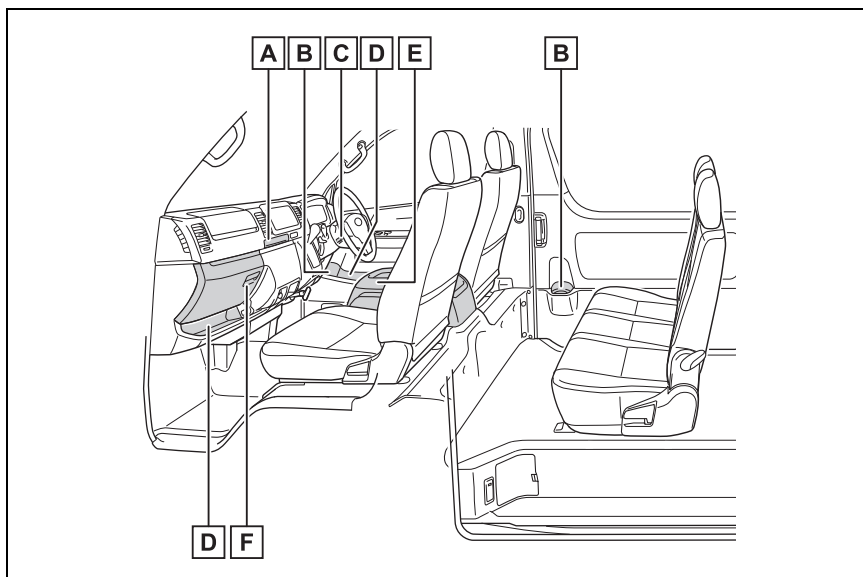


- 1 ランプを点灯する
- 2 ランプを消灯する
- 3 スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** カップホルダー (→P.272)
- B** ボトルホルダー (→P.272)
- C** カードホルダー (→P.273)
- D** オープントレイ (→P.273)
- E** コンソールボックス (→P.270)
- F** グローブボックス (→P.270)

⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

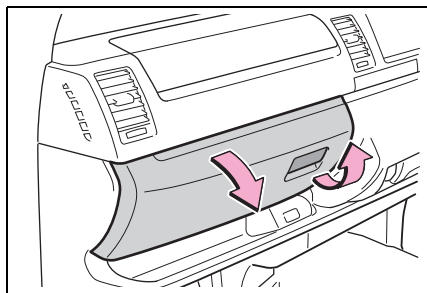
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■ 収納装備を使用しないときは

フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックスを使うには

レバーを引いて開ける



⚠ 警告

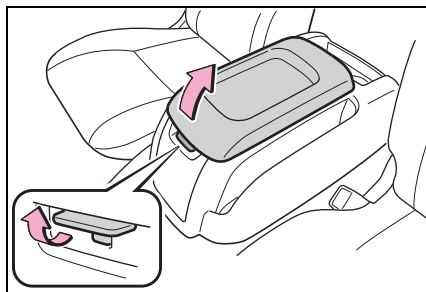
■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センターコンソールボックス★を使うには

レバーを引いてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

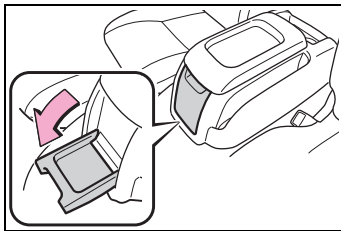


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

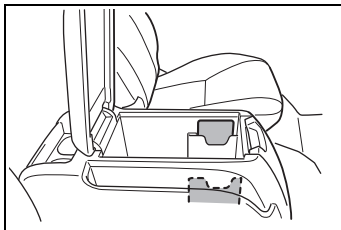
□ 知識

■ コンソールボックスを使用するときは

- フタを開けるときは、上部のトレイに物がないことを確認して開けてください。
- センターコンソールボックスの前面部分を倒すと、トレイとして使用できません。



- ボックス内の側面に、カードなどを収納できるホルダーがあります。



⚠ 警告

■ 走行中の警告

- コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前面トレイにものを載せたまま走行しないでください。急ブレーキ時などに載せていたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

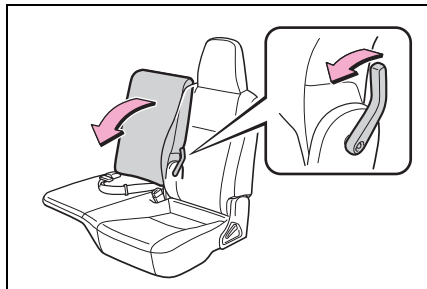
⚠ 注意

■ コンソールボックスの損傷を防ぐために

- 過度の負荷をかけないでください
- 前面トレイの破損を防ぐためにトレイの上に手をついたり、長時間ものを置いたままにしたりしないでください。

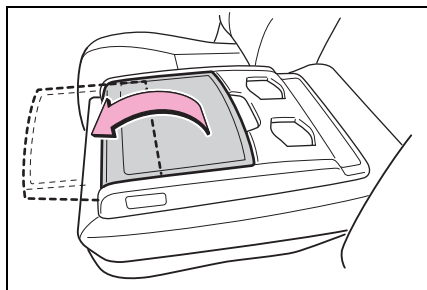
シートバックコンソール★を使うには

- 1 レバーを引いて中央席を前に倒す (→P.118)



- 2 フタを持ち上げて開ける

フタを前方に倒すと、テーブルとして使用することができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- けがを防ぐために、シートバックコンソールのフタを閉じた状態にしてください。
- シートバックコンソールのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

シートバックコンソールの破損を防ぐために、シートバックコンソールのフタをテーブルとして使用するときには、テーブル部に手をついたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

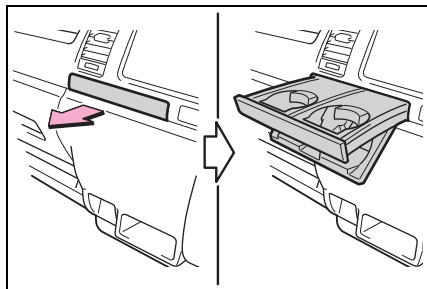
カップホルダー／ボトルホルダーを使うには

■ カップホルダー

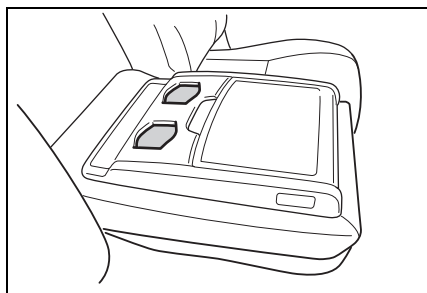
▶ インストルメントパネル

使用するときには、手前にいっぱいまで引き出す

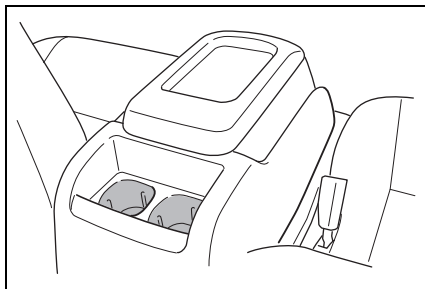
もどすときは、トレイ部を上げてから押し込みます。



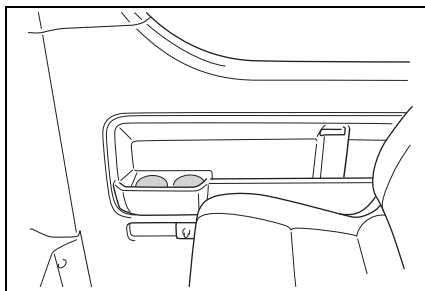
▶ シートバックコンソール★



▶ センターコンソール★

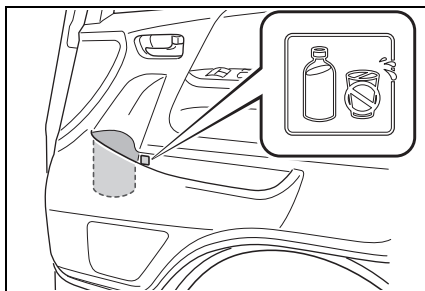


▶ リヤサイド (1 列目) ★

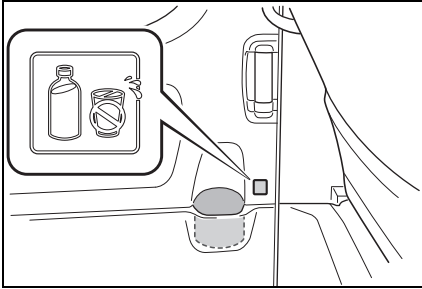


■ ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ スライドドア★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 警告

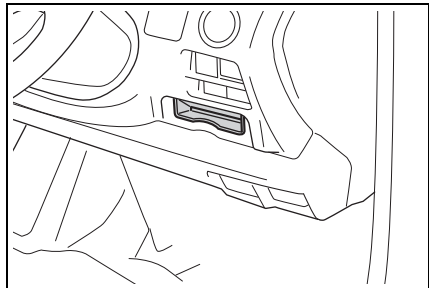
■ 収納してはいけないもの

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
- インstrumentパネルのカップホルダーを使わないときは、必ずもとにもどしておいてください。急ブレーキ時などに、カップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

 注意

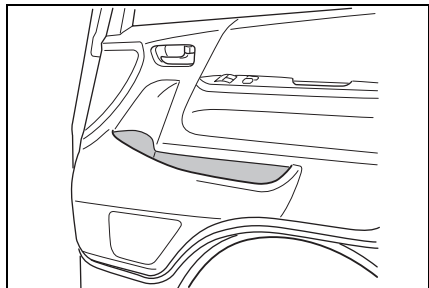
- カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- インstrumentパネルのカップホルダーは、必ずいっぱいまで引き出して使用してください。中間位置で使用すると、走行中にカップホルダーが動いて、飲み物がこぼれるおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダーを使うには

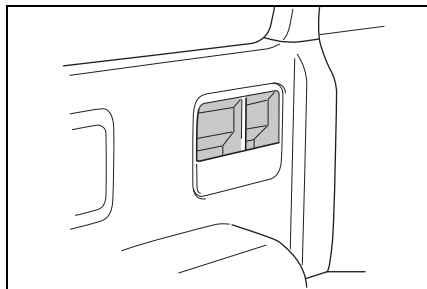


オープントレイ

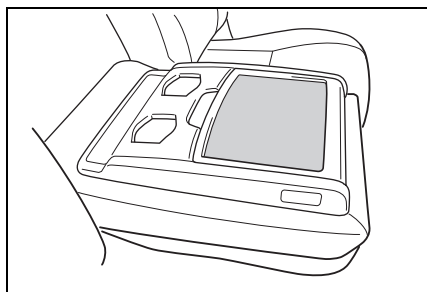
▶ フロントドア



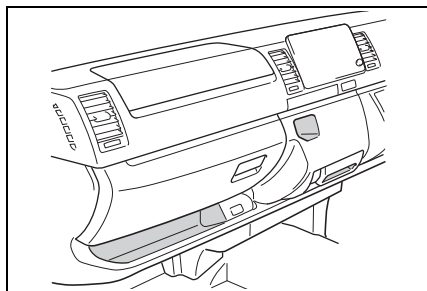
▶ リヤサイド★



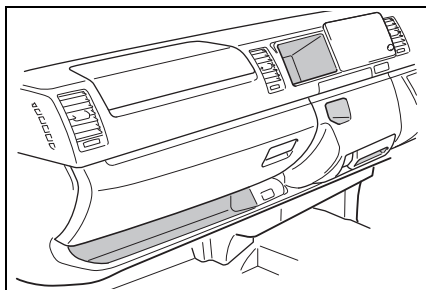
▶ シートバックコンソール★



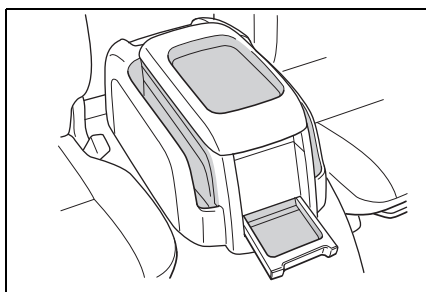
▶ インストルメントパネル（標準タイプ）



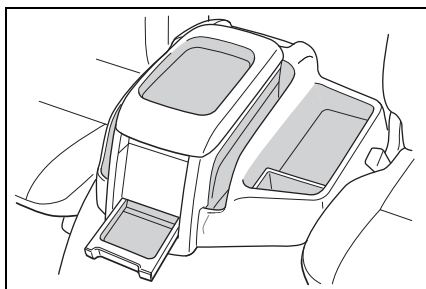
▶ インストルメントパネル（幅広タイプ）



▶ センターコンソール（標準タイプ）★



▶ センターコンソール（幅広タイプ）★



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

オープントレイに物を置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

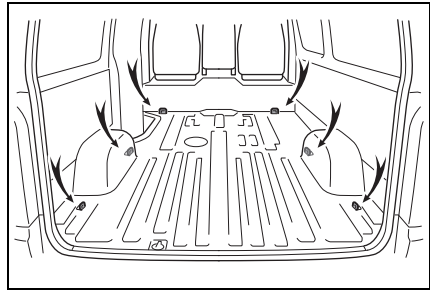
荷室内装備★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

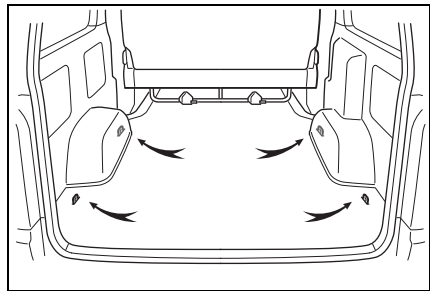
荷物固定用フック

市販のネットやロープなどを使って荷物を固定することができます。

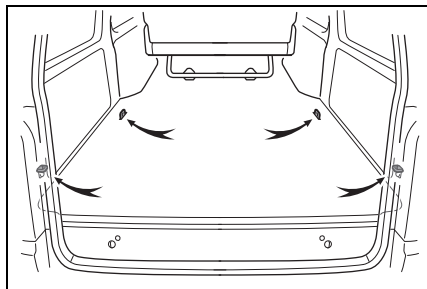
- ▶ リヤシート非装着車（ジャストローを除く）



- ▶ リヤシート装着車（ジャストローを除く）



▶ ジャストロー

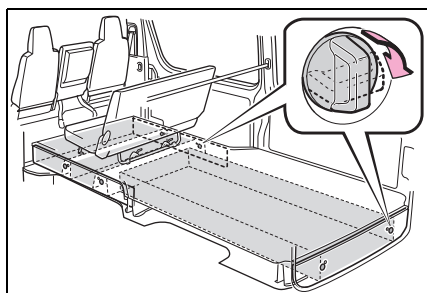
**警告**

荷物固定用フックを使用しないときは、けがをしないように必ずもとの位置にもどしておいてください。

床下収納（ジャストロー）

フロア下部に荷物を収納することができます。

使用するときは、ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを開ける

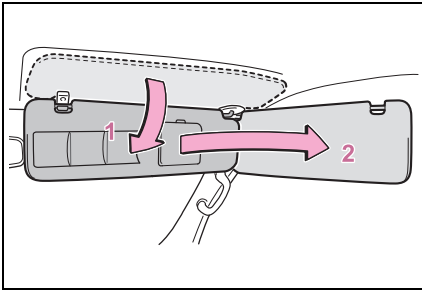
**警告**

走行中は、床下収納のフタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

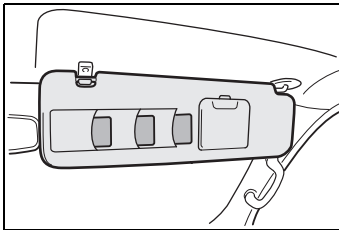


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

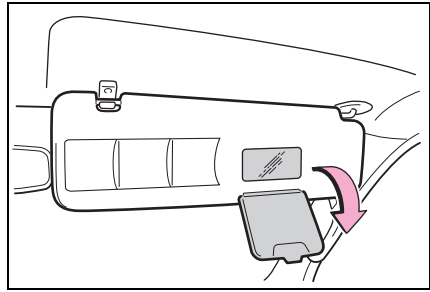
■3連式カードホルダー（運転席側サンバイザー）

カード類を収納することができます。



バニティミラーを使うには

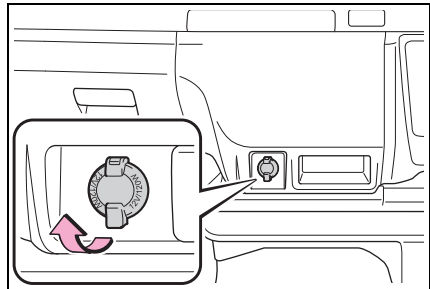
上側部分を引いてカバーを開ける



アクセサリソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■動作条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF にすることができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

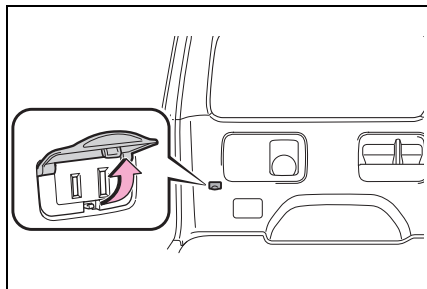
エンジンが停止した状態で、アクセサリソケットを使用しないでください。

アクセサリコンセントを使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 使用条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF にすることができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ ショートや故障を防ぐために

アクセサリコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

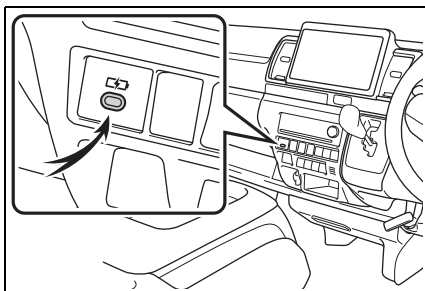
充電用 USB Type-C 端子を使うには

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

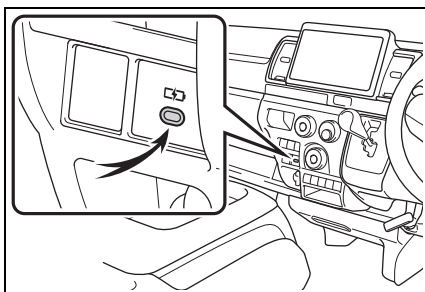
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには

▶ オートエアコン装着車



▶ マニュアルエアコン装着車



知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

**注意****■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 282

内装の手入れ 284

6-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口 287

ボンネット 289

ガレージジャッキ 290

AdBlue[®]（尿素水）の補充
（ディーゼル車） 293

ウォッシャー液の補充 296

タイヤについて 297

タイヤ空気圧について 299

エアコンフィルターの清掃 300

キーの電池交換 302

ヒューズの点検・交換 304

電球（バルブ）の交換 307

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。



知識

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワースライドドア★を停止する

車両前側から洗車してください。走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗車機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.114）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・海岸地帯を走行したあと
 - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・コールドタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

→P.147

⚠ 注意

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

□ 知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- 車内で可燃性のスプレー（洗剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をめらさないでください。（→P.33）
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.191）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは（リヤクォーターガラスアンテナ装備車）

- アンテナ線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、アンテナ線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- アンテナ線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にごうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 注意**■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

エンジン点検口

エンジンカバーを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

エンジン点検口を開ける前に

開ける角度によっては、セカンドシート※¹やセパレーターバー※¹が干渉する場合があります。エンジン点検口を開ける前に、確認・調整を行ってください。
(→P.119, 127)

※¹装着車のみ

エンジン点検口の開け方

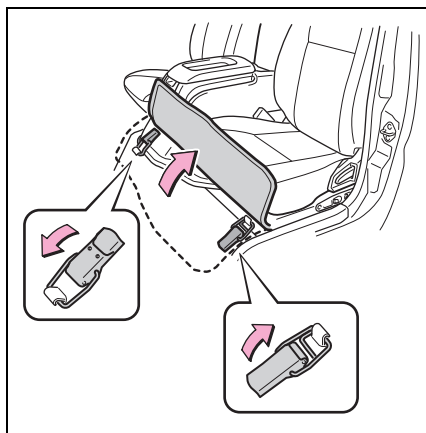
- 1 エンジンを停止し、シフトレバーをPにする
- 2 パーキングブレーキを確実にかける (→P.173)
- 3 次のようにシートを操作する
 - ▶ スーパーGL・デラックス 2人乗り

セカンドシートを着座状態にし※²、助手席の前後位置をいちばんうしろに移動してヘッドレストを取りはずす
(→P.118, 120)

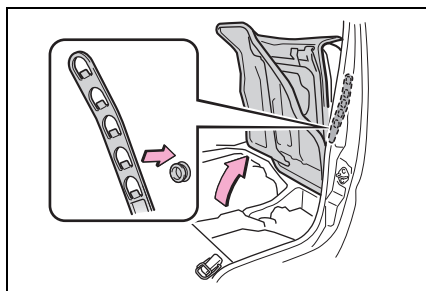
※²スーパーGLのみ

- ▶ デラックス (2人乗り車を除く)
助手席・中央席を前倒しする
(→P.118)

- 4 カバーをめくってロック (2ヶ所) を解除する



- 5 エンジンカバーを持ち上げ、バンドをフックにかけて固定する
フックをバンドの穴にしっかりとめ込んで、確実に固定されたことを確認してください。



- 6 エンジン点検口を閉めるときは逆の手順で操作する

セパレーターバーを取りはずした場合は、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。

警告**■ 走行前の確認**

エンジンカバーがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にシートが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンカバーを開けるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

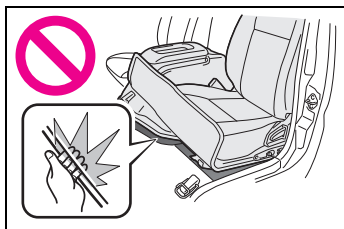
- 走行中にエンジンカバーを開けない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- お子さまに操作させない

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ エンジンカバーを閉めるときは

エンジンカバーを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ エンジンカバーを開ける前の注意**

エンジンカバーを開けると、シートバックコンソール★・センターコンソールボックス★も同時に持ち上がります。荷物の破損などを防ぐため、次のことをお守りください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- オープントレイ上に荷物がある場合は降ろしておく
- ボックス内に壊れやすいものがある場合は取り出しておく
- カップホルダーに飲み物が置かれていないことを確認する

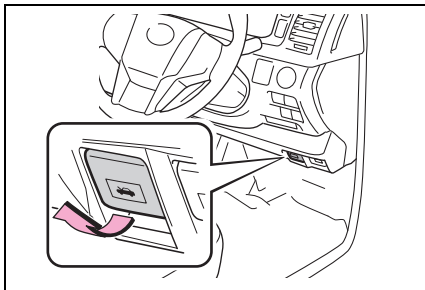
■ エンジンカバーを閉めるときは

シートベルトを挟み込まないように注意してください。

ボンネット

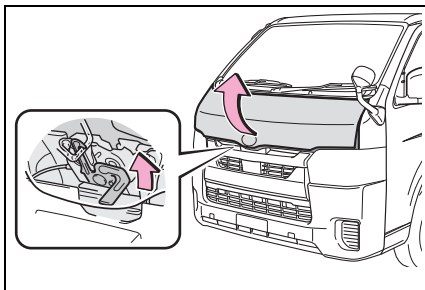
ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。

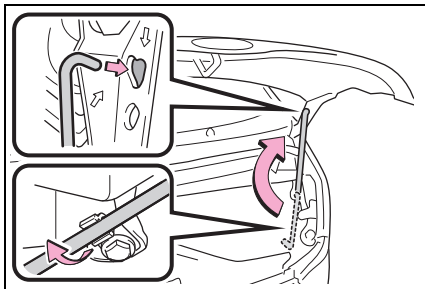


- 2 レバーを引き上げてボンネットを開ける

補助ミラー装着車：開けるときにボンネットが補助ミラーにあたる場合は、補助ミラーを調整してください。



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

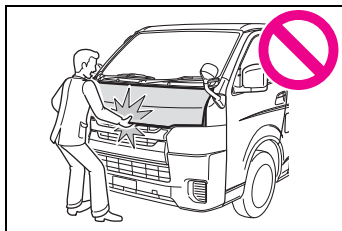
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 注意

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

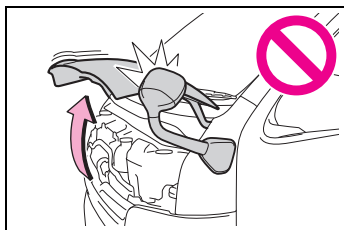
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

● 補助ミラー搭載車：補助ミラーの位置によっては、ボンネットがあたり、ボンネットとミラーが損傷するおそれがあります。

ボンネットを開けるときに補助ミラーにあたる場合は、補助ミラーの位置を調整してください。



ガレージジャッキ

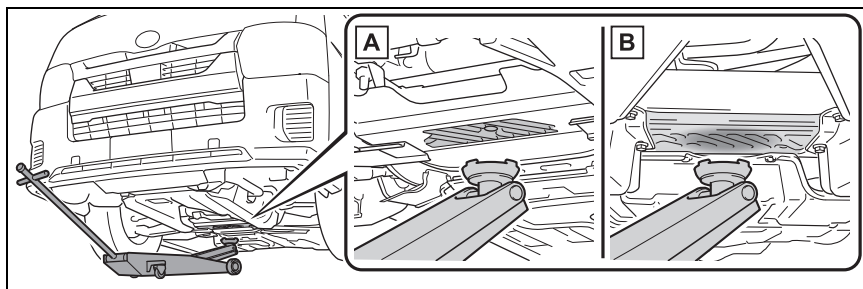
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

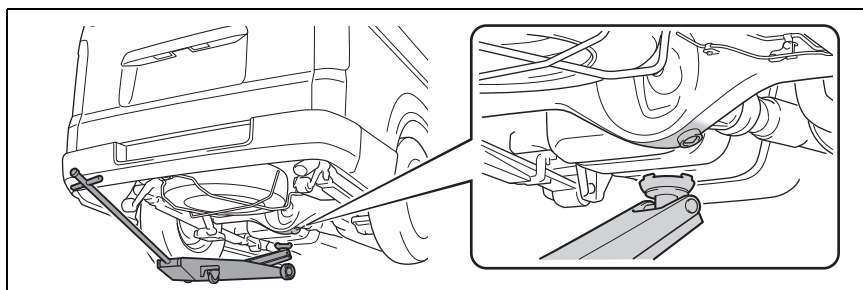
■ フロント側



A FR 車

B 4WD 車

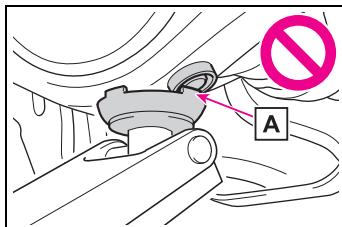
■ リヤ側



 注意

■ ガレージジャッキでリヤ側を持ちあげるとき

ガレージジャッキの受け皿の凸部がボルトにあたらないようにしてください。ボルトがゆるんでオイルがもれるおそれがあります。

**A** 凸部

AdBlue[®]（尿素水）の補充（ディーゼル車）

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] について、次のことにご留意ください。

- AdBlue[®] は走行に従って消費されます。
- AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。

走行可能距離について

AdBlue[®] の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。

AdBlue[®] の消費量が多くなると、AdBlue[®] の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

走行可能距離		
短 ※1 長 		
[高負荷走行] ・ アクセルを深く踏み込んでいるとき ・ 長い上り坂を走行しているとき ・ 排出ガス浄化装置が働いているとき	[通常走行] ※2	[低負荷走行] ・ 短距離を走行するとき ・ 渋滞のとき

※1 高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue[®] の消費量が増加します。

※2 通常の走行では、約 1000km 走行すると、1L の AdBlue[®] を消費します。また、最大まで補充した状態から約 10400km 走行すると、残量がなくなります。

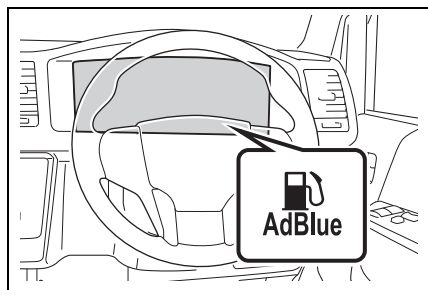
AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージ（→P.294）と警告灯でお知らせします。

走行可能距離が約 3000km になると警

告メッセージが表示されます。

走行可能距離が約 2000km 以下になると警告灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。



■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
AdBlue が低下 2000km 以内に 補充必要 取扱書を 確認 ※1, 2	AdBlue [®] をいっぱいまで補充してください。
あと 800km で 再 始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を 確認 ※1, 2	表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。ただちに AdBlue [®] をいっぱいまで補充してください。
エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ※2	ただちに AdBlue [®] をいっぱいまで補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

※¹ マルチインフォメーションディスプレイ

イに表示される走行距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。(→P.293)

※² 警告メッセージに合わせてマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。

⚠ 注意

■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき

AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。

残量がなくなる前に AdBlue[®] をいっぱいまで補充してください。

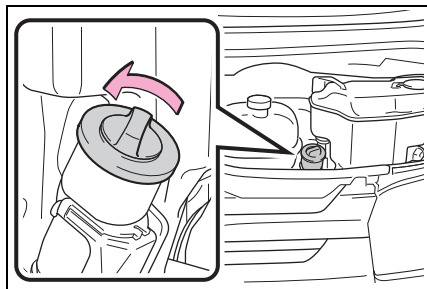
AdBlue[®] を補充するには

AdBlue[®] は AdBlue[®] 取り扱い給油所の補充装置で補充することができます。※ 次の手順で AdBlue[®] を補充してください。

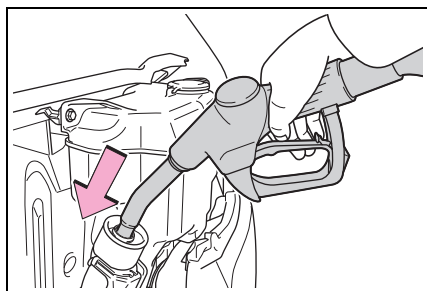
※ トヨタ販売店でも補充することができます。

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチをOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にし、ボンネットを開ける（→P.289）

2 補給口のキャップを開ける

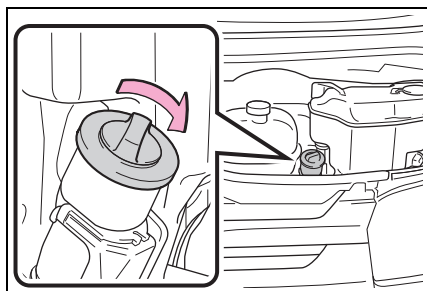


3 ノズルを挿入し AdBlue® をいっぱいまで補充する



4 補給口のキャップを閉める

キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



5 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

知識

■ AdBlue® の補充について

AdBlue® (ISO 22241-1 に準拠したもの) を使用してください。

AdBlue® は、Verband der Automobilindustrie e.V. (VDA) の登録商標です。

排出ガス削減のために AdBlue® が必要な場合、AdBlue® を消費しない車両を使用することは関連法規に違反する可能性があります。

■ AdBlue® を補充するとき

AdBlue® の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなることがあります。

■ AdBlue® タンクについて

タンク容量は 10.4 L です。

⚠ 注意

■ AdBlue® を補充するとき

AdBlue® を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue® 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue® が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- AdBlue® をエンジンルームにこぼしてしまった場合は、水を含ませた布ですぐにふき取る

■ 補充装置で AdBlue® を補充するとき

- 継ぎ足し補充をしないでください。

⚠ 注意

- 補給口にノズルを確実に挿入してください。

■ AdBlue® の保管について

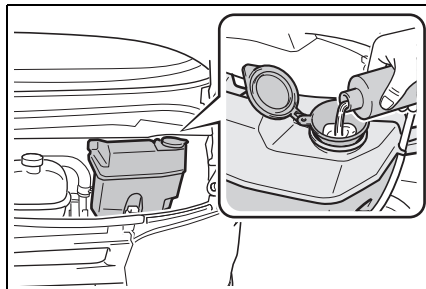
AdBlue® を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue® の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

- AdBlue® を車内に放置しない
- AdBlue® の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

ウォッシャー液の補充

補充するには

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000kmごとに、4WD車は5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

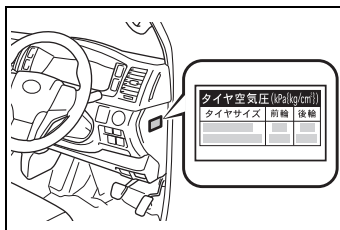
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、インストルメントパネル横（運転席側）のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

- タイヤ空気圧は乗車人数に合わせて使用する

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える

- 車両が横すべりする

- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→P.347）
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。

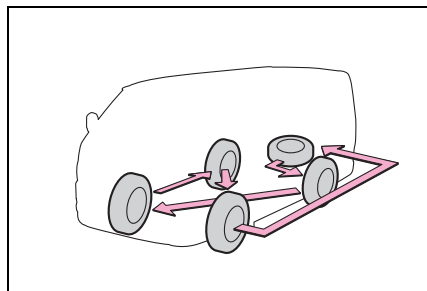
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。



■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときには荷重を不均等にかけないようにする

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの清掃

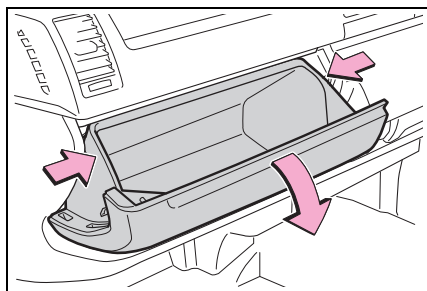
エアコン・リヤクーラー★を快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

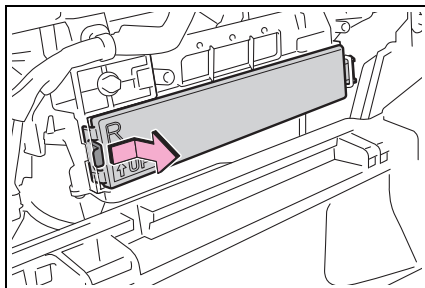
清掃のしかた

▶ フロントエアコン

- 1 エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする
- 2 グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

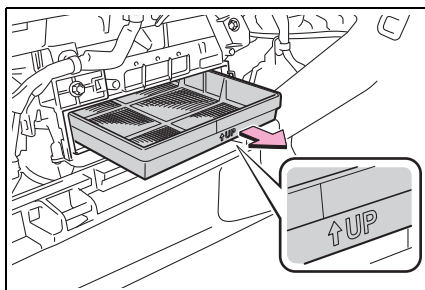


3 フィルターカバーを取りはずす



4 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

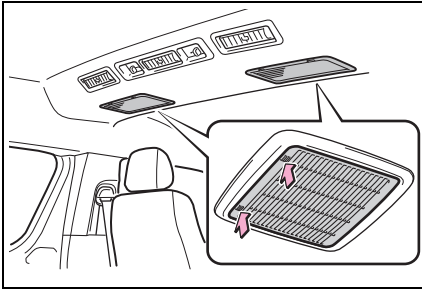
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

▶ リヤクーラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

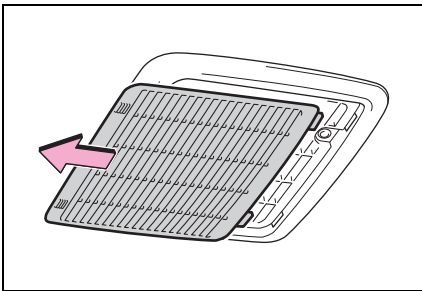
- 1 エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする

2 図に示す位置（2ヶ所）を押して、ロックをはずす



3 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける エアコンフィルターのツメを挿し込んでから、反対側を押さえてロックします。

知識

■フィルターの清掃について

エアコン・リヤクーラー★を快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

■エアコン・リヤクーラー★の風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■運転席側エアフィルターの清掃について

縦型収納庫のオープントッパー（患者室側の扉用）や、天井カバーのネジをはずしたときは、紛失しないように保管してください。

注意

■エアコン・リヤクーラー★を使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコン・リヤクーラー★を使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

□ 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

事前に用意するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
 - ・ CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
 - ・ CR2450（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

□ 知識

■ リチウム電池 CR2016・CR2450 の入手

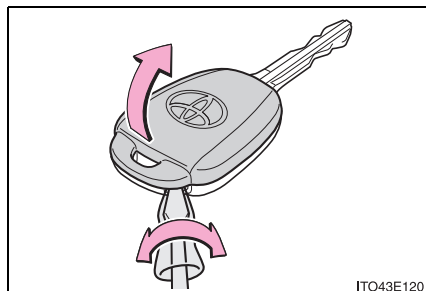
電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池交換のしかた

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

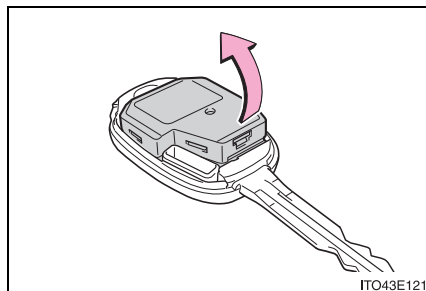
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



ITO43E120

2 モジュールを取り出す

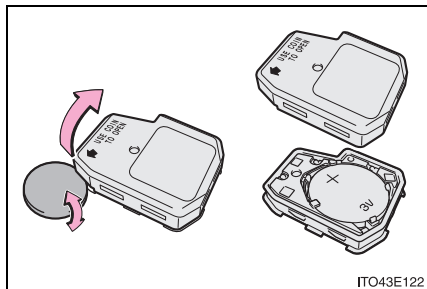


ITO43E121

3 コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けま

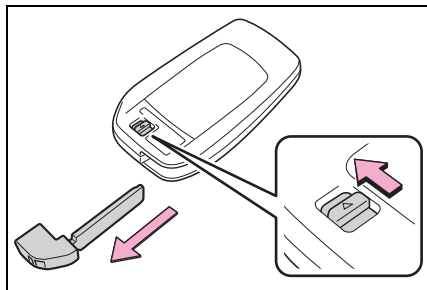
す。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

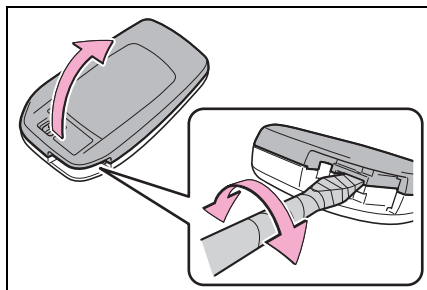
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

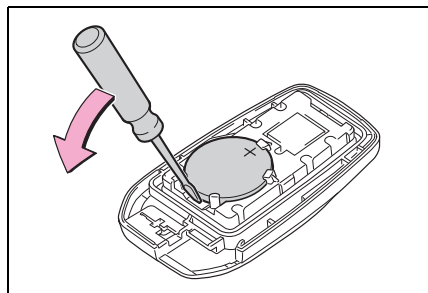
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■ キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

警告

- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- **電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

- **電池を交換するときは**
- 適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。
- **交換後、正常に機能させるために**
- 次のことを必ずお守りください。
- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

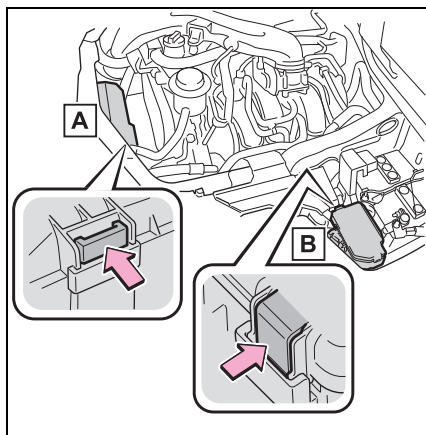
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

- 1 エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする
- 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム内

エンジン点検口（→P.287）を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

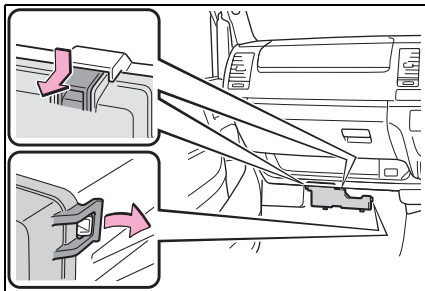


A 中央ヒューズボックス

B 助手席側ヒューズボックス

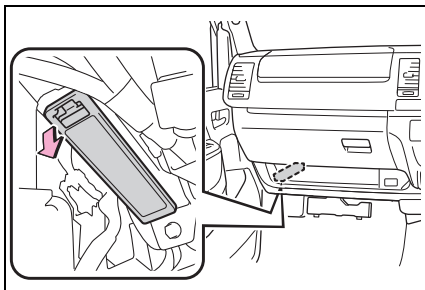
▶ 助手席足元

ツメを押しながら、カバーを手前に引く

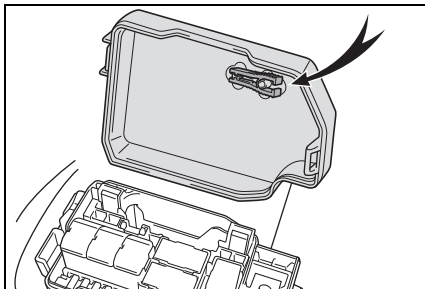


▶ グローブボックス下

ヒューズボックスカバーを取りはずす

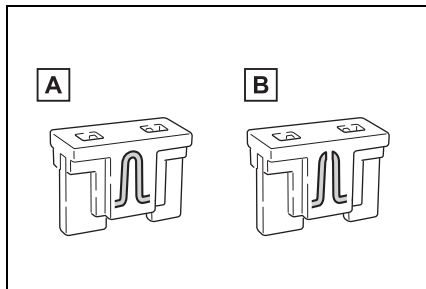
**3 ヒューズを引き抜く**

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

**4 ヒューズが切れていないか点検する**

ヒューズボックスの表示に従い、規定容

量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

 知識
■ヒューズを交換したあと

- 縦型収納庫床下：床板を取り付けるときは、プレートを切り欠きに挿し込んでください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

次の装置の初期化が必要です。

- パワースライドドア★ (→P.101)
- パワーウィンドウ (→P.148)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

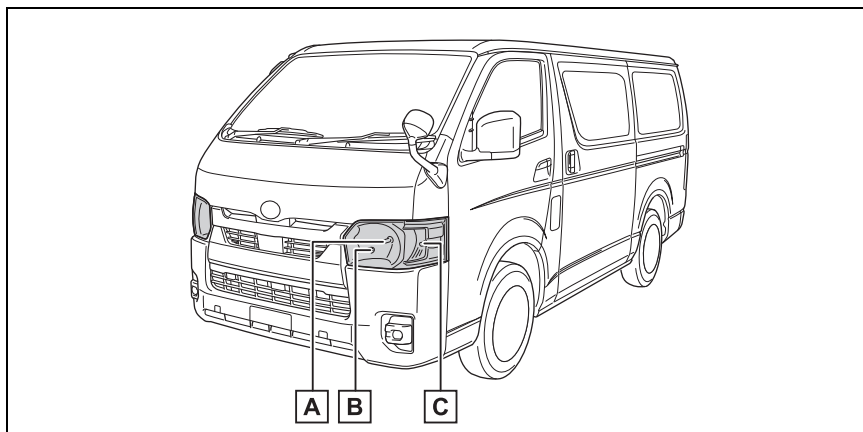
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.371）

バルブ位置

■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

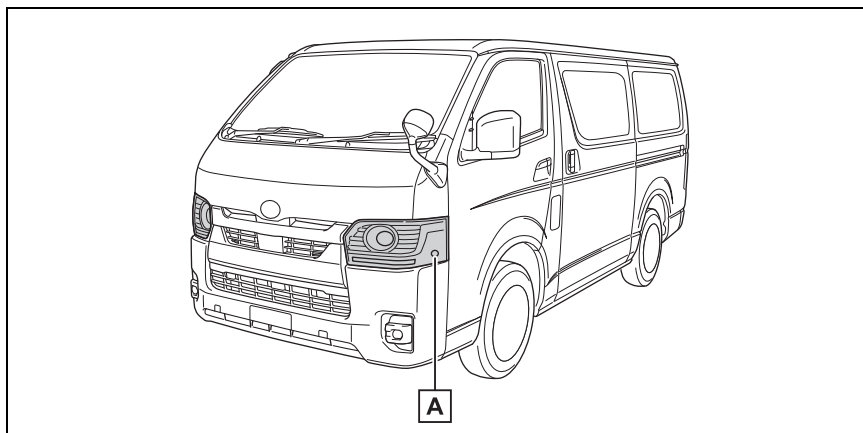


A ヘッドランプ

B 車幅灯

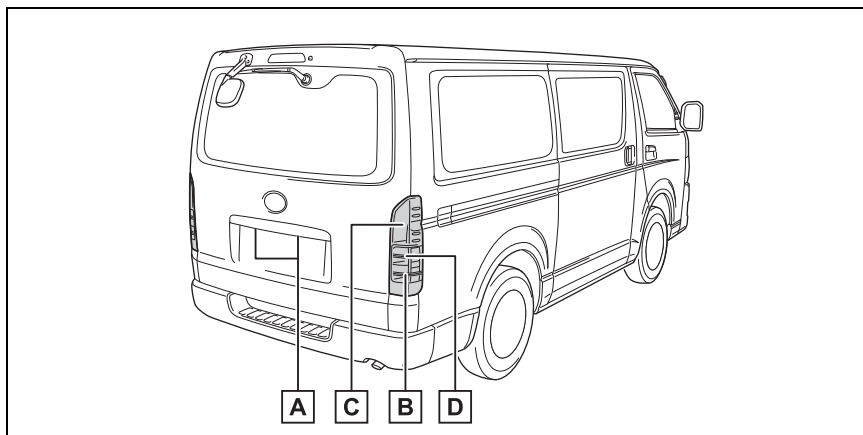
C フロント&サイド方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車



A フロント&サイド方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



A 番号灯

B 後退灯／リヤフォグランプ★

C 制動灯／尾灯

D リヤ方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

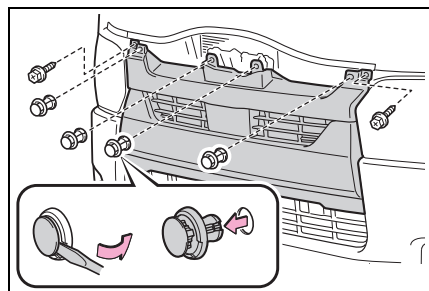
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）

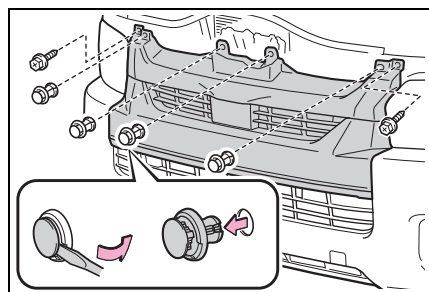
電球交換するときは、必ずエンジンスイッチを OFF にしてください。

- 1 クリップ（4 個）とネジ（2 本）をはずす

▶ 標準ボデー

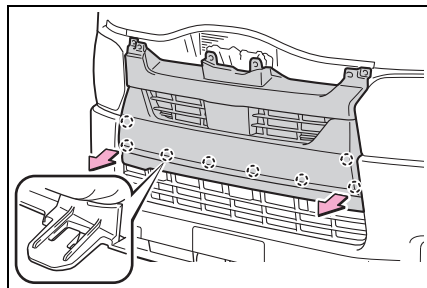


▶ ワイドボデー

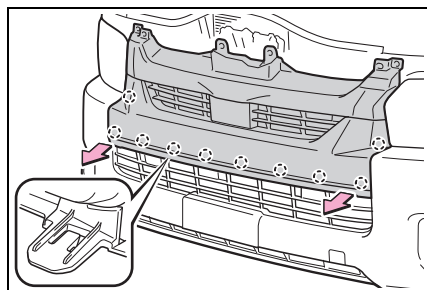


- 2 ラジエーターグリルのツメを取りはずす

▶ 標準ボデー



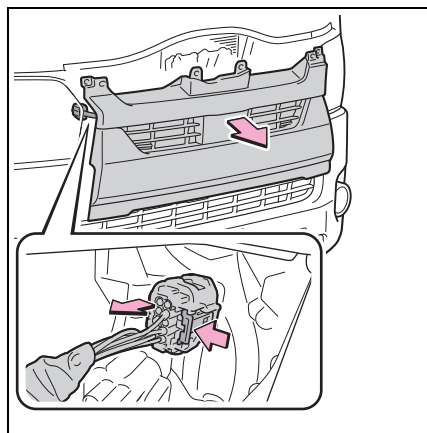
▶ ワイドボデー



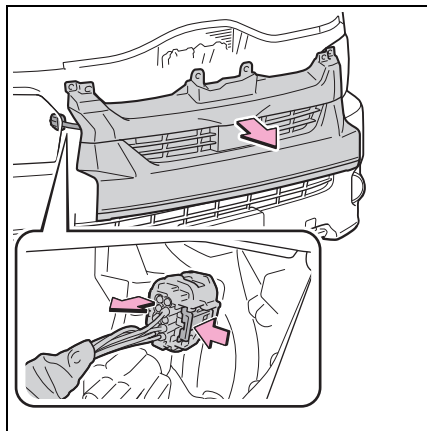
- 3 ラジエーターグリルを取りはずす

レーダーにつながっているコネクターを取りはずしてください。

▶ 標準ボデー

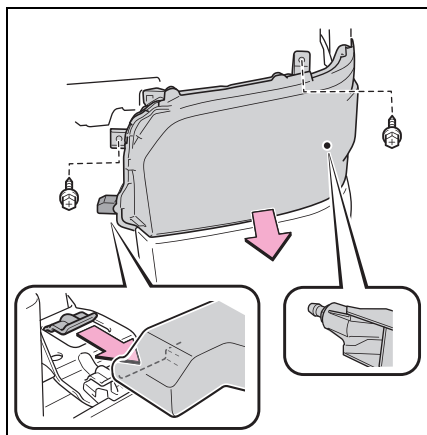


▶ ワイドボデー

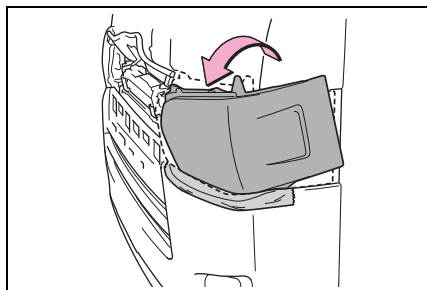


4 電球を交換する側のドア（運転席または助手席）を開けて作業スペースを広げ、バンパーのヘッドランプ前側部分に保護テープを貼る

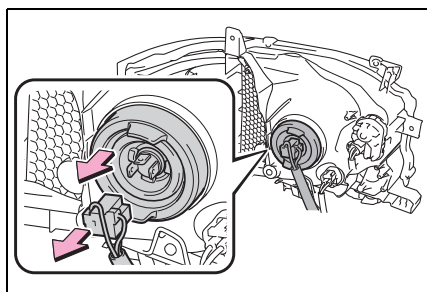
5 ネジ（2本）をはずし、ヘッドランプ本体を手前に引いて各部の固定をはずす



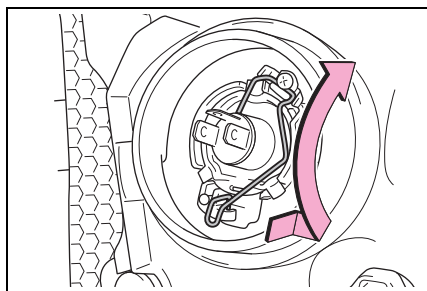
6 ヘッドランプ本体を回転させながら取りはずす



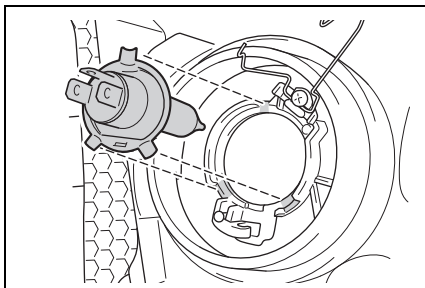
7 コネクターとゴムカバーを取りはずす



8 止め金をはずす



9 電球を取りはずす

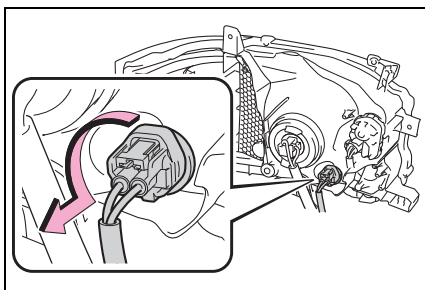


10 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

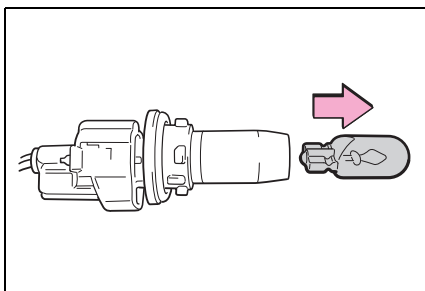
■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→P.309）

2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



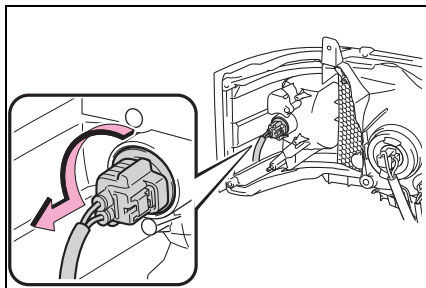
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント&サイド方向指示灯／非常点滅灯

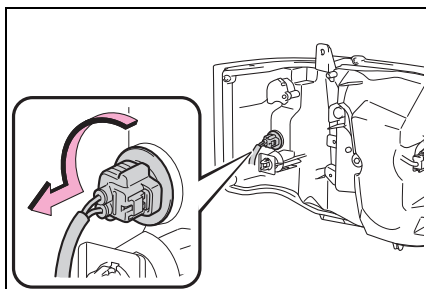
1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→P.309）

2 ソケットを取りはずす

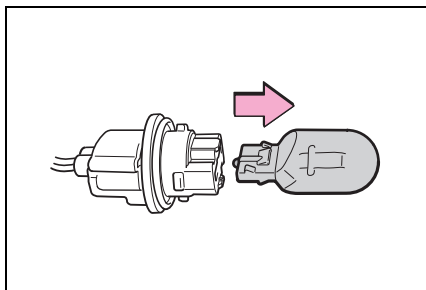
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

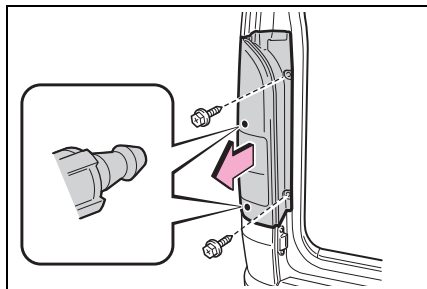
■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯 ／非常点滅灯・後退灯／リヤ フォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

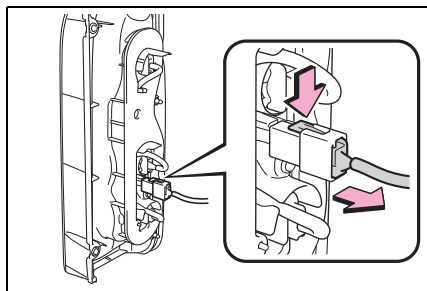
交換には、トヨタ販売店で部品
(ガスケット) の購入が必要となり
ます。交換作業が難しいと感じら
れる場合は、トヨタ販売店にご相
談ください。

1 ネジ (2 本) をはずし、ランプ 本体を手前に引き出す

コネクターケーブルを損傷しないよう、
慎重に作業してください。



2 コネクターを取りはずす

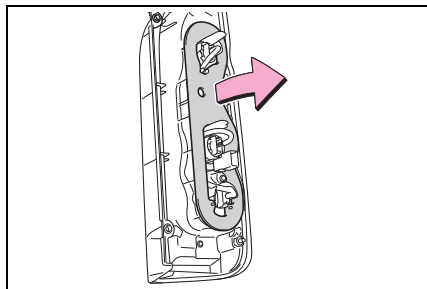


3 ガスケットをはがす

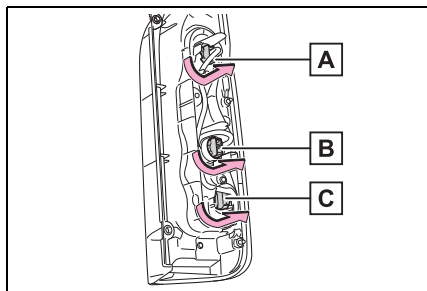
確実にもとの状態にもどせるようにガス
ケットをはがす前には、ガスケットの貼
り付け位置をよく確認しておいてくだ
さい。

また、ボデー側に残ったガスケットはす

べてはがしてください。



4 ソケットを取りはずす



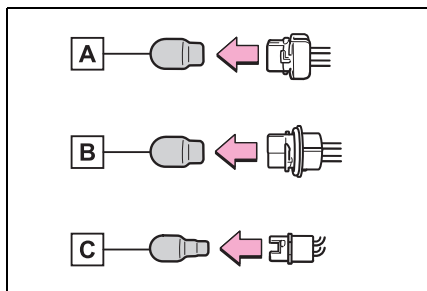
A 制動灯／尾灯

B リヤ方向指示灯／非常点滅灯

C 後退灯／リヤフォグランプ*

* 運転席側のみに装着されます。

5 電球を取りはずし、新しい電球 を取り付ける

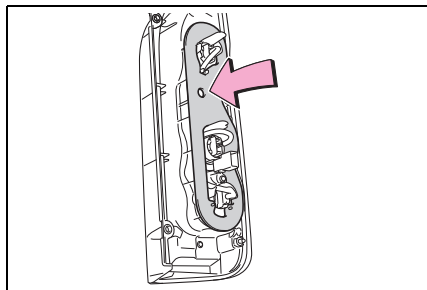


A 制動灯／尾灯

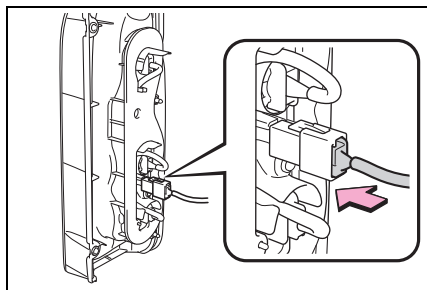
B リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ 後退灯／リヤフォグランプ

- 6** 新品のガasketを貼り付ける
手順 **3** で確認した貼り付け位置に確実に
取り付けてください。



- 7** コネクターを取り付ける

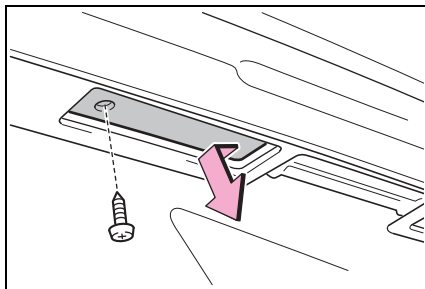


- 8** ランプ本体を取り付けるとき
は、取りはずしたときと逆の手
順で取り付ける

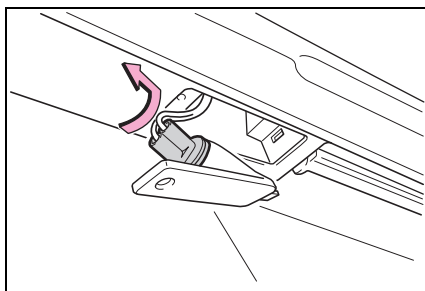
ボデーとのあいだに配線が挟まっていな
いことを確認の上、突起部をしっかりと
はめ込んでください。

■ 番号灯

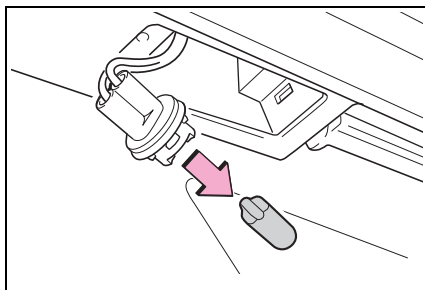
- 1** 交換する側のネジ（1 本）をは
ずし、ランプ本体を引き出す



- 2** ソケットを取りはずす



- 3** 電球を取りはずす



- 4** 取り付けるときは、取りはずし
たときと逆の手順で取り付ける
ランプ本体のツメが確実にかかっている
ことを確認してください。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、
トヨタ販売店で交換してください。

- 車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）
- ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- フロントフォグランプ★
- ハイマウントストップランプ

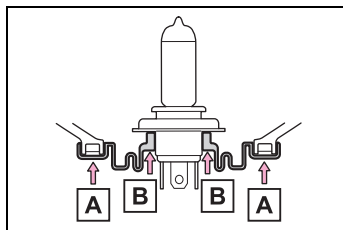
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ハロゲンヘッドランプ★のゴムカバーを取り付けるときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

確実にはめ込まれていることを確認してください。



A ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

B ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・フロントフォグランプ★・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

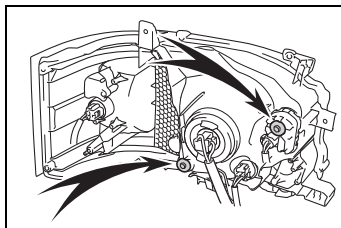
レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

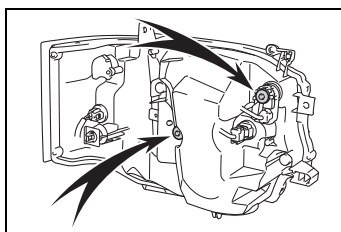
■ヘッドランプ本体の固定をはずすときは

- ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジにふれないでください。

▶ハロゲンヘッドランプ装着車



▶LED ヘッドランプ装着車



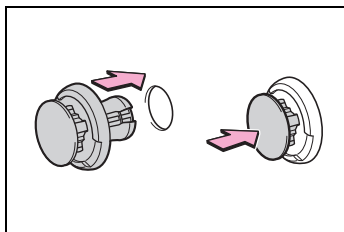
- 電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ラジエーターグリルのクリップの取り付け

クリップを穴に挿し込み、中央部を押し込む



■ ラジエーターグリルの取り扱いについて

ラジエーターグリルにはレーダーが取り付けられています。(→P.191)

⚠ 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

⚠ 注意

■ 制動灯／尾灯／リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換について

制動灯／尾灯／リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプの交換には、新品のガスケットが必要です。ガスケットをはがすときは、次のことをお守りください。ランプ内へ水が浸入するおそれがあります。

- 一度でも使用したガスケットは絶対に再使用しないでください。
 - ガスケットを貼り付けるときは、制動灯／尾灯／リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプの交換手順 **3** で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	318
非常点滅灯（ハザードランプ）	319
発炎筒	319
車両を緊急停止するには	320
水没・冠水したときは	321
車中泊が必要なときは	322

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	323
フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車）	327
警告灯がついたときは	328
警告メッセージが表示されたときは	333
パンクしたときは	339
エンジンがかからないときは ..	352
キーをなくしたときは	353
電子キーが正常に働かないときは （スマートエントリー&スタートシステム装着車）	354
バッテリーがあがったときは ..	356
オーバーヒートしたときは	360
スタックしたときは	362

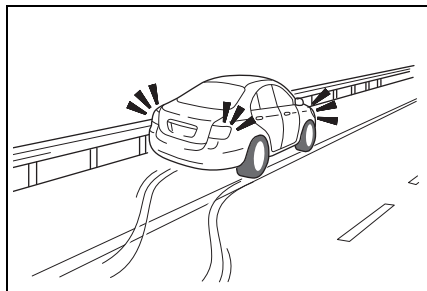
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

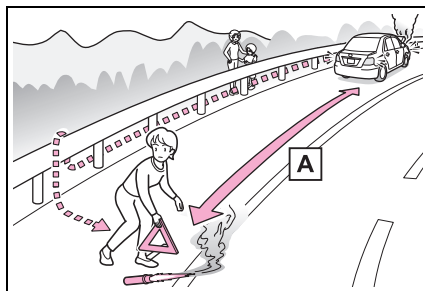
- 非常点滅灯（→P.319）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（**A**）に発炎筒（→P.319）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

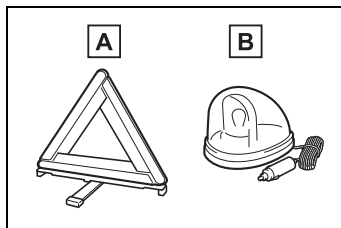
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

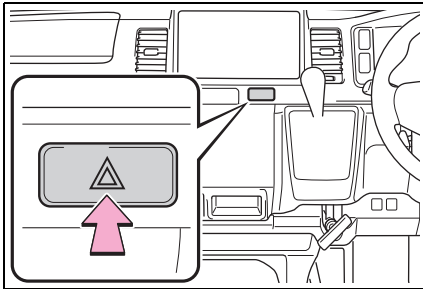
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

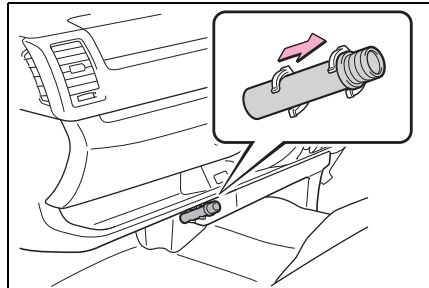
- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。
(衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります)

発炎筒

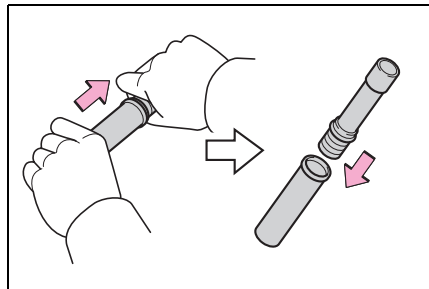
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください) 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

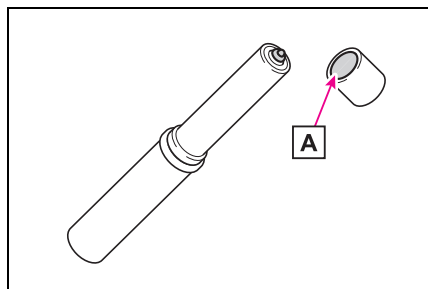


3 先端のフタを取り、すり薬

A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

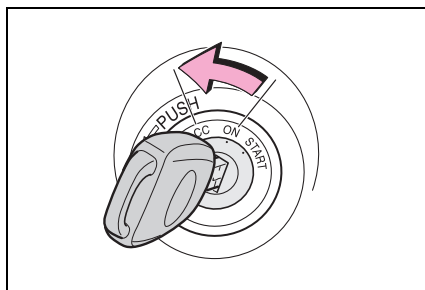
▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 次の手順でエンジンを停止する

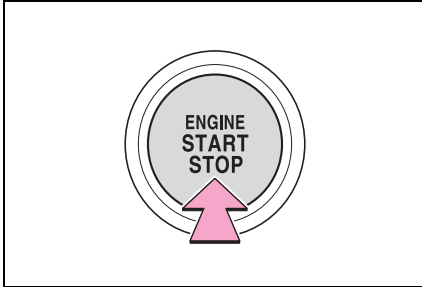
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■エンジンを再始動するには

走行時のエンジン緊急停止後にエンジンを再始動するには、シフトレバーをNにしてからエンジンスイッチを短く確実に押します。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- 走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができません。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドア★が作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

● 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

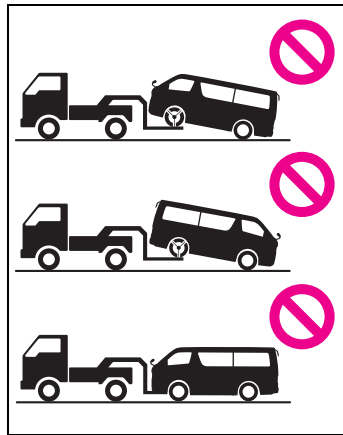
■レッカー車でけん引するとき

▶FR車

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。

▶4WD車

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

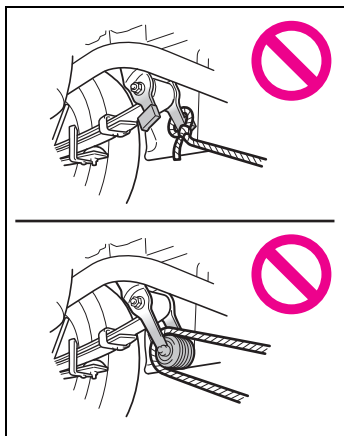
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 警告

■ やむを得ず他車をけん引するときは

図のようなリーフスプリング付きの車両は、図に示す部分でのけん引は絶対にしないでください。



⚠ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リーフスプリングについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

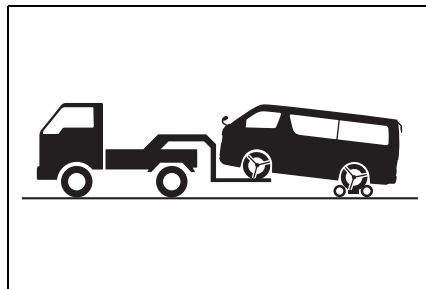
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンのかかるが車が動かない
- 異常な音がする

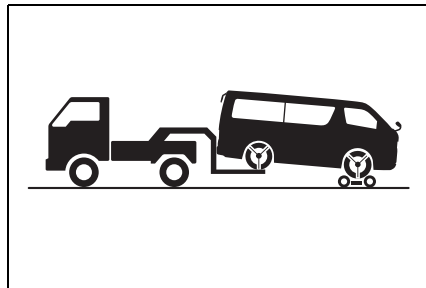
レッカー車でけん引するには

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

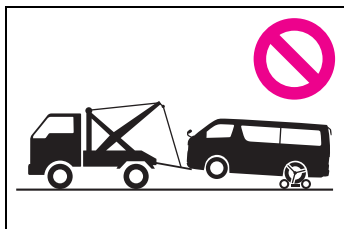


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

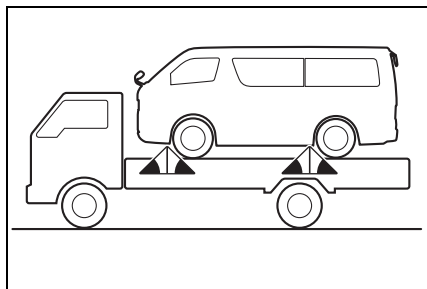
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

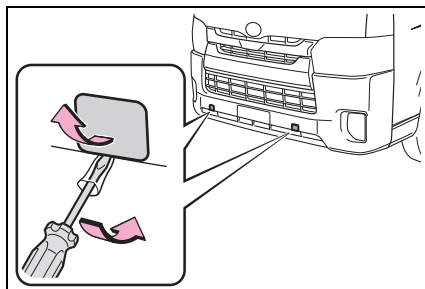
ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

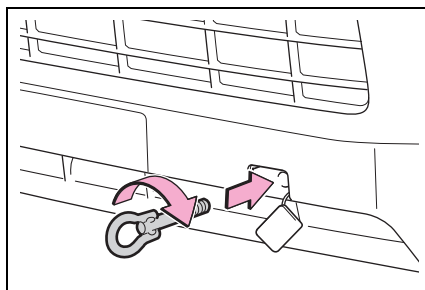
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 工具袋からホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す (→P.340)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

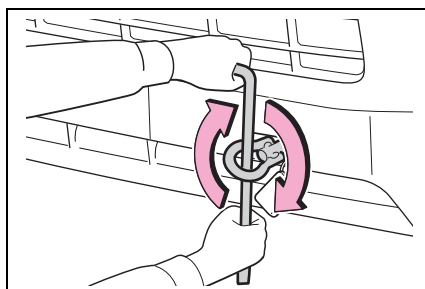
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



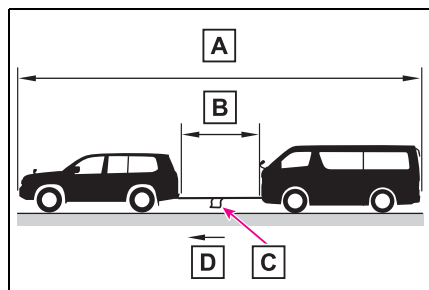
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パークングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.170



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに

使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

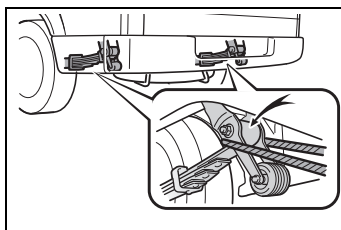
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

工具袋に搭載されています。(→P.340)

■リーフスプリングについて

リーフスプリングは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。ロープは図に示す箇所に掛けてください。



フューエルポンプシャット オフシステム（ガソリン 車）

エンジン停止時および SRS エア
バッグ作動時は、フューエルポ
ンプシャットオフシステムが作
動し、燃料供給を停止し、燃料
もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再 始動するには

システムが作動したあと、エンジ
ンを始動するには、次の手順に
従ってください。

- ▶ スマートエントリー&スタート
システム非装着車
 - 1 エンジンスイッチを“ACC”
または“LOCK”にする
 - 2 エンジンを再始動する
- ▶ スマートエントリー&スタート
システム装着車
 - 1 エンジンスイッチを ACC また
は OFF にする
 - 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃
料システムに損傷があり、修理する必
要があります。その場合はエンジンを
再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ 高水温警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車してください。（対処方法：→P.360）

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 ●排出ガス浄化装置の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●クリアランスソナーの異常。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ●センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.336）

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ヒルスタートアシストコントロールを除く上記のシステムの作動時は点滅します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ LDA 表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●ドライブスタートコントロールの異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。 パーキングサポートブレーキ（PKSB）作動時にも点灯します。（→P.229）

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムに異常、または停止が考えられます。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ パーキングブレーキ表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	パーキングブレーキの未解除 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 → パーキングブレーキを解除する

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 10.5 L 以下になった → 燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ AdBlue® 残量警告灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	AdBlue® の残量不足により再始動できなくなるおそれがある → AdBlue® を補充してください。（→P.294）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠ 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

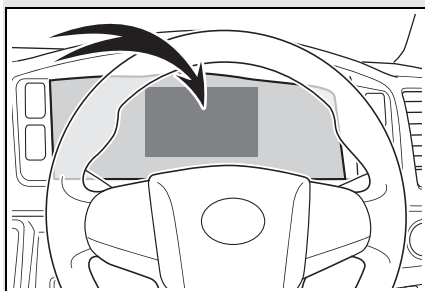
警告**■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき**

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー ※	警告内容
—	あり	- 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 - 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	- 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 - 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “販売店で点検してください” の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
 - ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
 - ・ ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.154）
 - ・ ドライブスタートコントロールが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.160）。
画面の指示に従って対処してください。
- エンジンスイッチの操作に関するメッ

セージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイが表示されます。

画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■取扱説明書の確認をうながすメッセージが表示されたとき

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
- ・“エンジン冷却水高温”（→P.360）
- ・“AdBlue を 3000km 以内に 補充必要”（→P.294）
- ・“AdBlue が低下 2000km 以内に 補充必要”（→P.294）
- ・“あと 800km で 再始動不可 AdBlue 補充必要”（→P.294）
- ・“エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要”（→P.294）
- ・“DPF 再生不十分”（→P.245）

- “スマートエントリー&スタートシステム故障”のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・“エンジン油圧不足”
- ・“故障のためブレーキ力が低下”

- “燃料フィルタに水がたまっています”のメッセージが表示されたときは、燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■“駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたとき

シフトレバーがP以外でエンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はPにしてください。

■“バッテリー保護のため自動で電源をOffしました”が表示されたとき

自動電源OFF機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■“DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください”が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼

処理が必要です。

→P.245

■ “DPF 再生中” が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が自動で行われています。→P.244

■ “アクセルとブレーキが両方踏まれています” が表示されたとき

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。(→P.154) アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “温度条件により高負荷走行を控えてください” が表示されたときは

次のような状況の時にメッセージが表示される場合があります。

● エンジン暖機中

● 高負荷走行を長時間継続し、トランスミッションフルードが高温になった場合

負荷の高い走行を控えてしばらく走行してください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ・ ドライブスタートコントロール (→P.160)
- ・ プラスサポート (販売店装着オプション) (→P.234)

■ “機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS (プリクラッシュセーフティ)

● LDA (レーンディパーチャーアラート)

● AHB (オートマチックハイビーム)

● レーダークルーズコントロール

● RSA (ロードサインアシスト)

● 発進遅れ告知

-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

次の対処法に従ってください。

- ・ バッテリー電圧を確認する
- ・ Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.192）
- ・ RCD 装着車：バックドアが開いていないか確認してください。

センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→P.191, 224）

- ・ センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてくださ

い。（→P.222）

- ・ センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。（→P.222）

センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- ・ ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・ エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）

-  LDA (レーンディパーチャーアラート)
-  AHB (オートマチックハイビーム)
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- ・ 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・ 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・ 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.191)
- ・ 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場合まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.191)
- ・ レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

⚠ 警告

- 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

→P.332

⚠ 注意

- エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

- “燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください” が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は P.297 を参照してください)

⚠ 警告

- タイヤがパンクしたとき

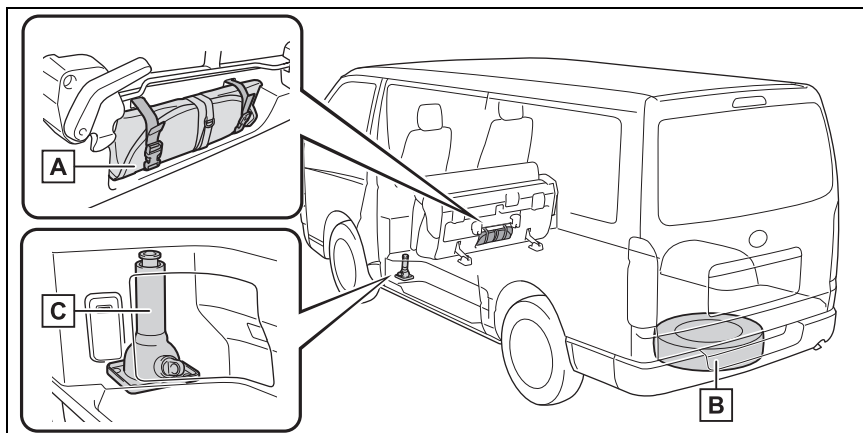
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

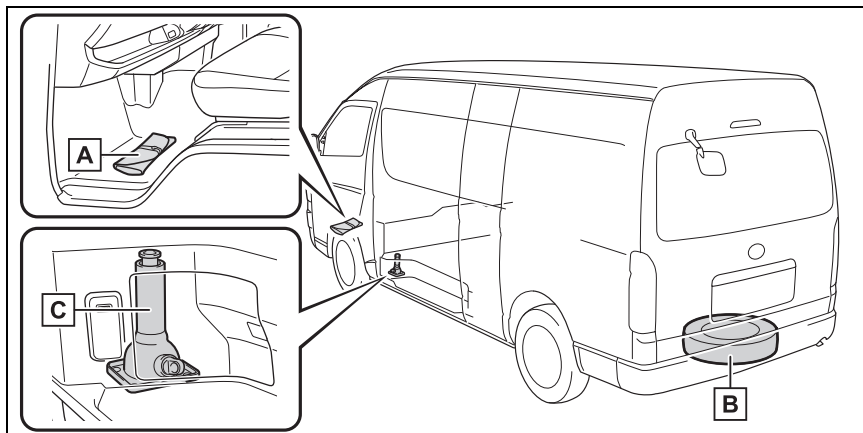
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.319)
- パワースライドドア装着車：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする (→P.100)

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

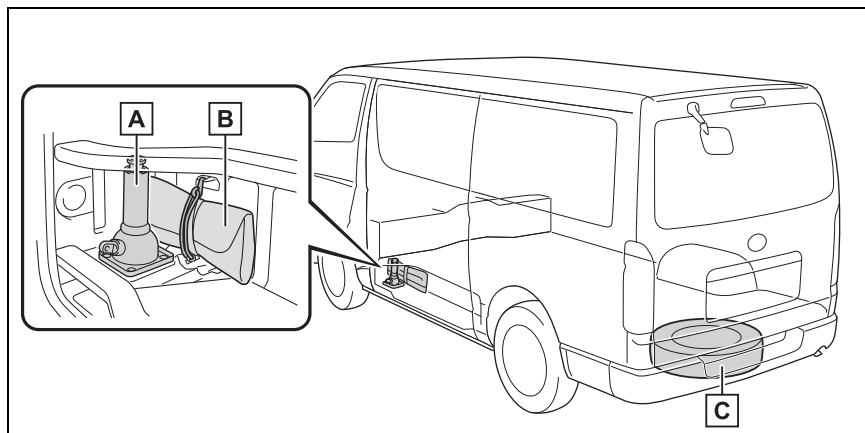
▶ スーパー GL

**A** 工具袋**B** スペアタイヤ**C** ジャッキ

▶ デラックス (2人乗り)

**A** 工具袋 (工場出荷時)**B** スペアタイヤ**C** ジャッキ

▶ デラックス(3人乗り・3 / 6人乗り・3 / 6 / 9人乗り・2 / 5人乗り)



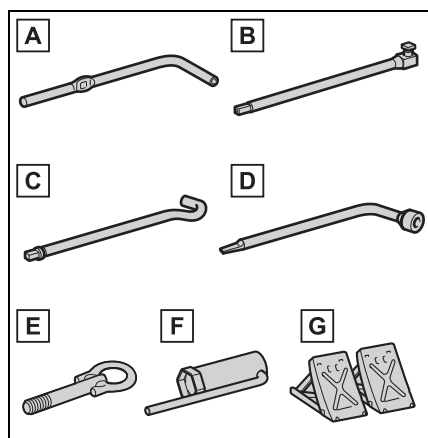
A ジャッキ

B 工具袋

C スペアタイヤ

工具

工具袋の中に収納されています。
(工具袋の取り出し方：→P.343)



A ジャッキハンドル

B ジャッキハンドル延長用バー

C ジャッキハンドルバー

D ホイールナットレンチ

E けん引フック

F スペアタイヤレンチ ※

G 輪止め

※ ジャストローのみ

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

⚠ 警告

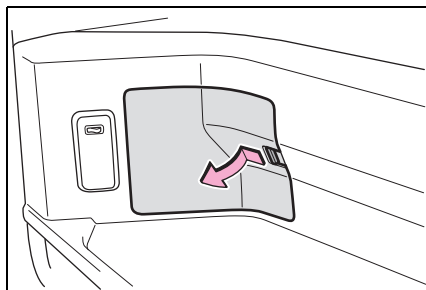
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 地面が固く平らな場所に停車し、パーキングブレーキをかけてシフトレバーをPにする
- 対角の位置にあるタイヤに輪止めをする
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

■ ジャッキハンドルを使用するときは

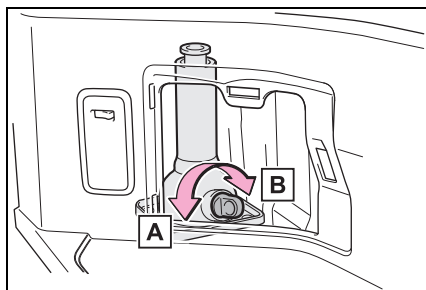
使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。(→P.345)

ジャッキを取り出すには

- ▶ スーパー GL・デラックス (2人乗り)
- 1 ツメを引きながら、カバーを取りはずす



2 ジャッキをゆるめて取りはずす



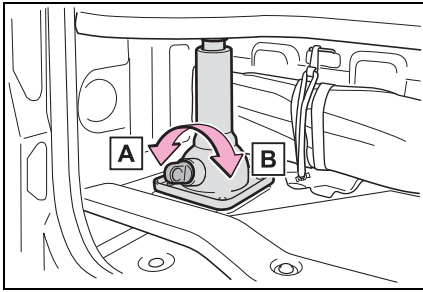
A ゆるむ

B 締まる

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。

- ▶ デラックス (3人乗り・3 / 6人乗り・3 / 6 / 9人乗り・2 / 5人乗り)

ジャッキをゆるめて取りはずす



A ゆるむ

B 締まる

使用後はもとの位置にもどします。

ジャッキハンドルバー挿し込み部（回転部）が車両外側を向くように置き、確実に固定してください。

工具袋を取り出すには

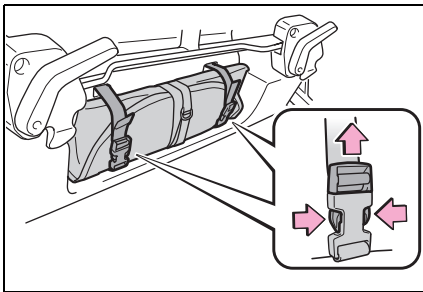
▶ スーパー GL

1 セカンドシートを折りたたむ（→P.123）

2 ツメを押しながら、ベルトの留め具をはずす

使用後はもとの位置にもどします。

留め具を結合したあと、ベルトの端を引いて、確実に固定してください。

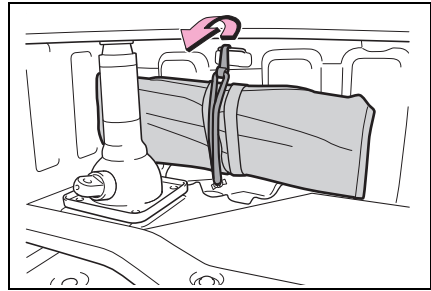


▶ デラックス（3人乗り・3／6人乗り・3／6／9人乗り・2／5人乗り）

固定バンドをはずす

使用後はもとの位置にもどします。

固定バンドで確実に固定してください。

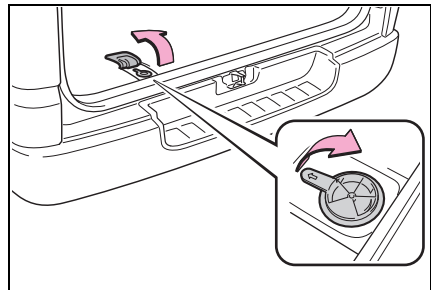


スペアタイヤを取り出すには

1 バックドアを開けてからキャップをはずす

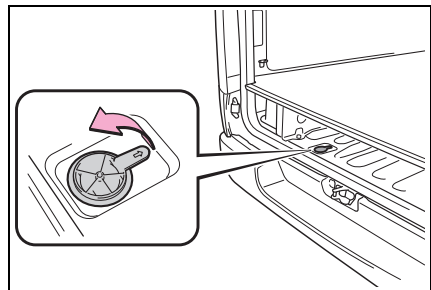
▶ ジャストローを除く

マットの切り欠き部分をめくり、キャップをはずします。



▶ ジャストロー

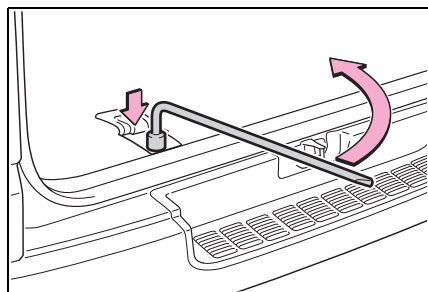
床下収納（→P.276）のカバーをはずして、キャップをはずします。



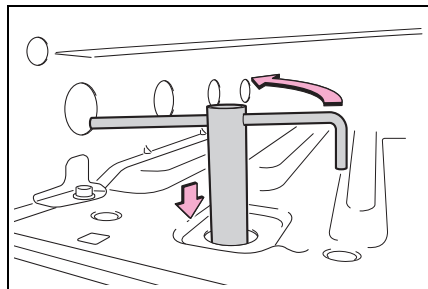
- 2 ホイールナットレンチ、またはスペアタイヤレンチを使って、スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。

- ▶ ジャストローを除く



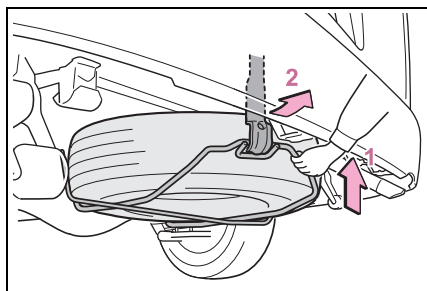
- ▶ ジャストロー



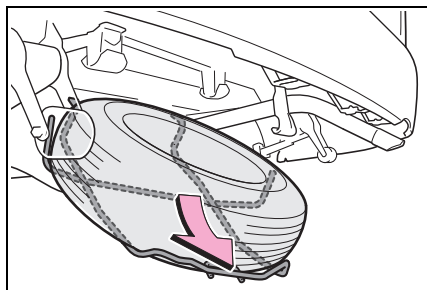
- 3 スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ (1)、フックを手前に引いてはずす (2)

格納具が落下しないように、手でしっか

り支えてください。



- 4 スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す



- 5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。

スペアタイヤを格納するとき：→P.349

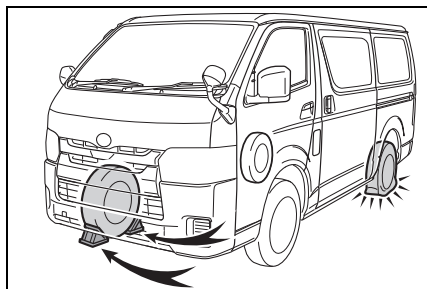
⚠ 警告

■ スペアタイヤを収納するとき

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

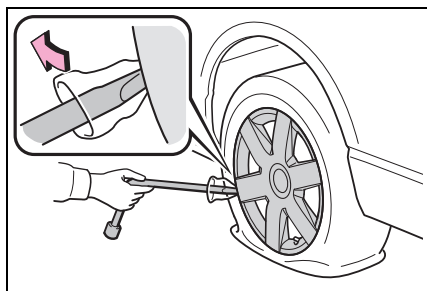
1 輪止めをする



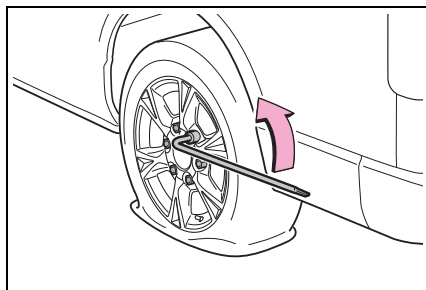
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪の前後
右前輪	左側後輪の前後
左後輪	右側前輪の前後
右後輪	左側前輪の前後

2 ホイールキャップをはずす（スチールホイール装着車）

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

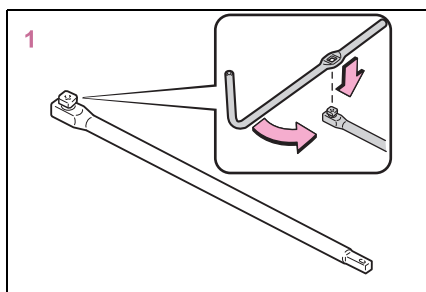


3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

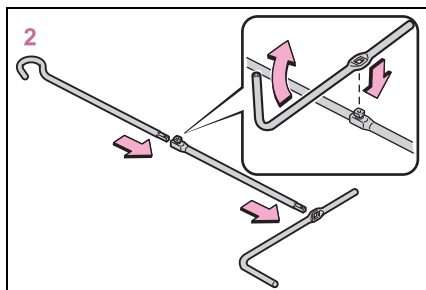


4 ジャッキハンドルを組み付ける

工具袋からジャッキハンドル、ジャッキハンドル延長用バー、ジャッキハンドルバーを取り出して以下の手順で組み付けてください。



1 ジャッキハンドルの穴部を使い、ジャッキハンドル延長用バーの接続用ボルトをゆるめる

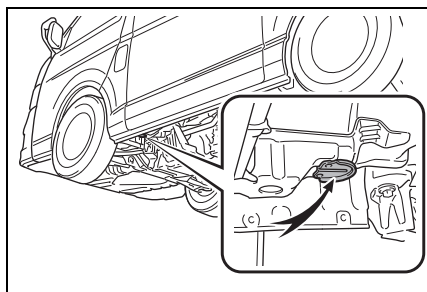


2 ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーとを接続して、ジャッキハンドルの穴部

を使い、接続用ボルトを締め付ける。ジャッキハンドル延長用バーをジャッキハンドルの穴部に確実に挿し込む。

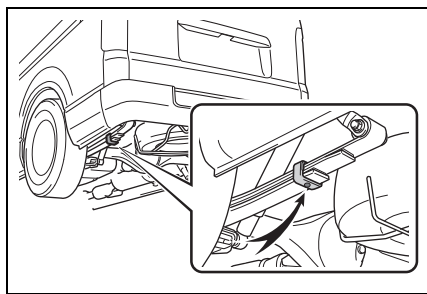
- 5** 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

▶ フロント側



▶ リヤ側 (A タイプ)

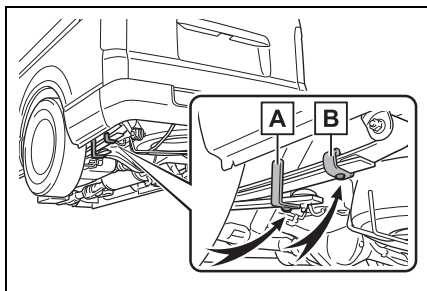
ジャッキ上部の溝を合わせてください。
(→P.350)



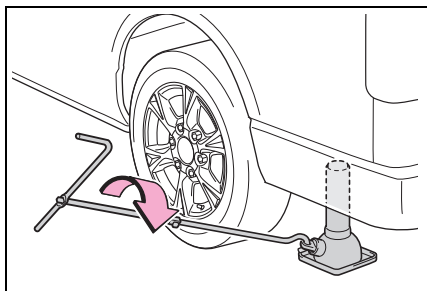
▶ リヤ側 (B タイプ)

ジャッキ上部の溝を合わせてください。
(→P.350)

路面状況などにより、**A** の位置にジャッキをセットできないときは、**B** の位置でジャッキアップしてください。

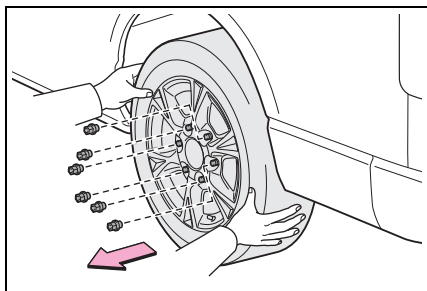


- 6** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 7** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■ タイヤ交換について

- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
- ・ ホイールキャップ・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
- ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：100N・m
(1020kgf・cm)
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

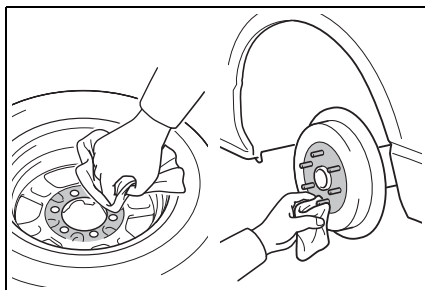
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドア★の作動（→P.100）を停止してください。停止しないと、誤ってパワースライドドア★を作動させたときにスライドドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スペアタイヤを取り付けるには

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

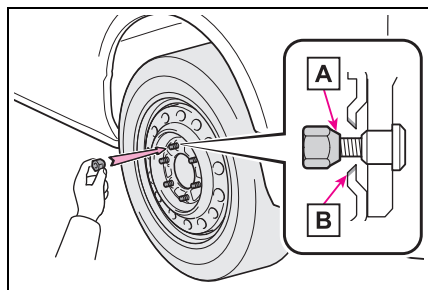
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれのおそれがあります。



2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

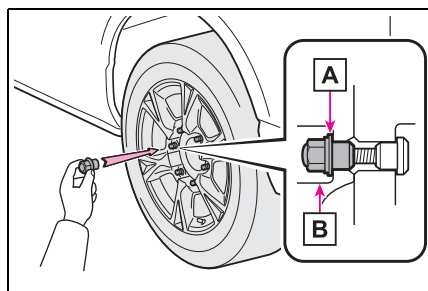
▶ スチールホイール装着車

ナットのテーパー部 **A** がホイールのシート部 **B** にあたるまでまわします。

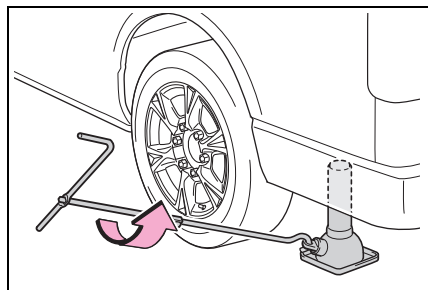


▶ アルミホイール装着車

ナットの座金 **A** がホイール **B** にあたるまでまわします。



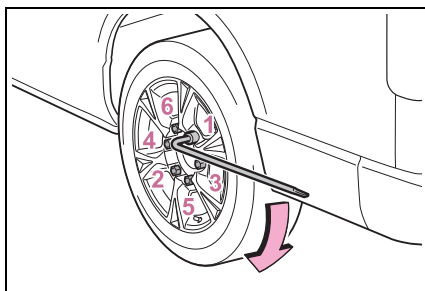
3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

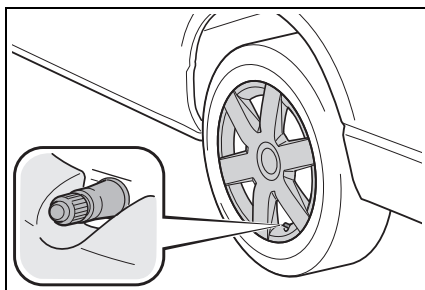
100N・m (1020kgf・cm)



5 センターオーナメント、またはホイールキャップを取り付ける

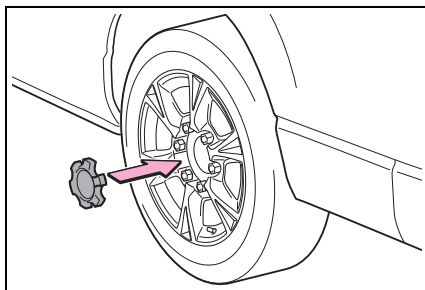
▶ スチールホイール装着車

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。



▶ アルミホイール装着車

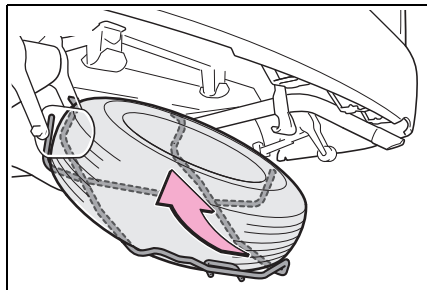
はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。



スペアタイヤの格納

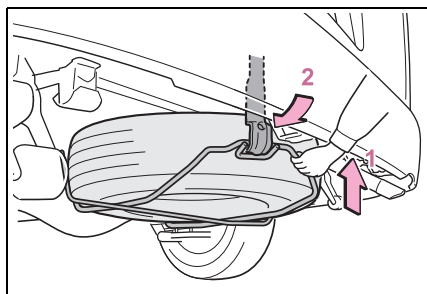
1 パンクしたタイヤをスペアタイヤ格納具に載せる

ホイールの意匠面を上 にします。



2 スペアタイヤ格納具を持ち上げ(1)、フックをかける(2)。 フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置に かけてください。

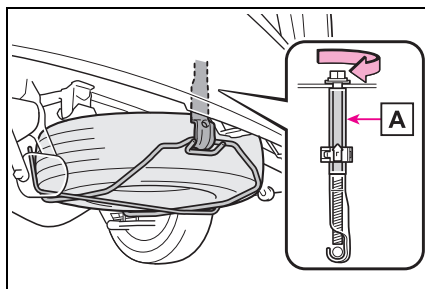
格納具にタイヤが確実に固定されていることを確認します。



3 パイプががたつかなくなるまで ボルトを締め付けたあと、さら に 1/3 回転以上締め付ける

締め付けトルク：

24.0N・m (245kgf・cm) 以上



A パイプ

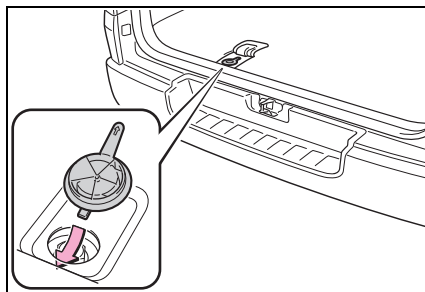
4 すべての工具・ジャッキを収納 する

5 キャップを取り付ける

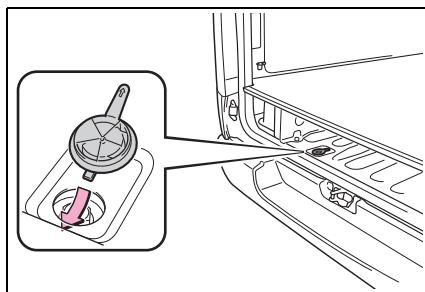
キャップのツメをフロア下に挿し込んで、ボルトの頭にキャップ下部を合わせて、キャップ上部をフロアにはめてください。

キャップ上部が確実にハマっていることを確認してください。

▶ ジャストローを除く



▶ ジャストロー



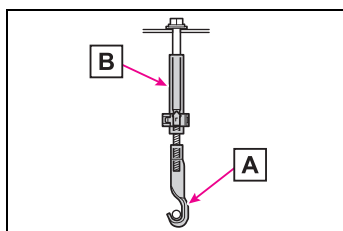
知識

■スベアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。
(→P.369)

■スベアタイヤ格納具のフックについて

スベアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。



A フック

B パイプ

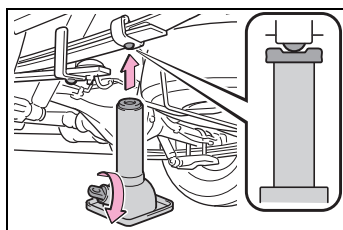
■スベアタイヤレンチについて（ジャストローのみ）

スベアタイヤレンチはスベアタイヤ格納具を取りはずすボルトにのみ使用するものです。(→P.343)

ほかの部品には使用しないでください。

■リヤ側ジャッキセット位置について

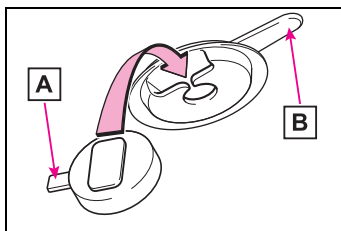
ジャッキ上部の溝を、図のように合わせてください。



■キャップについて

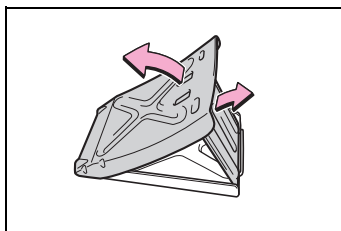
キャップ上部と下部がはずれたときは、図のようにはめ込んでから、フロアに取り付けてください。

キャップ下部のツメ**A**の位置が、キャップ上部の取っ手**B**と反対側になるようにはめ込んでください。



■輪止めの使い方

図のように展開して使用します。



警告

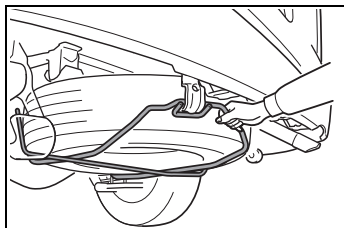
■スベアタイヤを取り出すときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- スベアタイヤ格納具のボルトをゆるめすぎない
- スベアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスベアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する

警告

- スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える



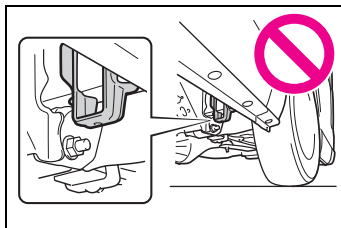
- スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 車載ジャッキでジャッキアップするときは

図のマウントハンガーにジャッキをかけないでください。マウントハンガーが破損するおそれがあります。

**注意****■ スペアタイヤ格納具のボルトについて**

操作をするときはホイールナットレンチ、またはスペアタイヤレンチを使用してください。

■ スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.162, 164）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P.162, 164）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.50）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.356）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.352）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.356）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.173）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

- 3 エンジンスイッチを ACC※¹ にする ※²
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。
(→P.381)

※² ACC がない場合は、エンジンスイッチを ON にしたあとにエンジンスイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。

車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.115）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.376）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.114）

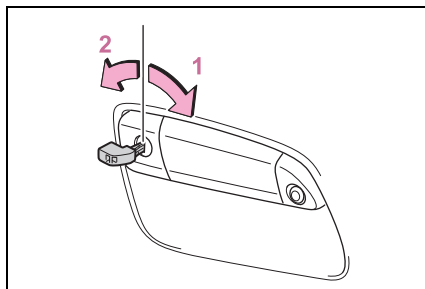
⚠ 注意

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

メカニカルキー（→P.91）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



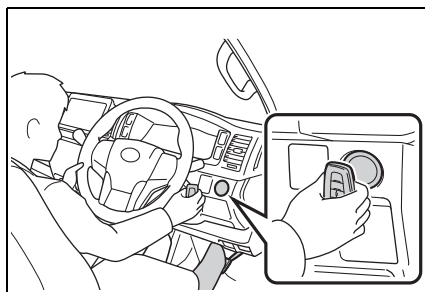
- 1 全ドア施錠
- 2 全ドア解錠

エンジンを開始するには

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、電子キーのスイッチを表に向けた状態で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。



■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけてエンジンスイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.302)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.51)

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.167)

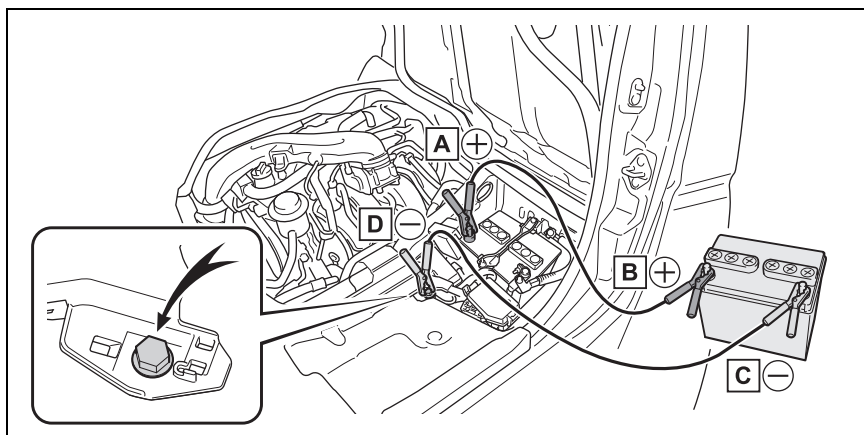
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 エンジン点検口を開ける (→P.287)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

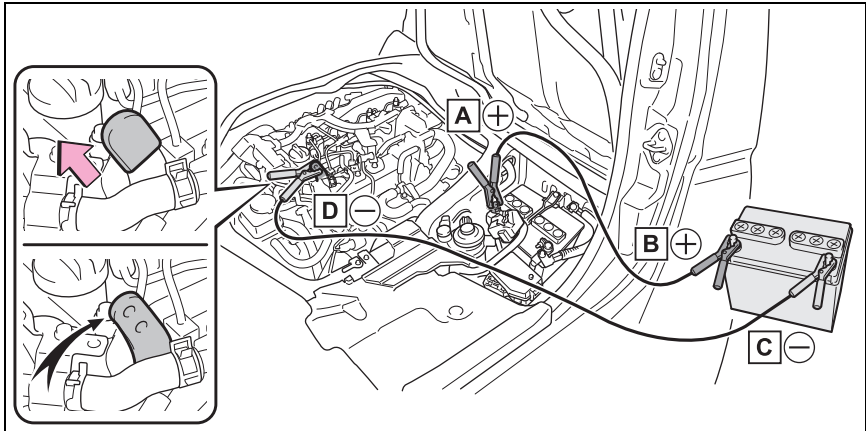
▶ ガソリン車



- A 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- B 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- C 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- D 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、金属部 (図に示すような固定された部分) につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所が届くものを使用してください。

▶ ディーゼル車



- A** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
- B** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
- C** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
- D** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

ブースターケーブルをつなぐ前にカバーを取りはずす

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所へ届くものを使用してください。

- 3** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4** スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する
- 5** 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ディーゼル車はカバーを取り付ける

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。



■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はでき

ません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ラ

ンプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。

- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

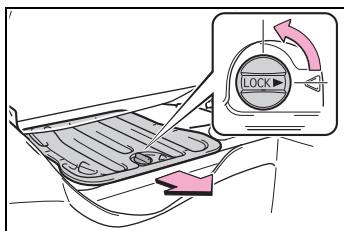
■ バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.383)

■ バッテリー 2 個搭載車について

エンジンルーム内と運転席うしろに、計 2 個のバッテリーが搭載されています。

- 運転席うしろのバッテリーを点検するときは、カバーをめくり、ダイヤルをまわしてフタを取りはずします。



- バッテリーが 2 個ありますが、24V ではありません。
- ブースターケーブルを接続する場合は、必ずエンジンルーム内のバッテリーで行ってください。
- バッテリーの交換は必ず 2 個同時に、同メーカー・同一型式のバッテリーを使用してください。
- 長期駐車などで一端子をはずす場合は、必ず両方のバッテリーの一端子をはずしてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費

や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されま

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは + 側と - 側の端子を絶対に接触させない

 警告

- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

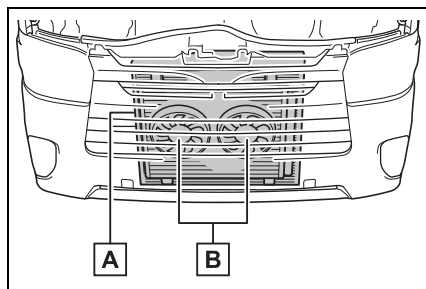
- 水温計 (→P.75) の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する (スピードが出ないなど)
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットとエンジン点検口を開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットとエンジン点検口を開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部 (放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただち

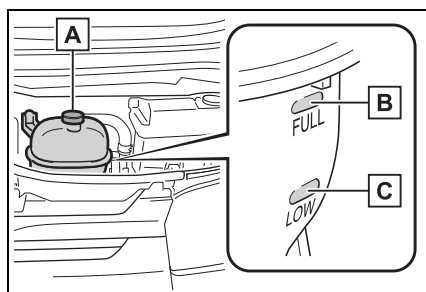
にトヨタ販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 4 冷却水の量がリザーバートankの “FULL” (上限) と “LOW” (下限) のあいだにあるかを点検する



A リザーバートank

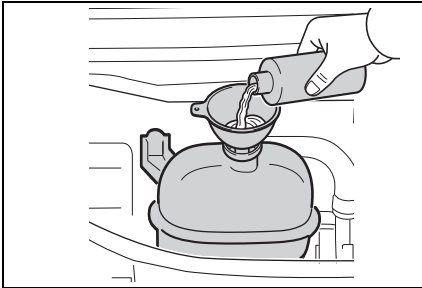
B “FULL” (上限)

C “LOW” (下限)

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



- 6 エンジンを開始し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する**

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：**
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける



知識

■冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となります。

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ボンネット周辺から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットやエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P.289）・エンジン点検口（→P.287）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

脱出するには

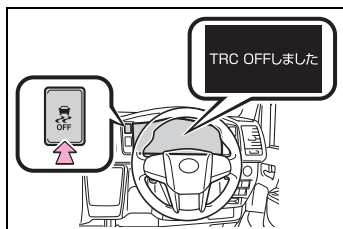
- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む



知識

■脱出しにくいとき

 を押して TRC を OFF にしてください (→P.240)



⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **364**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... **373**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **383**

8-4. フリー／オープンソフトウェア

フリー／オープンソフトウェア情報
..... **384**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

▶ ガソリン車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	70

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

▶ ディーゼル車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	70

エンジンオイル

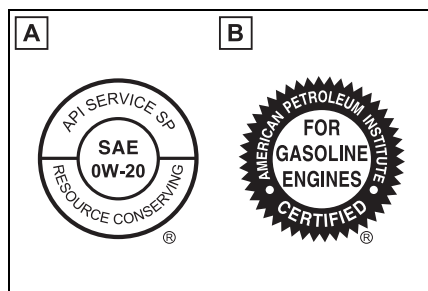
▶ ガソリン車

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.9	5.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサクサーティフィケーション) マークが付いています。



A API マーク

▶ ディーゼル車

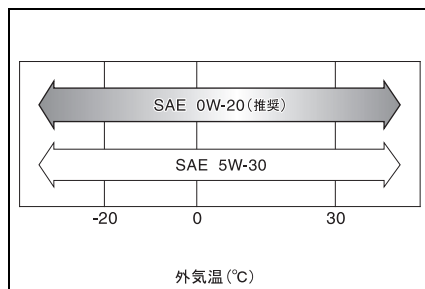
指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 —ACEA C5, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	5.5	6.1

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

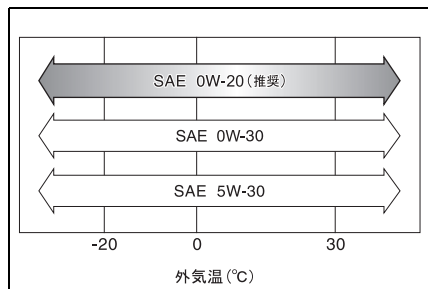


オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します)：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

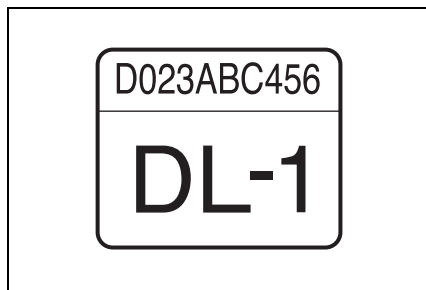
- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。



JASO DL-1 マーク

⚠ 注意

■ エンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。
異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約20,000kmごと（ただし12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約20,000kmごとに変換してください。
定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	リヤヒーターの有無	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	ガソリン	なし	11.2
		あり	13.2
	ディーゼル	なし	13.9
		あり	15.9

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン		容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	ガソリン車	FR	7.9
		4WD	7.8
	ディーゼル車	FR	8.9
		4WD	9.0

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。



注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

フロントディファレンシャル (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	1.30

リヤディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	駆動方式	ボデー	容量 [L] （参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE 75W-85）	FR	標準	3.05
		ワイド	3.12
	4WD	標準	3.30
		ワイド	3.40

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3 SAE 75W-90）	1.3

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.9

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	120

※ エンジン停止時に 500 N（51 kgf）の踏力をかけたときの床板（フロアパネル上面）とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	ホイールベース	基準値 [回数]
引きしろ	ロング	10 ～ 16
操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ ※ 数	スーパーロング	12 ～ 18

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“ カチッ ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
3.2

タイヤ

▶ ロングバン

FR (ジャストロー) :

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)		
	積載量 ※	前輪	後輪
185/75R15	軽積時	450 (4.50)	450 (4.50)
106/104S LT	定積時	475 (4.75)	525 (5.25)

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

FR（ジャストローを除く）：

車種	タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)		
		積載量 ※	前輪	後輪
スーパー GL	195/80R15 107/105S LT	軽積時	325 (3.25)	300 (3.00)
		定積時	325 (3.25)	350 (3.50)
デラックス (3人乗り)		軽積時	325 (3.25)	400 (4.00)
		定積時	350 (3.50)	425 (4.25)
デラックス (3／6人乗り・2／5人乗り・3／6／9人乗り)		軽積時	325 (3.25)	425 (4.25)
		定積時	350 (3.50)	425 (4.25)

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

4WD：

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)		
	積載量 ※	前輪	後輪
195/80R15 107/105S LT	軽積時	350 (3.50)	350 (3.50)
	定積時	375 (3.75)	425 (4.25)

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

▶ スーパーロングバン

車種	タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)		
		積載量※	前輪	後輪
FR	195/80R15 107/105S LT	軽積時	350 (3.50)	350 (3.50)
		定積時	350 (3.50)	400 (4.00)
4WD		軽積時	350 (3.50)	325 (3.25)
		定積時	400 (4.00)	375 (3.75)

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

ホイール

■ サイズ

ホイールサイズ
15x6J

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
100 (1020)

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ ・ ハロゲンヘッドランプ装着車 (バルブタイプ: H4)	60 / 55
	車幅灯 (ハロゲンヘッドランプ装着車)	5
	フロント&サイド方向指示灯 / 非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯 / 非常点滅灯	21
	制動灯 / 尾灯	21 / 5
	後退灯	16
	番号灯	5
	リヤフォグランプ★	21
車内	リヤルームランプ★	8
	スライドドアステップランプ★	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRH200V	1TR-FE (2.0L ガソリン)	FR (後輪駆動)
TRH200K		
TRH211K	2TR-FE (2.7L ガソリン)	4WD (4 輪駆動)
TRH221K		
TRH216K		
TRH226K		
GDH201V	1GD-FTV (2.8L ディーゼル)	FR (後輪駆動)
GDH201K		
GDH211K		
GDH221K		
GDH206V		4WD (4 輪駆動)
GDH206K		
GDH226K		

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ マルチメディアディスプレイで設定するには

- 1 マルチメディアディスプレイの  ボタンを選択する
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

 (作動)・ (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して変更する項目を選択する
- 3 ON / OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる
- 4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気しないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ カスタマイズ設定を行うとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.79）

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
言語	●日本語 ●英語	—	○	—
単位	●km/L ●L/100km	—	○	—
メーターデザイン	●カジュアル ●スマート ●スポーティー	—	○	—
アナログメーター	●タコメーター ●スピードメーター ●シンプル	—	○	—
エコドライブインジケータランプ	●あり（自動点灯） ●なし	—	○	—
燃費グラフ	●始動後平均燃費 ●リセット間平均燃費 ●給油後平均燃費	—	○	—
オーディオ表示	●あり ●なし	—	○	—

機能の内容 ※ ¹	カスタマイズ設定	A	B	C
ドライブインフォ項目	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	○	—
TRIP A 項目	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	○	—
TRIP B 項目	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	○	—
割込表示	●あり ●なし	—	○	—
MID 消灯	●表示 ●非表示	—	○	—
提案サービス ※ ²	●あり ●あり（停車中のみ） ●なし	○	—	○

※¹機能についての詳しい説明は P.79 を参照してください。

※²マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック (→P.92)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車速感応オートドアロック ※ ★	●あり ●なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック) ※ ★	●あり ●なし	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック) ※ ★	●あり ●なし	○	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
運転席を開けたときの全ドア自動解錠 (運転席ドア開連動アンロック) ※ ★	●あり ●なし	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→P.113)、ワイヤレスドアロック共通 (→P.92)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図 (非常点滅灯) ※	●あり ●なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→P.113)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	—	○
作動の合図 (ブザー音量調整)	●レベル 0 (なし) ~ レベル 7	○	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.174)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整 ※	●より暗い ●暗い ●標準 ●明るい ●より明るい	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	●ドアと連動 ●エンジンスイッチと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤワイパー (→P.182)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能	●する ●しない	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	●する ●しない	—	—	○
リバース連動機能	●1 回のみ作動 ●連続作動 ●OFF	—	—	○

■ ドライブスタートコントロール (→P.160)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後退速度の抑制制御	●あり ●なし ※	—	○	—

※ “なし” に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに “あり” にもなります。

■ プリクラッシュセーフティ (→P.196)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	☒ ON ☒ OFF	—	○	—
警報タイミング ※	☒ 遅い ☒ 標準 ☒ 早い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンディパーチャーアラート (LDA) (→P.203)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート (LDA)	☒ ON ☒ OFF	—	○	—
警報タイミング ※	☒ 標準 ☒ 早い	—	○	—
低車速支援 ※	☒ ON ☒ OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール (DRCC) (→P.211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
加速度設定 ※	☒ 弱 ☒ 中 ☒ 強	—	○	—
速度設定 (短押し) ※	☒ 1km/h ☒ 5km/h ☒ 10km/h	—	○	—
速度設定 (長押し) ※	☒ 1km/h ☒ 5km/h ☒ 10km/h	—	○	—
ガイド文言表示 ※	☒ ON ☒ OFF	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制 ※	●OFF ●弱 ●中 ●強	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知 (→P.207)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車 ※	●ON ●OFF	—	○	—
信号 ※	●ON ●OFF	—	○	—
告知タイミング ※	●早い ●標準 ●遅い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ロードサインアシスト (→P.208)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト ※	●ON ●OFF	—	○	—
速度標識超過告知方法 ※	●無 ●表示 ●表示とブザー	—	○	—
その他告知方法 ※	●無 ●表示 ●表示とブザー	—	○	—
速度超過告知車速 ※	●10km/h ●5km/h ●2km/h	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案 (→P.204)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	●ON ●OFF	—	○	—

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.228)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	●ON ●OFF	—	○	—

■ クリアランスソナー (→P.222)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能 ※	●ON ●OFF	—	○	—
ブザー音量	●レベル 1 ～レベル 3	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ フロントオートエアコン (→P.257)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	●する ●しない	—	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	●する ●しない	—	—	○

■ イルミネーション (→P.266)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間 (室内照明消灯時間調節) ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	—	○
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	●する ●しない	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	●する ●しない	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤシートリマインダー (→P.102)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤシートリマインダー ※	●あり ●なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ マイセッティング★ (→P.151)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ドライバーの切りかえ	●ドライバー 1 ●ドライバー 2 ●ドライバー 3 ●ゲスト ※1	○ ※1	○ ※2	—

※1 マルチメディア装着車

※2 マルチメディア非装着車

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エンジンスイッチ (→P.167)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ★ ACC の ON/OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	—	○

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 車両カスタマイズについて

- “車速感应式自動ドアロック” と “シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠” を両方とも “あり” にした場合次のように作動します。
- ・ シフトレバーを P 以外にすると全ドア

施錠されます。

- ・ 全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
- ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应式ドアロックが作動します。

- 解錠後にドアを開けなかったときの自

動施錠が作動した合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量の調整）”の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パーキングサポートブレーキ	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P.228
パワースライドドア★		P.101
クリアランスソナー		P.222
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P.148

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フリー／オープンソフトウェア情報

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.yazaki-group.com/rd-tech/oss/899>

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	386
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）	388
アルファベット順さくいん	390
五十音順さくいん	391

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.353）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.353）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.302）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチが ON になっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.167）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携

帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.93）



スライドドアが開かない （チャイルドプロテクター装着車）

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.100）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.164）
- シフトレバーは P になっていすか？（→P.169）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.113）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.354）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P.356）



ブレーキペダルを踏んでいても
シフトレバーがPから動かない

- エンジンスイッチはONになっていますか？
エンジンスイッチがONでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.170）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、助手席のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.149）



エンジンスイッチが自動的にOFFになった（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源OFF機能が作動します。（→P.167）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.388）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示

されたときは、P.328、333
をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.339）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.362）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.51
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキー★が挿してある	P.163
	シフトポジションがP以外になっている	P.333
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.51
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P.88
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	P.113
	電子キー★を車内に置き忘れている	P.114

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ ドアを解錠する、またはエンジンス

イッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.94
	パーキングブレーキが解除されていない	P.173
	運転席または助手席のシートベルトを着用していない※	P.332
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.171
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.157
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.216
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.196
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.203

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.208
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近づいたとき	クリアランスソナーが作動した	P.222

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン)252, 257

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
.....239

AdBlue®

(アドブルー)293, 332

AHB

(オートマチックハイビーム) ..177

AI-SHIFT

(アーティフィカルインテリジェン
スシフト)169

DCM

(データコミュニケーションモ
ジュール)53

EDR

(イベントデータレコーダー)8

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン)365

LDA

LDA (レーンディパーチャーア
ラート)203

PCS

(プリクラッシュセーフティ) ..196

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
.....228

RSA

(ロードサインアシスト)208

SCB

(セカンダリーコリジョンブレーキ)
.....239

SRS

(サプリメンタルレストレイントシ
ステム)33

T-Connect エントリー 53

ヘルプネット (エアバッグ連動タイ
プ)56

ヘルプネットボタン57

Toyota Safety Sense

PCS (プリクラッシュセーフティ)
.....196

RSA (ロードサインアシスト) 208

LDA (レーンディパーチャーア
ラート)203

クルーズコントロール219

ソフトウェアアップデートを確認す
る187

レーダークルーズコントロール
.....211

発進遅れ告知機能207

TRC

(トラクションコントロール) ..239

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル)239

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	356
アウターミラー（ドアミラー）.....	145
格納のしかた.....	146
操作.....	145
ミラーヒーター.....	253, 258
アクセサリーコンセント.....	278
アクセサリーソケット.....	277
AdBlue®.....	293
AdBlue® 残量警告灯.....	332
補充.....	293
容量.....	294
アラーム	
オートアラーム.....	51
音さくいん.....	388
警告ブザー.....	328, 333
アンチロックブレーキシステム（ABS）	239
アンテナ	
スマートエントリー&スタートシステム	113
通信モジュール（DCM）.....	54
ラジオ.....	147

い

イージークローザー	
スライドドア.....	100
バックドア.....	109
イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）	
車両を緊急停止する.....	320
位置交換（タイヤローテーション）.....	298
イベントデータレコーダー（EDR）.....	8
イモビライザーシステム.....	50
イルミネーテッドエントリーシステム	

.....	266
インジケーター（表示灯）.....	73
インナーミラー.....	135, 136
リヤカメラウォッシャー.....	182

う

ウインカー（方向指示灯）.....	172
電球（バルブ）の交換.....	311, 312
方向指示レバー.....	172
ウインドウ	
ウォッシャー.....	181, 182
パワーウインドウ.....	148
リヤウインドウデフォグガー.....	253, 258
ウインドウロックスイッチ.....	149
ウインドシールドデアイサー.....	253, 259
ウォーニングランプ（警告灯）.....	328
ウォッシャー.....	181, 182
液の補充.....	296
スイッチ.....	181, 182
冬の前の準備・点検.....	248
動けなくなったときは（スタック）.....	362
運転.....	154
雨の日の運転.....	154
運転を補助する装置.....	239
寒冷時の運転.....	248
正しい運転姿勢.....	27
手順.....	154
運転支援機能情報表示.....	81
運転席シートベルト非着用警告灯... ..	332

え

エアコン	
オートエアコン.....	257
曇り取り（フロントガラス）.....	253, 258
フィルターの清掃.....	300
マニュアルエアコン.....	252
エアコン・デフォグガー.....	253, 258

エアバッグ	33
SRS エアバッグ警告灯	329
改造・廃棄	36
作動条件	34
正しい姿勢	27
配置	33
エコドライブインジケーター	80
エンジン	
エンジンイモビライザーシステム	50
エンジンが始動できない	352
エンジン警告灯	329
エンジン点検口	287
エンジンを停止する前に	155
オーバーヒート	360
タコメーター	75
フューエルポンプシャットオフシステム	327
エンジンイモビライザーシステム	50
エンジンオイル	364
冬の前の準備・点検	248
メンテナンスデータ	364
油圧警告灯	328
容量	364
エンジン回転計（タコメーター）	75
エンジンスイッチ（イグニッションス イッチ）	
車両を緊急停止する	320
エンジン点検口	287
エンジンルーム	
エンジンルームから蒸気が出ている	360

お

オイル（エンジンオイル）	364
応急用タイヤ	
空気圧	369
交換方法	339
オートアラーム	51

オートエアコン	257
オートドアロック・アンロック機能	95
オートマチックトランスミッション	169
オートマチックトランスミッション	169
シフトレバーがシフトできない	170
オートマチックハイビーム（AHB）	177
オーバーヒート	360
オープナー	
給油扉	185
バックドア	107
ボンネット	289
オープントレイ	273
お子さまを乗せるとき	39
ウインドウロックスイッチ	149
お子さまの安全のために	39
シートヒーターに関する警告	265
シートベルトの着用	30
スライド式リヤサイドガラスに関する警告	150
スライドドアに関する警告	96
チャイルドプロテクター	100
発炎筒の取り扱いに関する警告	320
バックドアに関する警告	105
パワーウインドウに関する警告	149
オドメーター	77
表示項目	77

か

カードホルダー	273, 277
カーペット	284
洗浄	284
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	75
カスタマイズ機能	373
ガソリンスタンドでの情報	404
カップホルダー	272
カメラ	
前方カメラ	191

デジタルインナーミラー	141
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォッガー）	253, 258
ガラスの曇り取り 前方カメラ取り付け部	193
ガレージジャッキ	290
冠水路走行	159
寒冷時の運転	248

き

キー

エンジンが始動できない	352
キーの構成	90
キーレスエントリー	90, 113
正常に働かない	354
施錠・解錠ができない	354
電池が切れた	354
メカニカルキー	91
ワイヤレスリモコン	90

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	113
ワイヤレスドアロック	90

きしみやひっかき音が聞こえる（プレー キパッドウェアインジケーター）... 157

急発進の抑制制御（ドライブスタートコ ントロール）

給油

給油のしかた	184
--------------	-----

緊急時シートベルト固定機構

緊急始動機能

緊急時の対処

エンジンが始動できない	352
オーバーヒートした	360
キーの電池が切れた	354
警告灯がついた	328
警告メッセージが表示された	333
けん引	323

故障したときは	318
車中泊が必要なときは	322
車両を緊急停止する	320
水没・冠水したときは	321
スタックした	362
電子キーが正常に働かない	354
発炎筒	319
バッテリーがあがった	356
パンクした	339

緊急通報

緊急ブレーキシグナル

く

曇り取り

前方カメラ取り付け部	193
フロントガラス	253, 258
ミラーヒーター	253, 258
リヤウインドウデフォッガー	253, 258

クラクション（ホーン）

クリアランスソナー

クリアランスランプ（車幅灯）

スイッチ	174
電球（バルブ）の交換	311, 313
ワット数	371

クリップ

フロアマット	26
--------------	----

クルーズコントロール

クルーズコントロール	219
レーダークルーズコントロール	211

グローブボックス

け

警音器（ホーン）

計器類（メーター）

警告灯

AdBlue® 残量警告灯	332
運転支援情報表示灯	331

ABS (アンチロックブレーキシステム) & ブレーキアシスト	329
SRS エアバッグ	329
LDA (レーンディパーチャーアラート) 表示灯	330
エンジン	329
クリアランスソナー OFF 表示灯	329
クルーズコントロール表示灯	330
高水温	328
シートベルト非着用	332
充電	328
スリップ表示灯	330
ドライブスタートコントロール	331
燃料残量	332
パーキングブレーキ表示灯	331
PCS (プリクラッシュセーフティ)	329
ブリテンショナー	329
ブレーキ	328
ブレーキオーバーライドシステム	331
油圧	328
レーダークルーズコントロール表示灯	330
警告ブザー	
クリアランスソナー	222
高水温	328
シートベルト非着用	332
シフトダウン制限	171
車線逸脱警報 (LDA)	203
衝突警報 (PCS)	196
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	216
パーキングブレーキ未解除走行時	331
半ドア	93
半ドア走行	94
ブレーキ	328
油圧	328
リバース	169
警告メッセージ	333
化粧ミラー (バニティミラー)	277

けん引

けん引のしかた	323
フック	325

こ

交換

タイヤ	339
ヒューズ	304

工具 (ツール)

航続可能距離

後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール)

コンライト (自動点灯・消灯装置)

さ

サイド方向指示灯

電球 (バルブ) の交換	311, 312
方向指示レバー	172

サイドミラー (ドアミラー)

格納のしかた	146
操作	145
ミラーヒーター	253, 258

サンバイザー

し

シート

正しい運転姿勢	27
調整	118
手入れ	284
フロントシート	118
ヘッドレスト	120
リヤシート	119

シートアレンジ

シートバックコンソール

シートヒーター

シートベルト

お子さまの着用.....	29, 30
緊急時シートベルト固定機構.....	31
シートベルト非着用警告灯.....	332
正しく着用するには.....	30
着け方、はしり方.....	31
手入れ.....	284
長さ調節.....	31
妊娠中の方の着用.....	29
シートベルト非着用警告灯.....	332
シートベルトプリテンショナー.....	31
機能.....	31
プリテンショナー警告灯.....	329
室内灯.....	266
シフトポジション.....	169
シフトレバー.....	169
シフトポジションの切りかえ.....	169
シフトロックシステム（解除ボタン）.....	170
操作.....	169
リバース警告ブザー.....	169
シフトレバーがシフトできないときは.....	170
シフトロックシステム.....	170
締め付けトルク（ホイール）.....	347, 371
ジャッキ.....	
ガレージジャッキ.....	290
車載ジャッキ.....	340
ジャッキハンドル.....	341
車幅灯.....	174
電球（バルブ）の交換.....	311, 313
ランプスイッチ.....	174
ワット数.....	371
車両仕様（スペック）.....	364
車両情報表示.....	81
車両データの記録.....	7
車両を緊急停止するには.....	320
充電用 USB Type-C 端子.....	279
収納装備.....	269
瞬間燃費.....	80, 84

衝撃感知ドアロック解除システム.....	92
初期化.....	383
パワーウィンドウ.....	148
パワースライドドア.....	101
助手席シートベルト非着用警告灯... ..	332
信号切替り告知機能.....	207

す

水温計.....	75
スイッチ.....	
ウインドウロック.....	149
ウインドシールドデアイサー.....	253, 259
ウォッシャー.....	181, 182
オートマチックハイビームスイッチ... ..	177
クルーズコントロール.....	219
シートヒーター.....	265
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン trol）.....	211, 214
スノーモード.....	171
ドアミラー.....	145
ドアロック.....	94
排出ガス浄化装置.....	245
ハザードランプ.....	319
パワーウィンドウ.....	148
パワースライドドア.....	99
パワースライドドアメインスイッ チ... ..	100
パワーヒーター.....	253, 258
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	319
VSC（ビークルスタビリティコントロー ル）OFF.....	240
フォグランプ.....	179
ヘルプネットボタン.....	57
方向指示レバー.....	172
ホーン（警音器）.....	134
メーター操作.....	79
ランプ.....	174
リヤウインドウデフォグガー.....	253, 258
レーダークルーズコントロール.....	211, 214

ワイパー	181, 182
スターター	
スターターが回らない	352
スタック	362
ステアリングホイール (ハンドル)	134
位置調整	134
メーター操作スイッチ	79
ストップランプ (制動灯)	74
緊急ブレーキシグナル	239
制動灯表示灯	74
電球 (バルブ) の交換	312
ワット数	371
スノータイヤ (冬用タイヤ)	248
スピードメーター	75
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	339
空気圧	297, 369
交換方法	343
スペック (車両仕様)	364
スマートエントリー&スタートシステム	
.....	113
アンテナの位置	113
カスタマイズ設定	373
緊急始動機能	352
作動範囲	113
節電機能	114
電波がおよぼす影響について	117
ドアの解錠・施錠	92
バックドアの施錠・解錠	107
スモールランプ (車幅灯)	174
電球 (バルブ) の交換	311, 313
ランプスイッチ	174
ワット数	371
スライド式リヤサイドガラス	150
スライドドア	96
イーゾークローザー	100
操作	98
パワースライドドア	98
スライドドアステップランプ	

スイッチ	102
ワット数	371

せ

清掃	282, 284
アルミホイール	282
外装	282
シートベルト	284
内装	284
レーダーセンサー	191
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	239
電球 (バルブ) の交換	312
表示灯	74
ワット数	371
セカンダリーコリジョンブレーキ	
(SCB)	239
積算距離計 (オドメーター)	77
セキュリティインジケーター	50, 51
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	216
セパレーターバー	127
先行車発進告知機能	207
センサー	
LDA	203
インナーミラー	135
クリアランスソナー	222
前方カメラ	191
前方レーダー	191
デジタルインナーミラー	139
ライトセンサー	175
洗車	282
前照灯 (ヘッドランプ)	174
手動光軸調整ダイヤル	176
電球 (バルブ) の交換	309, 313
ライトセンサー	175
ランプ消し忘れ防止機能	175
ランプスイッチ	174

センターコンソールボックス 270

そ

走行距離 81
 走行時間 81
 走行情報表示 80
 速度計（スピードメーター） 75

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
 172
 電球（バルブ）の交換 311, 312
 方向指示レバー 172
 ワット数 371
 タイヤ 297
 空気圧 299
 交換 297, 339
 締め付けトルク 347, 371
 スペアタイヤ（応急用タイヤ） 339
 チェーン 248
 点検 297
 パンクしたときは 339
 冬用タイヤ 248
 ローテーション（位置交換） 298
 タイヤが空まわりする（スタックした）
 362
 タイヤチェーン 248
 タコメーター 75

ち

チェーン（タイヤチェーン） 248
 チャイルドプロテクター 100
 駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
 173
 操作 173
 冬季の注意 249

パーキングブレーキ表示灯 331
 ブレーキ警告灯 328
 未解除走行時警告ブザー 331

つ

ツール（工具） 340

て

ディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイ
 79

手入れ 282, 284

 アルミホイール 282
 外装 282
 シートベルト 284
 デジタルインナーミラー 140
 内装 284
 レーダーセンサー 191

テールランプ（尾灯） 174

 電球（バルブ）の交換 312
 ランプスイッチ 174
 ワット数 371

デジタルインナーミラー 136

 リヤカメラウォッシャー 182

デフォグガー（リヤウインドウデフォッ
 ガー） 253, 258

点検基準値（メンテナンスデータ） 364

電子キー

 作動範囲 113
 正常に働かないとき 354
 節電機能 114
 電池が切れた 354

と

ドア

 オートドアロック・アンロック機能 95

衝撃感知ドアロック解除システム.....	92
スマートエントリー&スタートシステム	
.....	113
スライドドア.....	96
チャイルドプロテクター.....	100
ドアガラス.....	148
ドアロックスイッチ.....	94
バックドア.....	105
フロントドア.....	92
ロックレバー.....	94
ワイヤレスリモコン.....	92
ドアミラー.....	145
格納のしかた.....	146
操作.....	145
ミラーヒーター.....	253, 258
盗難防止装置	
イモビライザーシステム.....	50
オートアラーム.....	51
時計.....	75, 78
ドライビングフォメーション.....	81
ドライブスタートコントロール.....	160,
169	
急発進の抑制制御.....	160
後退速度の抑制制御.....	160
トラクションコントロール (TRC).....	239
トランスミッション.....	169
シフトダウン制限警告ブザー.....	171
スノーモード.....	171
操作.....	169
メンテナンスデータ.....	367

な

内装	
収納装備.....	269
手入れ.....	284

に

荷物

積むときの注意.....	161
荷物固定用フック.....	275

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック).....	362
-----------------------	-----

ね

燃費

給油後平均燃費.....	80
瞬間燃費.....	80, 84
燃費情報.....	84
平均燃費.....	80, 84

燃料

ガソリンスタンドでの情報.....	404
給油.....	184
冬季の注意.....	248
燃料計.....	75
燃料残量警告灯.....	332
フューエルポンプシャットオフシステム	
.....	327
燃料計.....	75

は

パーキングサポートブレーキ (PKSB)	
.....	228
パーキングサポートブレーキ (前後方静	
止物).....	232
パーキングブレーキ	
操作.....	173
冬季の注意.....	249
パーキングブレーキ表示灯.....	331
ブレーキ警告灯.....	328
未解除走行時警告ブザー.....	173
パーソナルランプ.....	267

排気ガス.....	37
排出ガス浄化装置.....	244
排出ガス浄化装置堆積モニター.....	245
ハイビーム（ヘッドランプ）.....	174
AHB（オートマチックハイビーム）.....	177
電球（バルブ）の交換.....	309, 313
ランプスイッチ.....	174
ワット数.....	371
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換.....	313
ハザードランプ（非常点滅灯）.....	319
スイッチ.....	319
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ.....	148
パワースライドドア.....	101
発炎筒.....	319
バックドア.....	105
イージークローザー.....	109
バックドアストラップ.....	108
バックドアハンドル.....	108
フリーストップバックドア.....	110
発進遅れ告知機能.....	207
バッテリー	
警告灯.....	328
バッテリーがあがったときは.....	356
バニティ（化粧用）ミラー.....	277
パワーウィンドウ.....	148
ウィンドウロックスイッチ.....	149
閉めることができないときは.....	148
初期化.....	148
操作.....	148
挟み込み防止機能.....	148
パワースライドドア	
開け方.....	98
初期化.....	101
挟み込み防止機能.....	101
パワースライドドアメインスイッチ.....	100
パワーヒーター.....	253, 258

パンクした.....	339
番号灯（ライセンスプレートランプ）	
.....	174
電球（バルブ）の交換.....	313
ランプスイッチ.....	174
ワット数.....	371
ハンドル（ステアリングホイール）.....	134
位置調整.....	134
メーター操作スイッチ.....	79

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....	239
ヒーター	
シートヒーター.....	265
前方カメラ.....	193
パワーヒーター.....	253, 258
フロントオートエアコン.....	257
マニュアルエアコン.....	252
ミラーヒーター.....	253, 258
リヤヒーター.....	264
非常点滅灯（ハザードランプ）	
スイッチ.....	319
尾灯（テールランプ）.....	174
電球（バルブ）の交換.....	312
ランプスイッチ.....	174
ワット数.....	371
ヒューズ.....	304
表示灯.....	73
日よけ（サンバイザー）.....	277
ヒルスタートアシストコントロール.....	239

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....	356
フォグランプ	
スイッチ.....	174
電球（バルブ）の交換.....	312, 313

ブザー

PKSB（パーキングサポートブレーキ）
..... 229

休憩提案機能（LDA）..... 204

クリアランスソナー..... 227

高水温..... 328

シートベルト非着用警告..... 332

シフトダウン制限警告..... 171

車線逸脱警報機能（LDA）..... 203

衝突警報（PCS）..... 196

スマートエントリー&スタートシステム
..... 113

接近警報（レーダークルーズコントロー
ル）..... 216

パーキングブレーキ未解除走行時警告331

発進遅れ告知機能..... 207

半ドア警告..... 93

半ドア走行時警告..... 94

ブレーキ警告..... 328

油圧..... 328

リバース警告..... 169

フック

けん引フック..... 325

フロアマット固定フック..... 26

フューエルポンプシャットオフシステム
..... 327

フューエルメーター（燃料計）..... 75

フューエルリッド（給油口）
給油のしかた..... 184

冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 248

冬用タイヤ..... 248

プラスサポート..... 234

フリーストップバックドア..... 110

プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能..... 196

PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯
..... 329

ブレーキ

緊急ブレーキシグナル..... 239

パーキングブレーキ..... 173

ブレーキ警告灯..... 328

ブレーキアシスト..... 239

ABS（アンチロックブレーキシステム）&
ブレーキアシスト警告灯..... 329

機能..... 239

ブレーキオーバーライドシステム... 154

ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる
..... 157

フロアマット..... 26

フロントアンダーミラー..... 146

フロントエアコン..... 252, 257

フロントシート..... 118

シートヒーター..... 265

正しい運転姿勢..... 27

調整..... 118

手入れ..... 284

ヘッドレスト..... 120

フロントドア..... 92

フロントフォグランプ

スイッチ..... 179

電球（バルブ）の交換..... 313

フロント方向指示灯..... 172

電球（バルブ）の交換..... 311

方向指示レバー..... 172



平均車速..... 81, 84

平均燃費..... 80, 84

ヘッドランプ..... 174

手動光軸調整ダイヤル..... 176

電球（バルブ）の交換..... 309, 313

ライトセンサー..... 175

ランプ消し忘れ防止機能..... 175

ランプスイッチ..... 179

ヘッドレスト..... 120

ヘルプネット	56
表示灯	64
保守点検	62

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	339
ホイールナットレンチ	341
方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	311, 312
方向指示レバー	172
ホーン（警音器）	134
保証	9
補助ミラー	146
フロントアンダーミラー	146
リヤアンダーミラー	146
ボトルホルダー	272
ボンネット	289
警告ブザー	94

ま

マイセッティング	151
マニュアルエアコン	252
マルチインフォメーションディスプレイ	79
運転支援機能情報表示	81
エコドライブインジケーター	80
オーディオシステム連携	81
警告メッセージ	333
航続可能距離	80
車両情報表示	81
設定	82
走行情報表示	80
時計	78
ドライブインフォメーション	81
燃費グラフ	80
メーター操作スイッチ	79

メニューアイコン	79
----------------	----

み

ミラー

アウターミラー（ドアミラー）	145
インナーミラー	135
デジタルインナーミラー	136
パニティミラー	277
フロントアンダーミラー（補助ミラー）	146
ミラーヒーター	253, 258
リヤアンダーミラー（補助ミラー）	146
リヤカメラウォッシャー	182

め

メーター（計器類）

警告灯	328
警告メッセージ	333

メーター

計器類	75
設定	82
時計	75
表示灯	73
マルチインフォメーションディスプレイ	79
メーター操作スイッチ	79

メカニカルキー	91
メニューアイコン	79
メンテナンスデータ	364

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	373
床下収納	276
雪道ですべて動けない（スタックした）	362
油脂類	364

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	174
電球（バルブ）の交換	313
ランプスイッチ	174
ワット数	371
ラジエーター	
オーバーヒート	360
ランプ	
AHB（オートマチックハイビーム）	177
室内灯	266
スライドアステップランプ	102
電球（バルブ）の交換	309
パーソナルランプ	267
非常点滅灯（ハザードランプ）	319
フロントフォグランプ	179
ヘッドランプ（前照灯）	174
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィンカー）	172
ライトセンサー	175
ランプ消し忘れ防止機能	175
リアルームランプ	267
リヤフォグランプ	179
ワット数	371
ランプ消し忘れ防止機能	175

り

リアルームランプ	267
リヤアンダーミラー	146
リヤウインドウデフォグガー	253, 258
リヤウインドウデフォグガースイッチ	253, 258
リヤクーラー	262
リヤシート	119
シートアレンジ	122
ヘッドレスト	120
リヤヒーター	264

リヤフォグランプ

スイッチ	179
電球（バルブ）の交換	312
ワット数	371

リヤ方向指示灯

電球（バルブ）の交換	312
方向指示レバー	172

る

ルームミラー（インナーミラー）	135, 136
-----------------	----------

れ

冷却水

冬の前の準備	248
--------	-----

冷却装置（ラジエーター）

オーバーヒート	360
---------	-----

レーダークルーズコントロール

接近警報	216
レーダー	191

レーンディパーチャーアラート（LDA）

	203
--	-----

レバー

シフト	169
方向指示	172
ボンネット解除	289
ロック（ドア）	94

ろ

ロードサインアシスト（RSA）

ロック

ウインドウロック	149
シフトロック	170
スマートエントリー&スタートシステム	113
スライドドア	96

チャイルドプロテクター	100
バックドア	105
フロントドア	92
ワイヤレスリモコン	90

わ

ワイパー & ウォッシャー

ウインドシールドデアイサー	253
ウォッシャー液の補充	296
フロント	181
リヤ	182

ワイパブレード（寒冷地用）.....249

ワイヤレスリモコン

作動の合図	92
操作	90
半ドア警告ブザー	93

ワックス.....282

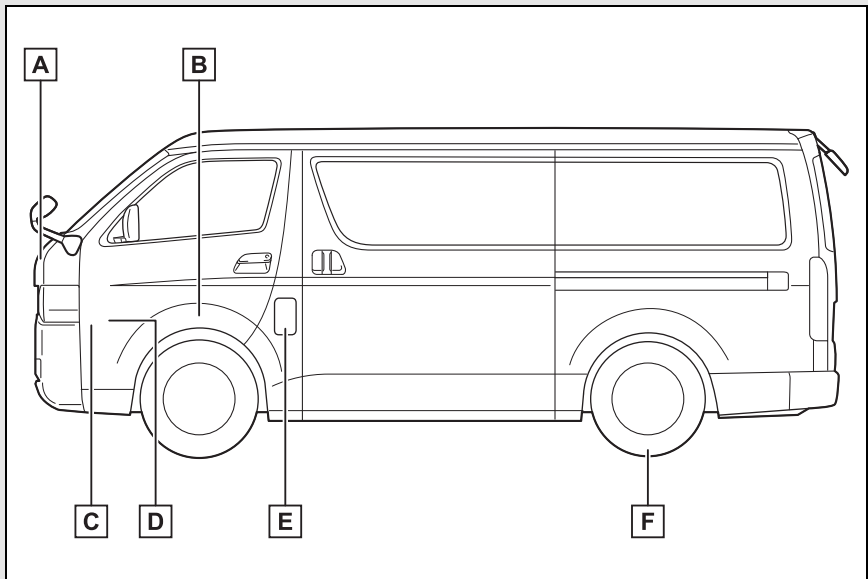
輪止め.....341

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect
- ・ナビゲーションシステム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.289)
- B** エンジン点検口 (→P.287)
- C** ボンネット解除レバー (→P.289)
- D** 給油口オープナー (→P.185)
- E** 給油口 (→P.185)
- F** タイヤ空気圧 (→P.369)

燃料の容量 (参考値)	70L
燃料の種類	P.364
タイヤが冷えているときの空気圧	P.369
エンジンオイル容量 (参考値)	P.364
エンジンオイルの種類	P.364

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

